平成４年度

三重県埋蔵文化財センター年報４

１９９３・３

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

埋蔵文化財の発掘調査により発見された新たな事実は、私たちの歴史に対するロマンをかき立ててくれます。本年度も、県内各地で開催された現地説明会や展示会等を通じて多くの方々に埋蔵文化財保護に対するご理解や興味を深めていただくことができたものと思っております。

この冊子は、三重県内で本年度に実施された各種の発掘調査と当埋蔵文化財センターの事業内容を簡単にまとめたものですが、今後の埋蔵文化財保護と活用の一助として、ご活用いただければ幸いに存じます。

埋蔵文化財を守り、伝えていくことは、次代への大きな課題でありますが、当埋蔵文化財センターでは、あらゆる機会を通して埋蔵文化財の保護・活用に務めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長　久　保　富　子

例　　言

1．この冊子は、平成４年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。

2．Ⅱ．平成４年度緊急発掘調査については、平成４年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査成果および、県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。なお、各遺跡の緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。

3．本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、管理指導課が中心となって行った。

目　　次

Ⅰ．組織及び業務体系 …… 1

Ⅱ．平成４年度緊急発掘調査 …… 4
　1．緊急発掘調査一覧 …… 4
　2．発掘調査の概要 …… 12

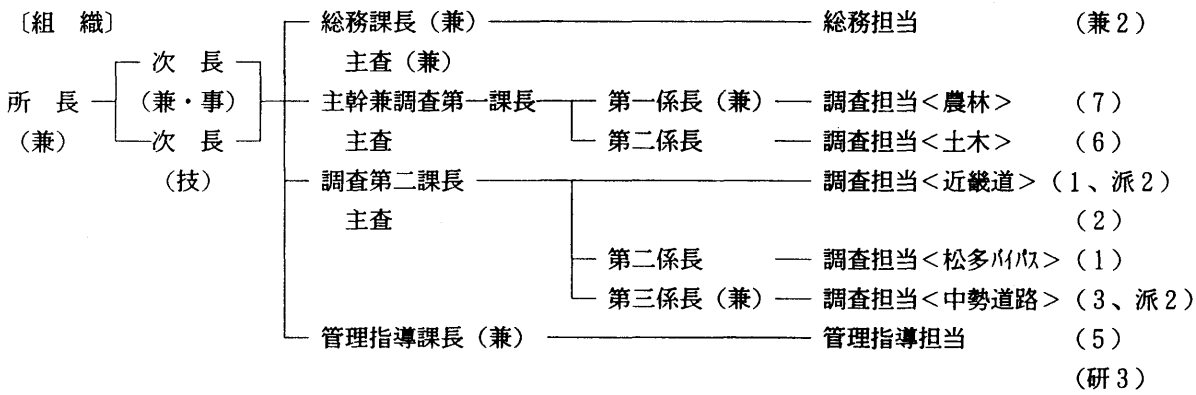
Ⅲ．埋蔵文化財保護体制の充実 …… 84
　1．各種会議 …… 84
　2．埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 85
　3．市町村調査等への指導・協力 …… 88

Ⅳ．資料の整理・保管・公開 …… 92
　1．資料の整理・保管 …… 92
　2．科学的保存処理 …… 93
　3．資料の公開 …… 93
　4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載許可 …… 96

Ⅴ．行政資料 …… 100
　1．埋蔵文化財関係事務処理の迅速・適正化について …… 100
　2．県・市町村別の発掘調査件数および面積の実績 …… 100
　3．埋蔵文化財発掘調査にかかる開発事業等との調整状況記録作成要領 …… 102

《付　編》
　三重県文化財調査員名簿 …… 104

Ⅰ．組織及び業務体系



職員数　４３名　（兼務９名、専任３０名、派遣４名、研修３名）

〔分掌事務〕

総務課

1．公印の管理に関すること
2．職員の身分及び服務に関すること
3．予算及び経理に関すること
4．給与及び旅費等の支給に関すること
5．契約及び入札事務に関すること
6．施設、設備の保守管理に関すること
7．文書の収発に関すること
8．職員の健康、福利厚生に関すること
9．防災管理に関すること
10．その他他課に属さないこと

調査第一課

1．埋蔵文化財保護にかかる文化振興課ならびに関係部局との連絡調整に関すること
2．県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3．市町村埋蔵文化財保護の指導に関すること

調査第二課

1．近畿自動車道に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
2．国道１号亀山バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3．国道23号中勢道路に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
4．国道42号松阪多気バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
5．建設省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関すること

管理指導課

1．遺物収納倉庫の管理に関すること
2．整理済み出土品の収蔵及び保管に関すること
3．遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関すること
4．関係図書等の整理及び保管に関すること
5．遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関すること
6．出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関すること

7．出土品の科学的保存処理に関すること
8．埋蔵文化財展・埋蔵文化財発掘調査速報展に関すること
9．遺跡及び遺物等資料の貸出、掲載許可等に関すること
10．センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関すること
11．埋蔵文化財行政調査等に関すること
12．市町村の埋蔵文化財調査・文化財展等の指導及び協力に関すること
13．埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関すること
14．埋蔵文化財センター内外の各種会議に関すること

〔職員〕

所　長　　久保　富子　（斎宮歴史博物館館長兼務）
次　長（事務）　東谷　　勇　（斎宮歴史博物館次長兼務）
〃　（技術）　山澤　義貴

総務課
　課長　小柳　清　（斎宮歴史博物館兼務）
　主査　池野　加代子（　〃　）
　主事　堀内　稔伸　（　〃　）
　〃　寺前　秀紀　（　〃　）

調査第1課
主幹兼課長伊藤　克幸
　主査　倉田　直純
第1係
　係長　倉田　直純　（主査兼務）
　主事　増田　安生
　〃　吉澤　　良
　〃　森川　常厚
　〃　石川　隆朗
　〃　森川　幸雄
　〃　筒井　正明
　技師　伊藤　裕偉
第2係
　係長　河北　秀実
　主事　清水　正明
　〃　川戸　達也
　〃　高崎　　仁
　〃　上村　安生
　〃　小林　　秀
　〃　浜口　　元

調査第2課
　課長　新田　　洋
　主査　駒田　利治
第1係
　主事　斎藤　直樹
　〃　前川　嘉宏（玉城町から派遣）
　〃　小谷　定男（伊勢市から派遣）
第2係
　係長　田村　陽一
　主事　宇河　雅之
第3係
　係長　駒田　利治（主査兼務）
　主事　本堂　弘之
　〃　小菅　文裕
　〃　山口　　格（津市から派遣）
　〃　中村　光司（津市から派遣）
　技師　穂積　裕昌

管理指導課
　課長　山澤　義貴（次長兼務）
　主事　杉谷　政樹
　〃　福田　哲也
　〃　天野　秀昭
　技師　泉　　雄二
　〃　野口　美幸
　研修生　東　　良樹
　〃　竹田　憲治
　〃　紀平みどり

〔施設〕

三重県埋蔵文化財センター

所在地　多気郡明和町竹川 503番地

TEL　05965-2-1732 ・3800　FAX 05965-2-3724

面積　敷地面積　18,000 ㎡

建築面積　4,537 ㎡

延床面積　5,077 ㎡

構造　鉄筋コンクリート造　1階（1部2階）建

（建物は斎宮歴史博物館と共用）

遺物収納倉庫

桜橋収納倉庫	津市桜橋2丁目126	TEL　0592-27-2465
藤方収納倉庫	津市藤方2283-1	TEL　0592-24-4560
上野収納倉庫	上野市丸之内117	TEL　0595-24-0079

現場整理所

国道42号松阪・多気バイパス整理所　松阪市射和町16-1

TEL　0598-29-4643　FAX 0598-29-4553

国道23号中勢道路整理所　津市納所町字西沢田481

TEL　0592-29-2770　FAX 0592-29-2771

Ⅱ．平成４年度緊急発掘調査

１．緊急発掘調査調査一覧

本年度、当埋蔵文化財センターが実施した発掘調査は85遺跡、約53,800㎡（試掘調査を含む）、斎宮歴史博物館実施分は約4,000 ㎡、市町村教育委員会実施分は102 遺跡、約112,400 ㎡である。これらのほとんどは開発事業に伴う事前の緊急発掘調査であるが、遺跡の解明あるいは保存整備のための調査も、上津部田城跡・城之越遺跡等で実施している。

県（埋蔵文化財センター）担当分　　（※は国費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	原因	費用負担
1	稲生遺跡	鈴鹿市稲生町字稲生山	中勢道路建設	建設省
2	南谷遺跡	〃　〃　字南谷	〃	〃
3	椋本南方遺跡	安芸郡芸濃町大字椋本	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
4	横山遺跡	〃　〃	〃	県農林水産部
5	小谷Ｃ遺跡	津市大里山室町字小谷	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
6	東浦遺跡	〃　〃野田町	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
7	多為遺跡	〃　〃小野田町	〃	県農林水産部
8	古里遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
9	六大Ｂ遺跡	〃　〃窪田町字竹花ほか	中勢道路建設	建設省
10	橋垣内遺跡	〃　〃　〃　字橋垣内ほか	県道改良	県土木部
11	大古曽遺跡	〃一身田大古曽	中勢道路建設	建設省
12	西岡古墳	〃河辺町字西岡	〃	建設省
13	天白遺跡	〃　嬉野町釜生田	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
14	多気遺跡群	一志郡美杉村上多気	国道改良	県土木部
15	池ノ上遺跡	松阪市西黒部町寺浦池ノ上	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
16	西山遺跡 （旧称西黒部）	〃　〃　西山寺浦	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
17	小狐遺跡	〃　〃	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
18	鴻ノ木遺跡	〃　射和町	松阪多気バイパス建設	建設省
19	北野遺跡	多気郡明和町明星、蓑村	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
20	明気窯跡群	〃　多気町相可	松阪多気バイパス建設	建設省
21	世古遺跡	度会郡玉城町世古	県道改良	県土木部
22	蚊山遺跡	〃　〃　岩出	〃	〃
23	麻加江遺跡	〃　度会町麻加江	〃	〃
24	前山遺跡	〃　〃　田間	県営ほ場整備	県農林水産部
25	打越城跡	〃　南勢町伊勢路	県道改良	県土木部
26	波田須城跡	熊野市波田須町	国道改良	〃
27	伊賀国府推定地	上野市外山	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部

28	北城遺跡 （箕升氏館址）	〃　羽根	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
29	川南A遺跡	名賀郡青山町勝地	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
30	向出A遺跡	名張市滝之原	〃	県教育委員会※ 県農林水産部

県（埋蔵文化財センター）担当分試掘

ア	大欠上遺跡	員弁郡大安町梅戸	県営緑農住整備	県農林水産部
イ	六谷遺跡隣接地	三重郡菰野町永井北	県営一般農道	〃
ウ	丸岡遺跡	四日市市西村町	公園	県土木部
エ	沖ノ坂遺跡	鈴鹿市国分町	道路改良	〃
オ	盤城山遺跡	〃　木田町	〃	〃
カ	盤城山古墳群	〃　〃	〃	〃
キ	間瀬口遺跡	〃　徳田町	中勢道路	建設省
ク	高井A遺跡	〃　〃　字高井	〃	〃
ケ	拝原遺跡	〃　御薗町字拝原	道路改良	〃
コ	国分東遺跡	〃　国分町	〃	県土木部
サ	青館跡	亀山市川崎町字青	県営広域農道	県農林水産部
シ	小下遺跡	〃　小下町字道金	道路改良	県土木部
ス	南神山8号墳	安芸郡安濃町南神山	道路改良	〃
セ	前田遺跡	津市大里山室町	県営ほ場整備	県農林水産部
ソ	古川遺跡	〃　〃窪田町	〃	〃
タ	古墳？	〃　〃　〃	〃	〃
チ	一身田小学校庭遺跡	〃　一身田	県道改良	県土木部
ツ	宮崎遺跡	一志郡三雲村中太郎生	県営畜産環境整備	県農林水産部
テ	北瀬古遺跡	〃　嬉野町天花寺	道路改良	県土木部
ト	小松遺跡	〃　美杉村八知	県営畜産環境整備	県農林水産部
ナ	立川遺跡	〃　〃　立川	道路改良	県土木部
ニ	忠助垣内遺跡	〃　〃	〃	〃
ヌ	馬場遺跡	〃　〃　下多気	〃	〃
ネ	柚原遺跡	松阪市柚原町	道路改良	〃
ノ	御堂山遺跡	〃　野々町	松阪・多気バイパス建設	建設省
ハ	鳥墓遺跡	多気郡明和町蓑村	県営ほ場整備	県農林水産部
ヒ	世古遺跡	〃　〃有爾中	道路改良	県土木部
フ	上ノ垣外遺跡	〃　多気町荒蒔・相可	松阪・多気バイパス建設	建設省
ヘ	古墳？	〃　〃　相可	県営農免農道	県農林水産部
ホ	堂ノ前遺跡	〃　〃　牧	県営畜産環境整備	〃
マ	門阪遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
ミ	縄手遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
ム	上出江遺跡	〃　勢和村上出江	道路改良	県土木部
メ	西方寺遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
モ	車川遺跡	〃　〃　車川	県営畜産環境整備	県農林水産部
ヤ	北出遺跡	飯南郡飯南町粥見	道路改良	県土木部
ユ	向村遺跡	度会郡度会町立花	県営ほ場整備	県農林水産部
ヨ	田間遺跡	〃　〃　〃	〃	〃

ラ	植山遺跡	伊勢市植山町	〃	〃
リ	横橋東遺跡	〃　朝熊町	河川改修	県土木部
ル	大畑遺跡	鳥羽市答志町和具	県営漁港関連道	県農林水産部
レ	古墳？	南牟婁郡紀和町平谷	県営農免農道	〃
ロ	川西遺跡	阿山郡伊賀町川西	道路改良	県土木部
ワ	西条Ａ遺跡	上野市西条	県営ほ場整備	県農林水産部
ヲ	塔ノ元遺跡	〃　〃　塔ノ元	〃	〃
ン	山神遺跡	〃　山神	〃	〃
あ	古墳？	〃　西高倉	〃	〃
い	浦木戸遺跡	名賀郡青山町下川原	〃	〃
う	六地蔵Ａ遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
え	〃　Ｂ遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
お	久保遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
か	大平遺跡	名張市滝之原	〃	〃
き	谷垣内遺跡	〃　〃	〃	〃
く	中出遺跡	〃　〃	〃	〃
け	滝之原遺跡	〃　〃	県道改良	県土木部

県（斎宮歴史博物館）担当分

No.	31	斎宮跡※	重要遺跡確認	斎宮歴史博物館	H4.4.8～H5.3.4	3,057㎡

調査次数	調査面積（㎡）	調査期間	地番・地籍	備考
95	1,280	H4.4.8～7.13	明和町斎宮字内山3046他	計画発掘調査
97	627	H4.7.8～9.25	明和町竹川字古里・中垣内	〃
98	1,150	H4.9.28～H5.3.4	明和町斎宮字鍛冶山2745	〃

No.	31	斎宮跡　※	史跡現状変更	明和町	H4.5.25 ～H5.3.31	896.6㎡

調査次数	調査面積（㎡	調査期間	地番・地籍	原因	調査機関
96-1	320	H4.5.25～6.10	明和町斎宮字東加座2374	盛土工事	斎宮歴史博物館
96-2	70	H4.11.24～12.3	明和町斎宮字内山3068-3他	道路拡幅	〃
96-3	120	H4.12.12～H5.1.11	明和町斎宮字古里	個人住宅の新築	〃
96-4	130	H5.2.10～3.11	明和町斎宮字中西	個人住宅の新築	〃
96-5	230	H5.2.15～3.31	明和町斎宮字木葉山	個人住宅の新築	〃
96-6	26.6	H5.3.5～3.31	明和町斎宮字篠林	個人住宅の新築	〃

市町村担当分　　（※は国・県費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
32	天王平尾津平遺跡	桑名郡多度町大字小山	農道拡幅	町教委	町
33	北野遺跡	員弁郡員弁町大字上笠田	高圧鉄塔建設	〃	事業者
34	段遺跡	〃　〃　大字石仏	店舗建設	〃	〃
35	村前遺跡	〃　東員町大字瀬古泉	工場建設	〃	〃
36	西金井遺跡	桑名市西金井字高添ほか	土地改良	市教委	市　※
37	桑部城址	〃　桑部字城下	土砂採取	〃	市
38	縄生廃寺跡	三重郡朝日町大字縄生字中谷	重要遺跡確認調査	町教委	町　※
39	平尾城跡	四日市市平尾町	市道改良事業	市遺跡調査会	土地開発公社
	久留倍遺跡	〃　大矢知町字青木谷	倉庫・住宅建設	市教委	事業者
41	下之宮遺跡	〃　下之宮町字笠木	店舗建設	〃	〃
42	西野山遺跡	〃　南小松町字西野山	工業団地	〃	土地開発公社
43	西野遺跡	〃　〃　西野	〃	〃	〃
44-1	上里遺跡	〃　久保田２丁目	宅地造成	〃	事業者
44-2	〃	〃　〃　〃	〃	〃	〃
45	浜田城跡	〃　鵜の森１丁目	市立茶室建設	〃	市教委
46	平戸山遺跡	〃　西松本町	宅地造成	〃	事業者
47	庚申塚遺跡	〃　生桑町	造成工事	〃	〃
48	芝田遺跡	〃　芝田町１丁目	宅地造成	〃	〃
49-1	北中寺遺跡	〃　石塚町	〃	市遺跡調査会	〃
49-2	〃	〃　〃	〃	〃	〃
49-3	〃	〃　〃	下水道工事	市教委	市
49-4	〃	〃　〃	宅地造成	市遺跡調査会	事業者
50	出城山遺跡	〃　智積町字雨池	鉄塔建設	市教委	〃
51	富塚遺跡	〃　桜町字中長	〃	〃	〃
52	向山遺跡	〃　山田町字向山	土地利用計画	〃	〃
53	西ケ谷遺跡	〃　東坂部町字西ケ谷	住宅団地造成	〃	〃
54	折戸古墳	〃　六名町字東起	工場建設	〃	〃
55	東起古墳	〃　〃　〃	工場建設	〃	〃
56	西ノ野遺跡	鈴鹿市国分町字西ノ野	個人住宅建設	市遺跡調査会	〃
57-1	伊勢国分寺跡	〃　〃　字南浦ほか	範囲確認調査	市教委	市※
57-2	〃	〃　〃　〃	生活排水建設	〃	市
58-1	国分北遺跡	〃　〃　字野田	倉庫建築	〃	事業者
58-2	〃	〃　〃　〃	住宅建設	〃	〃
58-3	〃	〃　〃　字広神戸	鉄工所建設	〃	〃
59	東植松遺跡	〃　〃　東植松	住宅建設	〃	〃
60	間瀬口遺跡	〃　木田町字間瀬口	公園整備	市遺跡調査会	市
61	塚原古墳群	〃　高岡町字塚原	道路建設	〃	〃
62	寺山遺跡	〃　〃　字寺山	〃	〃	〃
63	起Ａ遺跡	〃　飯野寺家町字起	住宅建設	市教委	事業者
64	土師南方遺跡	〃　土師町字六田庄	住宅建設	〃	市
65	神戸中学校遺跡	〃　十宮４丁目	学校グラウンド改良	〃	〃
66	宮ノ前遺跡	〃　十宮町字宮ノ前	住宅建設	〃	事業者
67	中瀬古南遺跡	〃　中瀬古町字西ノ口	住宅建設	〃	市

68	寺谷古墳群	鈴鹿市郡山町字西谷山	大学建設	寺谷古墳群発掘調査団	事業者
69	塚腰遺跡	〃　〃　字塚腰	道路側溝工事	市教委	市
70	一反通遺跡	〃　上野町字一反通	住宅建設	〃	〃
71	四辻経塚	〃　東庄内町字池代	工場建設	〃	事業者
72	北中大野遺跡	〃　三畑町字北中大野	住宅建設	〃	〃
73	奥ノ谷遺跡	〃　上田町字牛飼場	土壌改良	市教委	〃
74	長者屋敷跡	〃　広瀬町字長塚ほか	範囲確認調査	〃	市※
75	矢下3号墳	〃　西富田町	道路改良	〃	市
76	西ノ野遺跡	〃　国府町字西ノ野	住宅建設	市教委	〃
77	柴戸遺跡	亀山市川合町字柴野	宅地造成	市教委	事業者
78	東樺野遺跡	〃　菅内町字東樺野	国道改良	〃	県土木部
79	忍山遺跡	〃　野村町字忍山	道路建設	〃	市
80	大垣内遺跡	〃　山下町字大垣内	宅地造成	〃	事業者
81	宮ノ裏遺跡	安芸郡安濃町大字内多字宮ノ裏	工場建設	町遺跡調査会	〃
82	山添遺跡	〃　〃　大字清水字山添	宅地造成	町教委	〃
83	ツヅミ遺跡	〃　〃　大字東観音寺字ツヅミ	土取り	町遺跡調査会	事業者
84	多倉田遺跡	〃　〃　大字村主字多倉田	宅地造成	〃	〃
85	上津部田城址	津市一身田上津部田	史跡公園整備	市教委	市
86	平木遺跡	〃半田	県道改良	〃	県土木部
87	四ツ野遺跡	〃高茶屋小森町	工場建設	〃	事業者
88	久居城址	久居市万町	道路新設	〃	※県受託
89	戸木遺跡	〃　戸木町字桃里	市営住宅新築	〃	市
90	庄田1号墳	〃　庄田町字貝下	宅地開発	〃	市開発公社
91	赤坂遺跡	〃　木造町字赤坂	県営農道整備	〃	※県受託
92	薬師谷古墳群	一志郡一志町大字八太	ゴルフ場造成	町教委	事業者
93	片野遺跡（第5次）	〃　〃　大字片野	町道建設	〃	町
94	笹遺跡	〃　〃　大字井生	道路建設	〃	事業者
95	下之庄東方遺跡（南浦地区）	〃　嬉野町中川字南浦	区画整理	町教委	区画整理組合
96	中川駅前遺跡群（片部遺跡他）	〃　〃　中川字片部	区画整理	〃	〃
97	一志廃寺・天保遺跡	〃　〃	道路新設	〃	町
98	まんじゅう山古墳群	〃　〃　滝之川	ゴルフ場建設	〃	事業者
99	北畠氏館跡庭園	一志郡美杉村上多気	現状変更	村教委	〃
100	安田遺跡	松阪市六根町	砂利採取	市教委	〃
101	白山古墳群	〃　丹生寺町	団地造成	〃	〃
102	口南戸遺跡	〃　立野町口南戸	市道改良工事	〃	市
103	黒角遺跡	〃　山室町黒角	〃	〃	〃
104	露越遺跡	多気郡明和町大字竹川字露越ほか	町コミュニティセンター建設	町教委	町
105	馬渡遺跡	〃　〃　〃　字馬渡	町水源地建設	〃	〃
106	堀田遺跡	〃　〃　大字有爾中字堀田	住宅建設	〃	〃
107	世古D遺跡	〃　〃　大字池村字世古	共同住宅造成	〃	〃
108	明気古墳群	〃　多気町大字相可字明気	住宅団地造成	〃	事業者
109	倉懸古墳群	〃　〃　大字五佐奈字倉懸	工業団地造成	〃	町
110	八端窯跡	度会郡玉城町長更地内	公園造成	〃	〃
111	矢塚古墳群	〃　〃　宮古字谷口	工場敷地造成	〃	事業者
112	安養寺跡	〃　二見町溝口割石	宅地造成	町文化財調査会	〃

113	豆石山経塚1号	度会郡二見町溝口豆石山	宅地造成	町文化財調査会	事業者
114	豆石山経塚2号	〃 〃 〃 〃	〃	〃	〃
115	豆石山中世墓	〃 〃 〃 〃	〃	〃	〃
116	五峰山2号墳	〃 〃 山田原五峰山	〃	〃	〃
117	向谷古墳群	伊勢市朝熊町字向谷	ゴルフ練習場建設	市教委	〃
118	福地城跡	阿山郡伊賀町大字柘植町字浦出	緊急発掘調査	町教委	町※
119	菰池2号墳	〃 〃 大字愛田字菰池	ゴルフ場建設	町遺跡調査会	事業者
120	大多田遺跡	上野市佐那具町字大多田	工業団地造成	市遺跡調査会	〃
121	小芝遺跡	〃 服部町字小芝	倉庫造成	〃	事業者
122	西明寺遺跡	〃 西明寺	公園整備事業	市遺跡調査会	市
123	旧崇広堂	〃 丸之内	保存修理工事	市教委	市※
124-1	上野城跡	〃 〃	俳聖殿電源ｹｰﾌﾞﾙ埋設	市遺跡調査会	事業者
124-2	〃	〃 〃	浄化槽建設等	〃	市
125	西蓮寺中・近世墓	〃 長田字垣内	墓地整備	〃	事業者
126	内屋敷遺跡	〃 朝昼	農業集落排水事業	〃	市
127	榎並氏館跡	〃 〃	〃	〃	〃
128	十王下遺跡	〃 長田	〃	〃	〃
129-1	下郡遺跡	〃 下郡下代77-1ほか	市民会館駐車場整備	〃	〃
129-2	〃	〃 〃 〃 85-3ほか	ｺﾐｭﾆﾃｨ広場整備事業	〃	〃
130	城之越遺跡	〃 比土字城之越	遺跡保存整備事業	市教委	市※
131	玉塚古墳	名張市美旗町中一番	住宅用地造成	市遺跡調査会	事業者
132	下川原遺跡	〃 夏見浅尾	店舗用地造成	〃	〃
133	琴平山古墳	〃 赤目町壇字横山	宅地造成	〃	〃

1. 津　市
2. 四日市市
3. 伊勢市
4. 松阪市
5. 桑名市
6. 上野市
7. 鈴鹿市
8. 名張市
9. 尾鷲市
10. 亀山市
11. 鳥羽市
12. 熊野市
13. 久居市
14. 多度町
15. 長島町
16. 木曽岬町
17. 北勢町
18. 員弁町
19. 大安町
20. 東員町
21. 藤原町
22. 菰野町
23. 楠　町
24. 朝日町
25. 川越町
26. 関　町
27. 河芸町
28. 芸濃町
29. 美里村
30. 安濃町
31. 香良洲町
32. 一志町
33. 白山町
34. 嬉野町
35. 美杉村
36. 三雲町
37. 飯南町
38. 飯高町
39. 多気町
40. 明和町
41. 大台町
42. 勢和村
43. 宮川村
44. 玉城町
45. 二見町
46. 小俣町
47. 南勢町
48. 南島町
49. 大宮町
50. 紀勢町
51. 御薗村
52. 大内山村
53. 度会町
54. 伊賀町
55. 島ヶ原村
56. 阿山町
57. 大山田村
58. 青山町
59. 浜島町
60. 大王町
61. 志摩町
62. 阿児町
63. 磯部町
64. 紀伊長島町
65. 海山町
66. 御浜町
67. 紀宝町
68. 紀和町
69. 鵜殿村

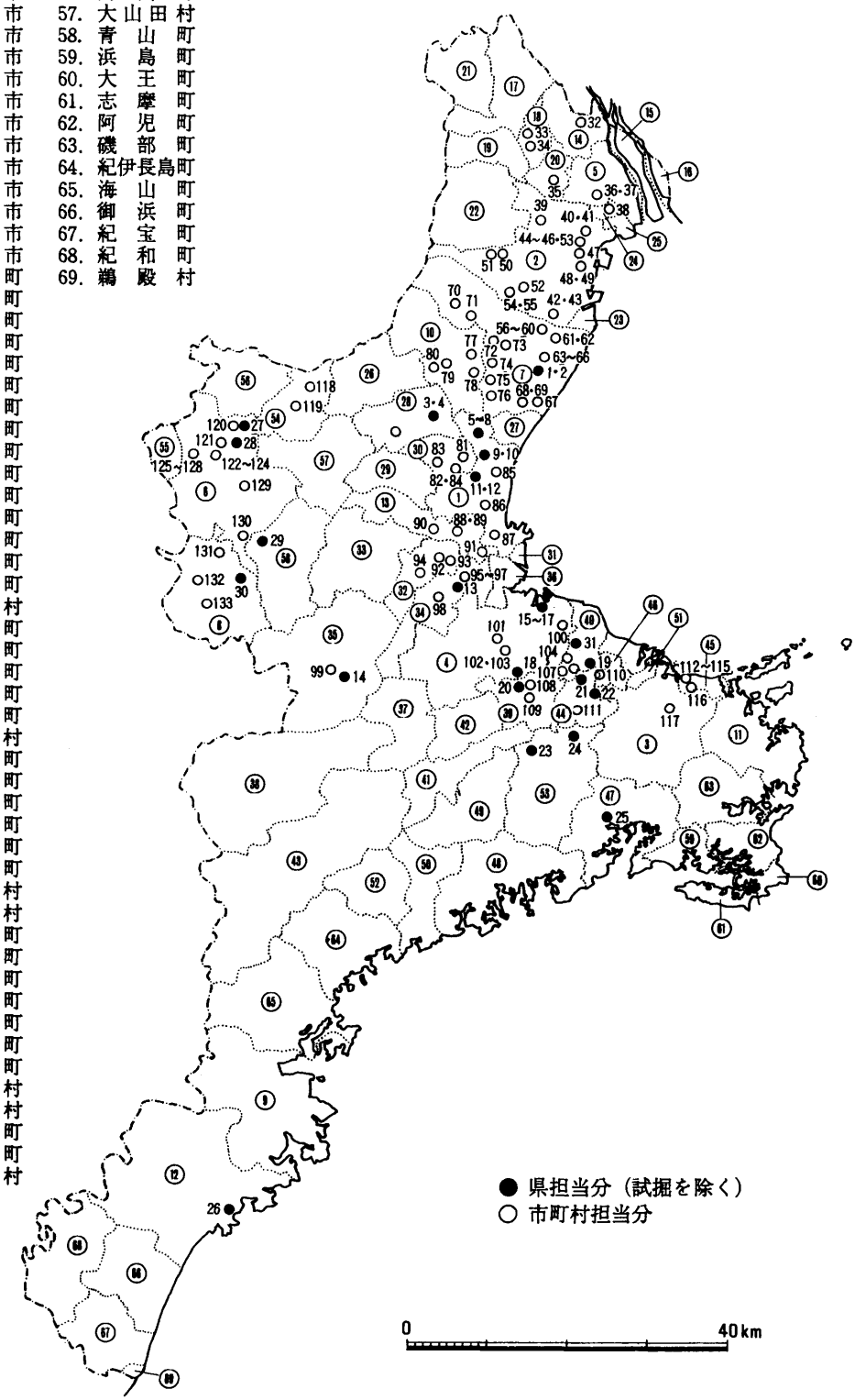


図1　平成4年度三重県内発掘調査遺跡位置図

2．　発掘調査の概要

No.	1	遺跡名	稲生遺跡	所在地	鈴鹿市稲生町字稲生山
調査原因		一般国道23号線中勢道路建設		事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H4.4.13～7.4
調査面積		2,100㎡		担当者	本堂弘之・小菅文裕・穂積裕昌

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
今は消滅した稲生古窯跡群（全3基）独立丘陵の西側斜面に立地する。南西へ約1㎞離れた小さな丘陵を棟古墳時代後期の竪穴住居で、遺構は、南側に31棟、北側に2棟確認された。竪穴住居には、側壁は良好で一部にはガラス玉）を含む多数の石製品が判明している。 現在の集落跡は、5C末～6C初頭に開始した微妙に遡る可能性を形成期が多いが、当該時期に遺跡は形成されている。	・竪穴住居33棟 ・大溝1条 ・土坑・溝　若干	・須恵器 ・土師器 ・有孔円盤 ・滑石製の勾玉、及び臼玉 ・ガラス小玉 ・石製、及び土製紡錘車 ・鎌片等の鉄製品 ・石鏃

関連文献	

No.	2	遺跡名	南谷遺跡	所在地	鈴鹿市稲生町字南谷
調査原因		一般国道23号線中勢道路建設		事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H4.4.13～6.6
調査面積		1,300㎡		担当者	本堂弘之・小菅文裕

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高34m、平地からの比高約25mの丘陵尾根上に住居があり、集落を外敵から守るように竪穴住居と溝が3条、尾根を切断した。 溝の1条から弥生時代後期前半の土器と共に、有茎腸抉三角形式の鉄鏃2点が出土した。	・竪穴住居1棟 （建て替え1回） ・土坑1基 ・溝3条	○弥生時代後期 ・壺、甕、高杯 ・鉄鏃2点 ・石鏃1点

関連文献	・『中勢道路調査ニュースNO.17』（三重県埋蔵文化財センター1992） ・『南谷遺跡』（鈴鹿市教育委員会1992）

No.	3	遺跡名	椋本南方遺跡	所在地	安芸郡芸濃町大字椋本
調査原因		県営ほ場整備事業		事業主体	県農林水産部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H4.12.2～12.25
調査面積		730㎡		担当者	石川隆郎・浜口元

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高54m前後の低段A～F地区に位置し、安濃川左岸のつ排水路部分にあたる。 平安時代末～鎌倉時代の遺構、遺物は、鎌倉時代に代表される。 代表的な遺構は、中世の特徴的な遺構である。 検出した井戸は、石組の前期の遺構が、 テンバコ底部は、鎌倉時代の箱分の墨書が ある。「上」、「大」等の 6点出土した。	・掘立柱建物2棟 ・溝12条 ・井戸1基 ・土坑20基 ・土坑墓1基	・土師器 （皿、鍋、羽釜） ・山茶椀 ・山皿 ・瓦器椀 ・青磁

関連文献	

No.	4	遺跡名	横山遺跡（立会）	所在地	安芸郡芸濃町椋本
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.10.5
調査面積	200㎡			担当者	清水正明・小林秀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
なし	なし	なし

関連文献	

No.	5	遺跡名	小谷C遺跡	所在地	津市大里山室町字小谷
調査原因	県営ほ場整備事業－大里地区			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.6.25～7.28
調査面積	750㎡			担当者	清水正明・小林　秀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
津市大里地区に広がる丘陵の西端部に位置する。飛鳥時代～平安時代の集落の一部分を確認した。	○飛鳥時代 ・土坑1基 ○奈良時代 ・竪穴住居4棟 ○平安時代 ・掘立柱建物1棟	○縄文時代 ・深鉢（早期末・中期末） ・石斧、スクレーパー ○飛鳥時代 ・須恵器（杯） ○奈良時代 ・土師器（杯・皿・甕・甑） ・須恵器（杯） ○鎌倉時代 ・山皿

関連文献	

No.	6	遺跡名	東浦遺跡	所在地	津市大里野田町
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.5.11～7.11
調査面積	2,000㎡			担当者	小林秀・清水正明

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
津市大里地区の丘陵部東端に位置する。 調査の結果、古墳時代前期の住居を中心とした遺跡であることがわかった。また、遺構は検出できなかったが、旧石器～縄文草創期頃と思われる木葉形尖頭器が出土した。	○縄文時代 ・土坑数基 ○古墳時代 ・竪穴住居11棟 ○奈良時代～平安時代 ・竪穴住居1棟 ・掘立柱建物5棟 ○中世 ・掘立柱建物2棟 ・墓坑1基	・木葉形尖頭器 ・縄文土器 ・土師器 〔小型丸底壺 二重口縁壺など〕 ・須恵器

関連文献	

No.	7	遺跡名	多為遺跡（立会）	所在地	津市大里小野田町
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.9.16～9.17
調査面積	70㎡			担当者	小林秀・清水正明

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
式内社多為神社の参道のすぐ脇に位置する。 僅かな調査面積であったが、密度は高く、周辺部に良好な遺跡が広がっていることがわかった。	○弥生～奈良時代 ・竪穴住居4棟	・土師器 （杯、甕など）

関連文献	

No.	8	遺跡名	古里遺跡（立会）	所在地	津市大里小野田町
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.9.17～10.1
調査面積	950㎡			担当者	石川隆郎・清水正明

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査区を北からA～Dの4地区に分けた。 基本層序は、上から耕土(20～30㎝)、暗褐色土（20～30㎝）、黄灰色土（地山）となるが、B地区の北側とC地区の東側は青灰色粘土であり、この地区には遺構がなかった。出土遺物は、全体でテンバコ1箱分であり、その大半がA地区からのものである。出土遺物から奈良時代と室町後期の遺跡と思われる。	・溝4条 ・土坑4基	・須恵器（杯） ・土師器（皿、鍋）

関連文献	

No.	9	遺跡名	六大B遺跡Ⅰ地区	所在地	津市大里窪田町字竹花ほか
調査原因	一般国道23号線中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県教育委員会			調査期間	H4.9.28～12.26
調査面積	3,350㎡			担当者	本堂弘之・小菅文裕・山口格・中村光司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
津市の主要河川、志登茂川の南側の河岸段丘上に立地。遺跡北端は伊勢別街道に接する。 本調査は平成2年度からの継続で、これまでに70棟以上の飛鳥～鎌倉時代の掘立柱建物を検出。特に平安時代の建物群の配置には規則性が認められ、下級官衙の可能性も指摘されている。 平城宮出土木簡の「久善多里」に当たるとされる地域でもある。	・掘立柱建物7棟 ・井戸5基 ・土坑 ・溝	・木簡 ・灰釉陶器 ・黒色土器 ・山茶椀 ・曲物、鎌柄、鞘、漆塗椀などの木製品

関連文献	

No.	10	遺跡名	橋垣内遺跡	所在地	津市大里窪田町字橋垣内他
調査原因	県道津関線道路改良事業			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.8.17 ～ H5.1.30
調査面積	4,000 ㎡			担当者	川戸達也・紀平みどり

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
毛無川の氾濫原の下位段丘に位置する。ABCの3地区に分けて調査を行い、弥生時代から室町時代の遺構を確認する事ができた。 〔A地区〕 2本の旧河道を検出したが遺物は少ない。僅かに削平を免れた包含層出土の遺物から考えれば奈良時代のかと思われる。 〔B地区〕 遺構は縄文時代と古墳時代の旧河道である。前者は上層から僅かな縄文土器片が出土した程であるが、後者は農具や祭祀遺物が多量に出土し、水辺の祭祀を考え注目される。資料が得られた事は貴重である。 大量の木製品が出土した層は、TK23・47前後の時期と考えられる。 〔C地区〕 18棟以上の建物跡が推定され、中世道路の調査で検出された掘立柱建物群の広がりを考える資料が得られた。その他、中世の井戸が検出されている。	〔A地区〕 ・旧河道2本 古墳～奈良時代 〔B地区〕 ・旧河道2本 縄文時代・古墳時代 〔C地区〕 ・掘立柱建物18棟 古墳～奈良時代 ・井戸2基 奈良時代・室町時代 ・その他土坑・溝等	〔A地区〕 ・須恵器（杯・杯蓋） ・木器（馬鍬） 〔B地区〕 ○土器類 ・縄文土器片 ・弥生土器 ・土師器・須恵器 ・手づくね土器 ○玉類　・臼玉・ガラス玉 ○木器類 ・農耕具（鍬・鋤等） ・等紡績具（紡錘車・カセ ・建築部材（柱・板材） ・祭祀用具（刀形・杖形） ○その他 ・道具類（案・杵・槌等） ○植物遺体 ・瓢簞・桃の種等 〔C地区〕 ・須恵器片・土師器片 ・山茶椀 ・木製井戸枠

関連文献	『一般国道23号中勢道路　埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ～Ⅳ』 （三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1990～1992）

No.	11	遺跡名	大古曽遺跡－A地区	所在地	津市一身田大古曽
調査原因	一般国道23号線中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.9.7～9.18
調査面積	240㎡			担当者	穂積裕昌

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大古曽遺跡の中でも最も北寄りに所在し、北接する橋垣内遺跡の南辺部を占める。 遺構、遺物とも目立ったものはなく、地形的にも北側の橋垣内遺跡に対して若干の谷地形を呈しているような状況であった。	・溝2条	・山茶椀 ・土師器 ・陶器

関連文献	

No.	12	遺跡名	西岡古墳	所在地	津市河辺町字西岡
調査原因	一般国道23号線中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県教育委員会			調査期間	H4.8.3 ～ 10.17
調査面積	2,000㎡			担当者	山口格・中村光司

遺跡の概要

標高約47mの丘陵頂部に位置する方墳で、北東側にのびる尾根を切る形で溝が堀り切られ、墳形の一辺を形作っている。一辺約13mの方墳と考えられるが西側が大きく攪乱されており、盛土の流出は大きいものと考えられる。溝には鉄製農工具がセットで出土し、何らかの周溝内祭祀を親わせる。鉄剣2口は墳頂部で切先方向を逆にして、ほぼ同じレベルでの出土である。主体部は墳頂部で3×1mの炭土の範囲を検出したが、断定できない。現在検討中である。丘陵頂部以外にも古墳状の高まりが認められたが、自然地形と判明。西岡古墳は単独墳と考えられる。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
西岡古墳	方	13m	（検討中）	墳丘 ・鉄剣2口 ・埴輪片 溝 ・鉄製農工具 U字形鋤先 斧・鎌2 鉈 ・埴輪片 攪乱 ・埴輪片 ・近世陶磁器他	5C末 ～ 6C初	

関連文献　『一般国道23号中勢道路　埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1992）

No.	13	遺跡名	天白遺跡	所在地	一志郡嬉野町釜生田
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.7.29～5.1.19
調査面積	5,490 ㎡			担当者	森川常厚・竹田憲治・森川幸雄

遺跡の概要

中村川左岸の標高27～29mの低地段丘上に位置する。調査は、A地区（1,700㎡）、A地区範囲確認（560㎡）、B地区（400㎡）、C地区（800㎡）、D地区（2,030㎡）に分けて実施した。

〔A地区〕縄文時代後期後半の配石遺構・埋設土器を多数検出した。出土遺物も多く、整理箱に1,000箱以上を数える。範囲確認調査の結果、この時期の遺構・遺物は東西約90m、南北60m以上の広がりをもつ。

他に弥生時代中期後半の方形周溝墓、鎌倉時代の大溝がある。

〔B地区〕表土下60cmの黒色土上面で遺構検出を行った。しかし遺構の残存は劣悪で、竪穴住居は痕跡程度である。

〔C地区〕表土下40cmの黄色砂質土上面で遺構検出を行った。中世を中心とした集落跡の縁辺部と考えられる。

〔D地区〕C地区と同様な状況であるが、遺構密度は希薄である。

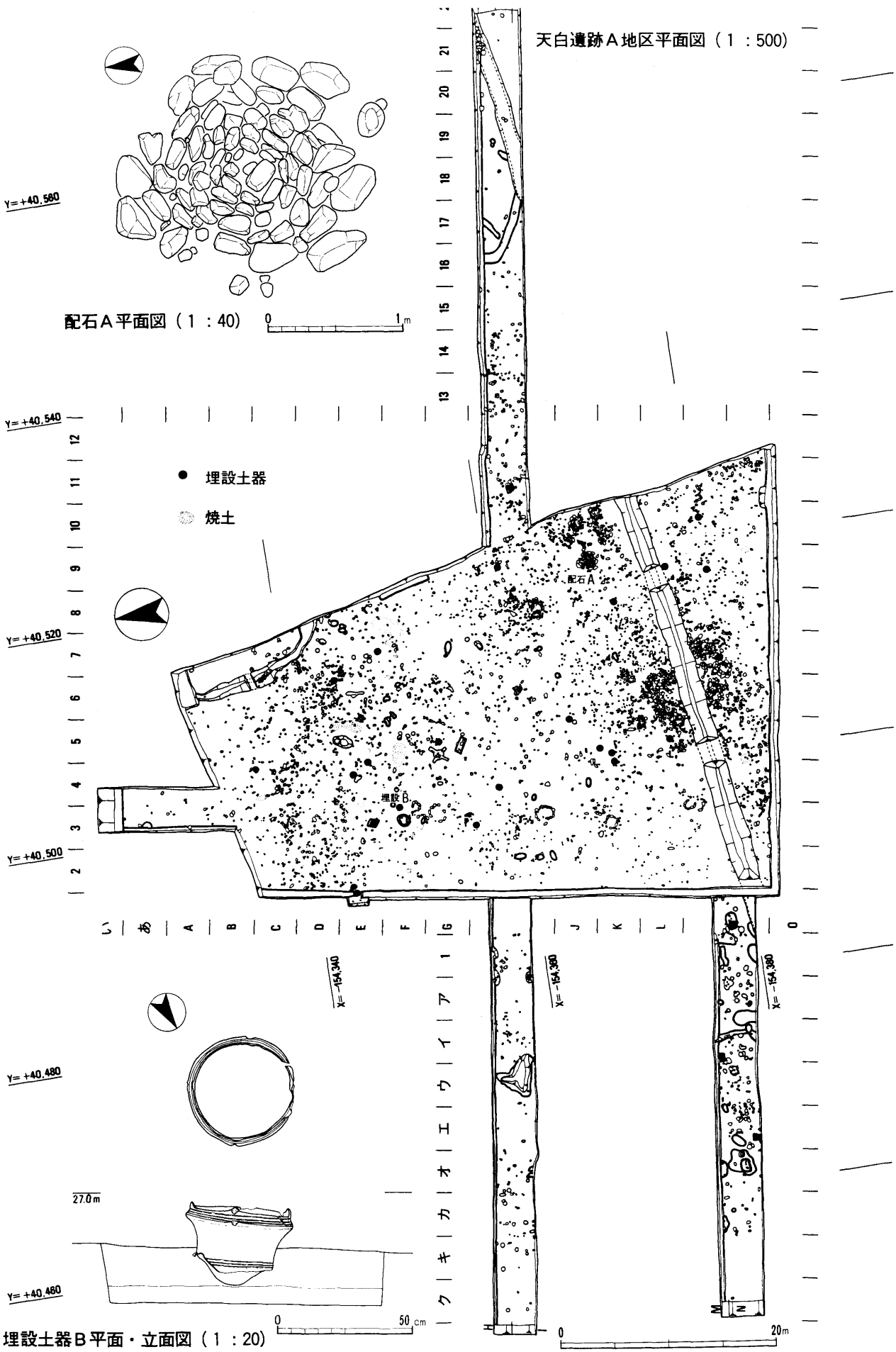
主な遺構

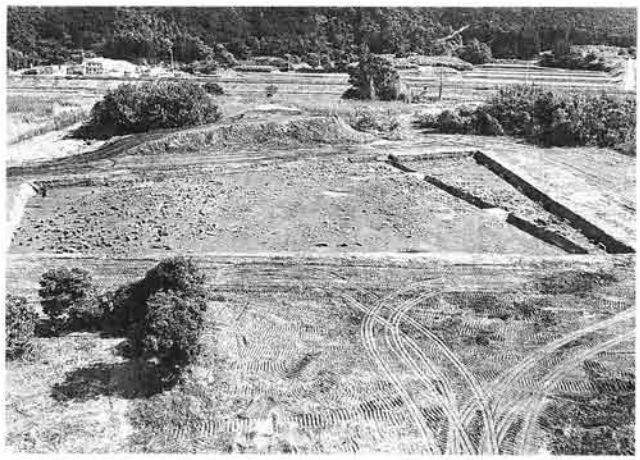
〔A地区〕
○縄文時代後期後半
・石組炉1基
・配石遺構37基以上
・埋設土器27基
○弥生時代中期後半
・方形周溝墓2基
○鎌倉時代
・大溝1条
〔B地区〕
○飛鳥、奈良時代
・竪穴住居3棟
〔C地区〕
○奈良時代
・竪穴住居1棟
○鎌倉時代
・大溝1条（A地区からD地区まで貫く）
○室町時代
・区画溝
〔D地区〕
○室町時代
・掘立柱建物3棟
・石組井戸1基

主な遺物

〔A地区〕
・縄文土器
・土偶　・土製勾玉
・土玉　・土製仮面？
・岩偶　・石棒
・石剣　・石刀
・ヒスイ製臼玉
・石鏃　・石錐
・スクレイパー
・石匙　・楔形
・磨製石斧
・打製石斧
・石錘　・磨石
・敲石　・凹石
・砥石　・弥生土器
〔B地区〕
・縄文土器
・須恵器（杯）
・土師器（椀、甕）
〔C地区〕
・弥生土器（壺）
・土師器（鍋、皿）
・瓦　・山茶椀
〔D地区〕
C地区と同じ

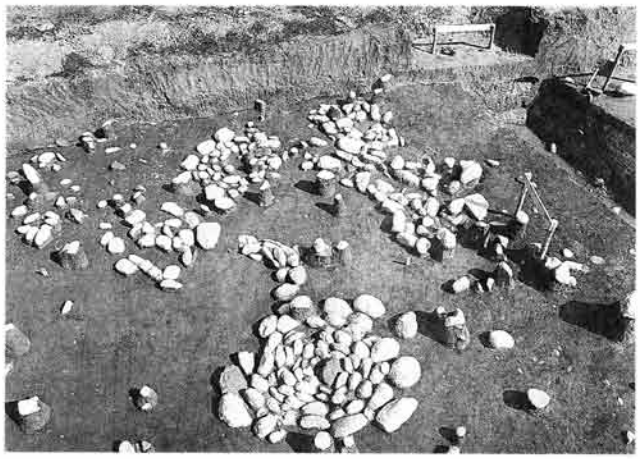
関連文献


天白遺跡Ａ地区平面図（１：500）
配石Ａ平面図（１：40）
埋設土器Ｂ平面・立面図（１：20）
埋設土器
焼土
配石Ａ
埋設Ｂ
Y=+40,560
Y=+40,540
Y=+40,520
Y=+40,500
Y=+40,480
Y=+40,460
X=-154,340
X=-154,360
X=-154,380
27.0m
0
1m
50cm
20m

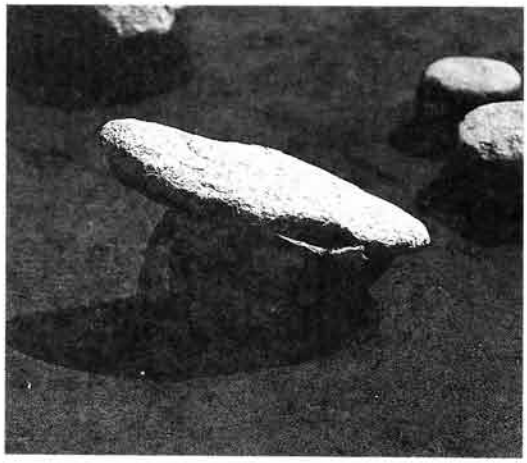


天白遺跡Ａ地区調査区全景（西から）

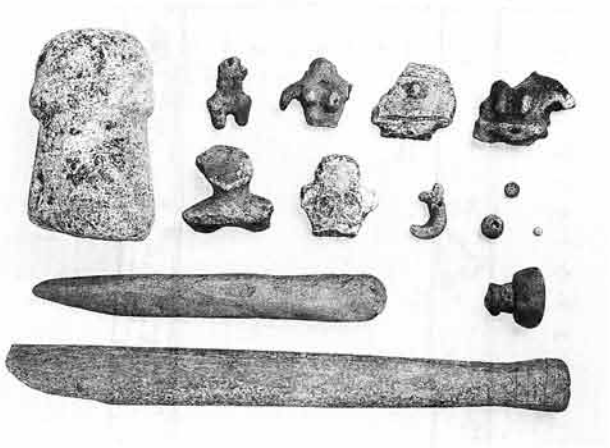
配石遺構



配石遺構



埋設土器



出土遺物（石棒・石剣・石刀・土偶・玉類）

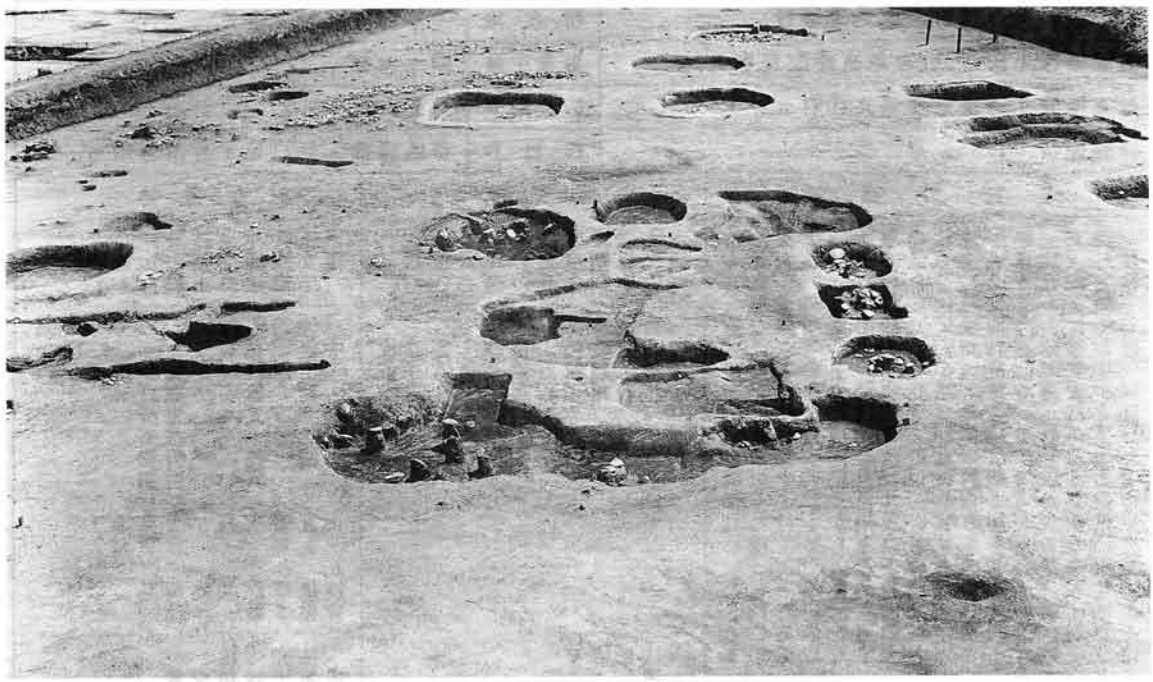
出土縄文土器

No.	14	遺跡名	多気遺跡群	所在地	一志郡美杉村上多気
調査原因	国道368号線道路改良事業			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.5.15～8.27
調査面積	1,850 ㎡			担当者	伊藤裕偉・浜口元・竹田憲治

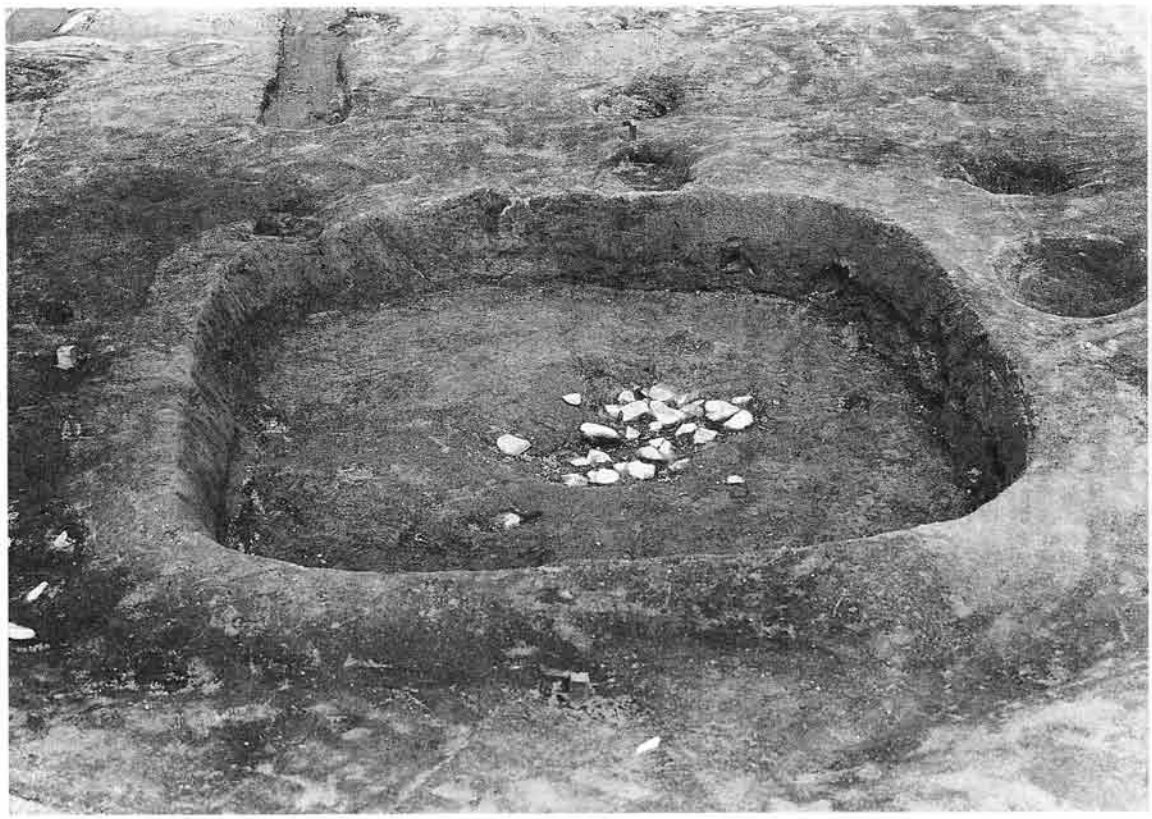
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
縄文～弥生時代の遺跡（土井沖遺跡）、北畠氏・多気の遺跡（大蓮寺跡・法光寺跡）を含む。 縄文～弥生時代にかけての遺跡としては、当地域では初めて明確な遺跡が確認された。 中世の北畠氏の時期のものとしては、大蓮寺跡・法光寺跡の存在が確認された。この2寺院は近世絵図には描かれているが、発掘調査によって明らかになったのは今回が初めてである。時期的には15世紀前半以降の建立と考えられ、北畠氏による拠点整備がかなり古い段階から行われていることを示すものとして、極めて興味深いものといえる。 なお、当地には比較的整然とした土地区画が今日の水田に認められ、それが15世紀前半代の建物の方位とほぼ一致することも大きな成果であるといえる。	〈土井沖遺跡〉 縄文後期中葉の竪穴住居 弥生中期中葉の溝 〈大蓮寺跡〉 礎石建物・工房跡・掘立柱建物・竈状石組・横穴式石室状石組・石列 〈法光寺〉 土壙	〈土井沖遺跡〉 縄文後期中葉の土器群 （小形注口土器ほか） 〈大蓮寺跡〉 中世土器類 ・土師器……南伊勢系 ・陶　器……瀬戸 常滑 信楽 ・磁　器……青磁 白磁 染付 ・瓦質土器…大和産？ ・瓦器……伊賀型？ 瓦 鉄鍋ほかの鉄製品 貨幣多数 〈法光寺跡〉 中世土器類少量 瓦
関連文献		

No.	15	遺跡名	池ノ上遺跡	所在地	松阪市西黒部町寺浦池ノ上
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.7.1～10.13
調査面積	1,700㎡			担当者	増田安生・浜口元

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
池ノ上遺跡は松阪市西黒部町寺浦池ノ上に所在する。現況は標高1m前後の畑地である。『澤氏古文書』に飯高郡飯野郡条里図があり、黒部浜に大塩浜が描いてある。また塩竈公事のことが記載されている。また郷土史家、西山傳左衛氏の『黒部村史』に、池ノ上窯、今釜、西釜などの図が描かれている。分布調査時にこれらを参照した。 鹹水槽16基のうち、12基は東西約21m、南北約7.5m間隔に整然と配置されている。その中央の東西9.5m×南北2.7mを釜屋の建物空間と考えている。来跡された宇野隆夫氏のご教示により、この建物の南辺内側にある三連の小鹹水槽は、にがり抜き用のものとされ、2つの焼土坑は塩竈と推定している。時期は16世紀代と考えている。	・鹹水槽16基 （1辺2.3～3.0mの方形 深0.7m） ・小鹹水槽 ・焼土坑	○室町時代後期 ・土師器（鍋・皿） ・五輪塔（地輪） ・天目茶椀 ○明治時代 ・磁器 ・印刷絵椀
関連文献	『松阪市史　資料編　考古』（松阪市史編纂委員会　1978） 『澤氏古文書』	



池ノ上遺跡主要遺構（西から）



鹹水槽

No.	16	遺跡名	西山遺跡（旧称西黒部）	所在地	松阪市西黒部町西山寺浦
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H 4.9.1 ～ 10.12
調査面積	1,800㎡			担当者	増田安生・浜口元

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
西山遺跡は、西黒部町西蓮寺の北約140mにある畑地に所在し、標高は1m前後である。当遺跡は『松阪市史』に紹介されており、5,000㎡の規模で、古墳時代末期から奈良時代にかけての土師器甕が表採されている。 海浜部の集落跡であり、古墳時代後期の竪穴住居2棟が検出されたことは、佐久米古墳群の関連で注目される。また、江戸時代末～明治時代の井戸、土坑は、西蓮寺の北端として注目される。	○古墳時代後期 ・竪穴住居2棟 〈竪穴住居1〉 東西3.6m×南北3.7m 深13cm 〈竪穴住居2〉 東西4.4m×南北4.3m 深23cm ・土坑 直径1～2m 不整形な円形 ○平安時代末期 ・土坑 ・井戸 （東西辺1.4m×南北辺1.4m・深0.8m）	○弥生時代 ・甕片 ○古墳時代末期 ・土師器（甕・甑・把手付き甕・杯身・杯蓋） ・須恵器（甕・杯） ○奈良時代 ・土師器（皿・甕） ○平安時代 ・土師器（皿・鍋・山茶椀） ○室町時代 ・土師器（鍋・皿） ○江戸時代 ・土師器（皿・鍋） ・瀬戸美濃産陶器皿 ・常滑産甕・壺 ・くらわんか椀・皿 ・備前産磁器鉛釉皿 ○明治時代 ・瀬戸美濃産陶器皿 ・磁器椀 ・皿　・急須

関連文献	『松阪市史　資料編　考古』（松阪市史編纂委員会　1978）

No.	17	遺跡名	小狐遺跡	所在地	松阪市西黒部町
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H 4.9.28～12.3
調査面積	1,100㎡			担当者	浜口　元・増田　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
小狐遺跡は櫛田川河口の沖積低地上に位置する。 調査の結果、中世から近世にかけての製塩跡の遺構を確認したが、遺物が少なく詳細な時代決定は不可能である。 周囲に粘土を貼りつけた土坑は一辺が2～4mの隅丸方形～長方形で15～40cm程の粘土を貼りつけてあるこれは、鹹水漕であると考えられる小形の粘土坑（直径1m程度の円形）も見つかっているが、その用途は不明である。	・粘土坑　21基 ・小粘土坑　23基 ・溝　5条	・土師器 （鍋、皿、茶釜） ・青磁椀 ・近世陶器（甕） ・五輪塔

関連文献	

No.	18	遺跡名	鴻ノ木遺跡（第３次調査）	所在地	松阪市射和町
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.5.8 ～ 8.28
調査面積	3,500㎡			担当者	田村陽一・宇河雅之

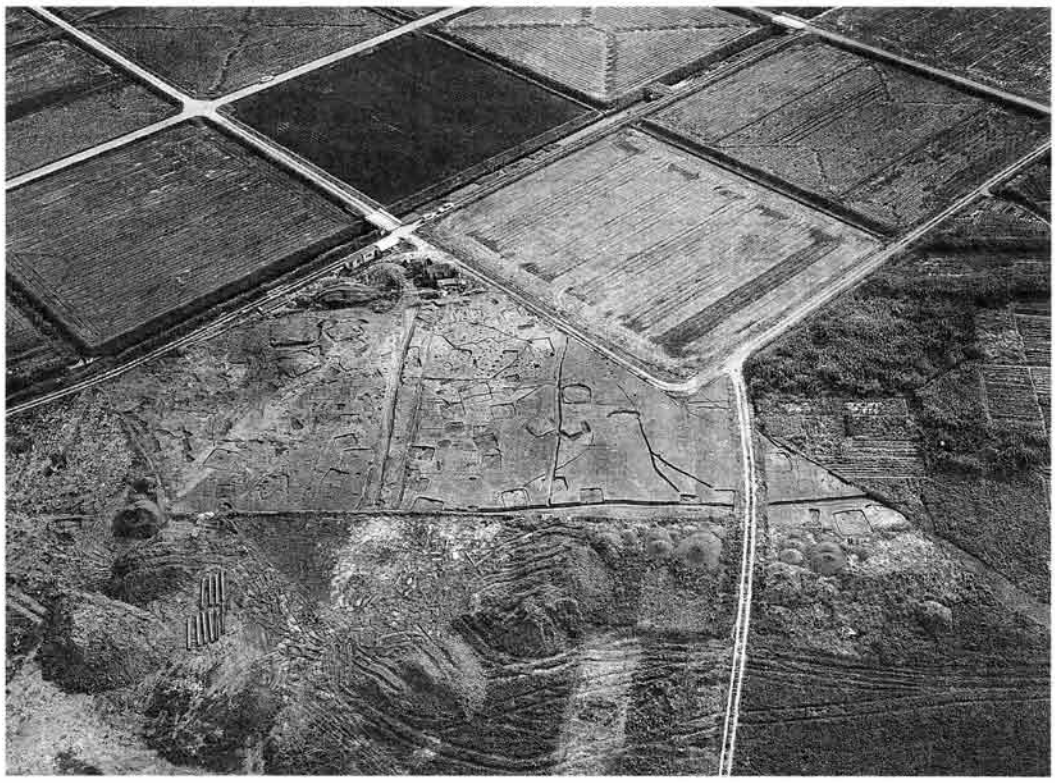
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
櫛田川左岸の自然堤防と県道御麻生薗豊原線に挟まれた水田に位置する。 南に向かって伸びる傾斜面に立地し、調査区等を、西側で土坑・溝・柱穴・落ち込み西側でまた東側からは北かから南に向かって蛇行しながら流れる旧河道（幅２～３ｍ）をそれぞれ検出した。 これらは平安後期から鎌倉にかけてのものであり、一部に室町～江戸に下る遺構も検出されず、集落の縁辺部に相当することが明らかとなった。	・旧河道 ・溝 ・落ち込み ・土坑 ・ピット	・縄文（突帯文）土器片 ・弥生土器片 ・土師器（皿、椀） 　ロクロ土師器あり ・須恵器（平瓶） ・山茶椀 ・緑釉陶器（椀、耳皿） ・有孔円盤（石製） ・軒平瓦（唐草文瓦当） ・ミニチュア石硯 ・灰釉陶器 ・加工円板（陶製） ・土錘 ・燭台（陶製） ・玩具（土師製・人物他）

関連文献	

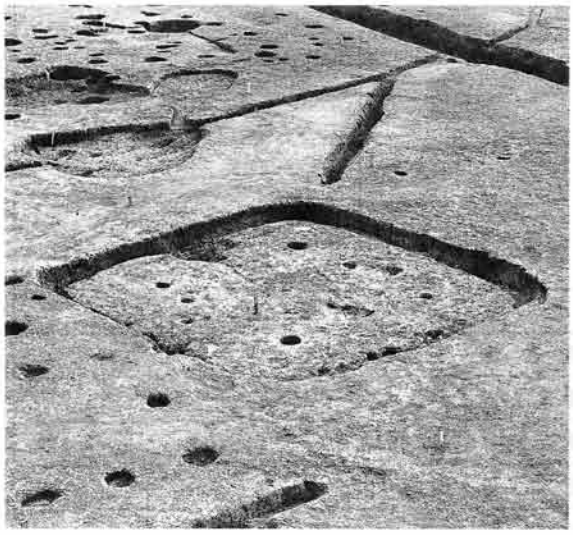
No.	19	遺跡名	北野遺跡	所在地	多気郡明和町明星、蓑村
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.5.11～10.31
調査面積	8,300㎡			担当者	上村安生・筒井正明・東良樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国史跡斎宮跡の南東約２㎞に所在する。低地の南緩斜面に弥生時代の後期遺構が検出され、遺物も整理箱で約1,000箱出土した。 主な遺構には、弥生時代後期の竪穴住居50棟検出されており、山中期併行の家屋やその排水溝がみられるものも土器暗渠をもつた、一昨年の調査での北部にもあるる。飛鳥時代奈良時代の土器焼成跡で76基検出された。 野当地は122基検出例の生産地であることを裏付けた。	○弥生時代後期 ・竪穴住居50棟 ・方形周溝墓４基 ・土坑３基 ○古墳時代 ・竪穴住居１棟 ・方墳１基 ○飛鳥時代～奈良時代 ・竪穴住居11棟 ・土器焼成坑76基 ・土坑31基 ・掘立柱建物16棟	ナイフ型石器３点 石鏃１点 弥生土器 土師器 須恵器 石製紡錘車 土製紡錘車 土馬

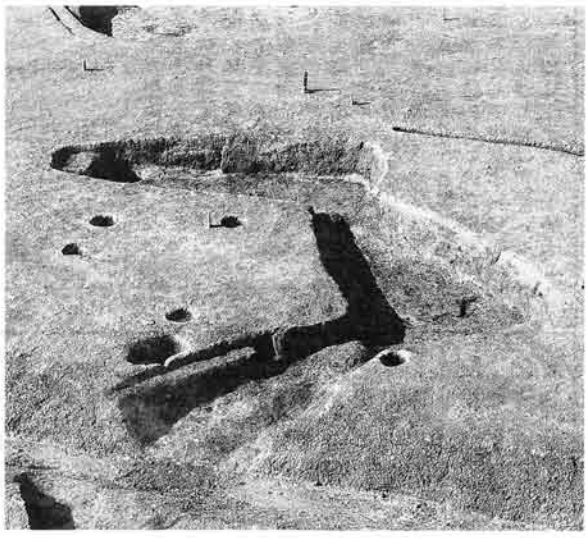
関連文献	『平成２年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告－第２分冊－』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991）



北野遺跡調査区全景



排水溝をもつ竪穴住居



三基連なった土器焼成坑

No.	20	遺跡名	明気窯跡群	所在地	多気郡多気町相可
調査原因	一般国道42号線松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H 4.8.24～H 5.2.26
調査面積	1.500㎡			担当者	田村陽一・宇河雅之

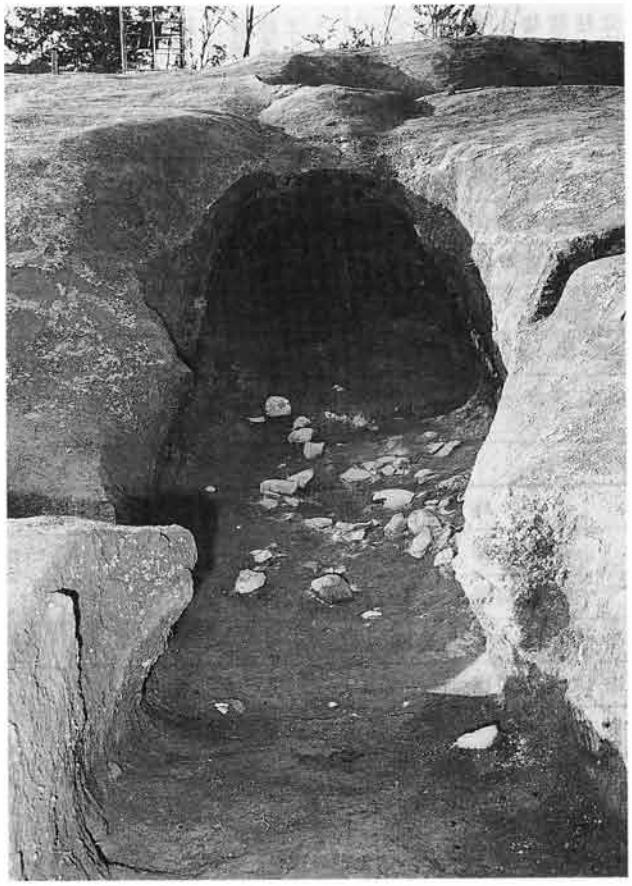
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
多気町役場の東方300mの尾根東斜面中腹に立地し、標高45～48m。 試掘調査に続いて要本調査地のうち半分を調査した。 窯は２基並んで存在し、部分的に天井が残っていた。また残存する天井部を地山からの花崗岩風化土層が通過している箇所が認められ、一部地山くり抜き式の窯であったと考えられる。傾斜角は共に30～40度とかなり急であり、焼成時には製品の安定化をはかるため、焼成室に川砂を敷きつめたらしく、厚い部分では10cmほどの堆積があった。また焼台として砂を多く混ぜた粘土塊や河原石を使用していたらしく、これらが２次焼成を受けた甕の体部片と共に、床で多く検出された。 焼成回数については、現在調査中であるが、１号窯については１回、２号窯については２～３回と推察する。 １号窯の前庭部には焚口壁に接して相対するピットが存在し、更に燃焼室においても焼土壁を切り込むかたちで対になるピットの存在が認められた（２号窯にはない）。また２号窯には煙道付近から燃焼室にかけて伸びる溝があり、排水溝的性格を有するものと考える。窯の時期については、７世紀初頭。 ２基並んだ窯の間には斜面下まで伸びる溝が一条通っており、排水施設らしい。また２基の窯を挟むように落ち込みがあり、多量の遺物が出土している。他の事例から考え、排水施設を兼ねた土器投棄坑的な遺構ではないかと思われる。 窯の存在する根尾頂部には、焼土を伴った竪穴住居と粘土溜めピットおよび20畳ほどの平坦な面が存在し工房的な遺構と思われる。	＜１号窯＞ 全長　10.9m 最大幅　1.8m 床から残存する天井まで　1.2m 最大斜度　約40度 ＜２号窯＞ 全長　10.4m 最大幅　1.75m 床から残存する天井まで　0.85m 最大斜度　約40度 ・竪穴住居　１棟 ・粘土溜め穴１基 ・溝　１条 ・落ち込み　２ケ所	・須恵器 （杯身、杯蓋、椀 高杯（２段スカシ） 𤭯 壺（短頸壺） 甕、 提瓶、横瓶、平瓶、 擂鉢 甑） ・窯道具 ・紡錘車 ・鉄斧
関連文献		

No.	21	遺跡名	世古遺跡	所在地	度会郡玉城町世古
調査原因	県道田丸（停）斉明線改良			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.12.7 ～H.5.2.10
調査面積	600㎡			担当者	高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
明和町との町境にある低丘陵の裾に位置する。明和町地内では土器焼成坑が多く見つかっている。土器焼成坑と掘立柱建物、井戸などとともに中世以降の土師器が大量に出土した。	・掘立柱建物群 ・土器焼成坑１基 ・井戸８基	・多量の土師器鍋類 土師器皿 ・山茶椀
関連文献		

明気１・２号窯全景（東から）

尾根上の遺構群（北から）



明気１号窯 焼成室（東から）

明気２号窯 焼成室（西から）

No.	22	遺跡名	蚊山遺跡	所在地	度会郡玉城町岩出
調査原因	県道改良事業			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.10. 12～11.19
調査面積	1,010㎡			担当者	伊藤裕偉・東良樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
近畿自動車道・平成2年度県道改良事業に次いで、蚊山遺跡の調査は今回が3次目となる。 遺構は全体的に希薄な部分で、中世の遺構としては、鎌倉時代のものが若干認められたに過ぎない。 その他のものとしては、近世以降の瓦窯が確認された。ロストルの式の平窯であり、当該時期の瓦窯がいくつかあるゆえ、「ダルマ窯」を考えれば、平窯の残存ともいう点で、今回の事例は興味深いものである。	＜中世＞ ・掘立柱建物 ・道状遺構に伴う溝 ＜近世＞ ・瓦窯とそれに伴う若干の灰原・土坑	＜中世＞ ・中世土器類 ・土師器・陶器・磁器 ＜近世＞ ・瓦（桟瓦・軒丸瓦）

関連文献

No.	23	遺跡名	麻加江遺跡（立会）	所在地	度会郡度会町麻加江
調査原因	県道伊勢大宮線特改			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.6.19～6.29
調査面積	150㎡			担当者	高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大台町との町境に近い宮川右岸標高40mの河岸段丘上にある。鎌倉～室町の遺構を確認し、北側茶畑にも広大な遺跡の広がりが想定される。	・掘立柱建物1棟 ・土坑1基	・土師器（皿・鍋） ・山茶椀

関連文献

No.	24	遺跡名	前山遺跡（立会）	所在地	度会郡度会町田間
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.10.1
調査面積	75㎡			担当者	高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川右岸標高40mの河岸段丘上にある。	検出されなかった	中世土師器小片

関連文献

No.	25	遺跡名	打越城跡	所在地	度会郡南勢町伊勢路
調査原因	県道伊勢路伊勢線道路改良			事業主体	県土木部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H.4.11.4～12.8
調査面積	500㎡			担当者	高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊勢路川下流の流路を遮るように突き出した低い尾根上にある中世城館。堀切や平坦部などが残っている。 すぐ上に踊り場とよばれる平坦面や経塚があり、さらに遺跡範囲が広いことが想定される。	・堀切2本 ・平坦部3面	・中世の甕

関連文献

No.	26	遺跡名	波田須城跡	所在地	熊野市波田須町
調査原因		国道311号線道路改良事業		事業主体	県土木部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H 4. 7. 20～8. 7
調査面積		450㎡		担当者	高﨑　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
熊野市街地の北約1.5 km、熊野灘を望む低い尾根上にある中世城館。堀切と3段の平坦部が残っている。	・堀切1本 ・平坦部3面	なし
関連文献		

No.	27	遺跡名	伊賀国府推定地	所在地	上野市外山
調査原因		県営ほ場整備		事業主体	県農林水産部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H. 4. 11. 20～12. 14
調査面積		500㎡		担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は伊賀国庁跡より東へ数百mの所に位置し、その関連施設が所在する可能性ある地域である。 調査の結果主軸が北西にやや振る大型の掘立柱建物を数棟確認した。出土する遺物は、圧倒的に古墳時代中～後期のものが中心で、奈良時代以降の遺物は少ない。従って、その大型建物が奈良時代以降に伴う国府関連の時期のものか否か、即断することは難しいと思われる。	・径1m前後の方形の柱穴をもつ掘立柱建物3棟 ・竪穴住居　5棟 ・溝　5条	・須恵器（杯身、杯蓋、高杯、甕、壺） ・土師器（壺、甕、椀、ミニチュア土器）
関連文献		

No.	28	遺跡名	北城遺跡（箕升氏館址）	所在地	上野市羽根
調査原因		県営ほ場整備事業		事業主体	県農林水産部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		調査期間	H 4. 5. 18～8. 6
調査面積		2,500㎡		担当者	森川常厚・川戸達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
羽根集落北方の水田の中に残存する。水田より1mほど高く、東に小郭が付属し北側土塁のみ残存する。現況で礎石風の石が散乱するが、表土直下では明確な遺構は検出できなかった。遺構検出面は、その下50cm～70cmである。また堀が東の小郭との連結部下にまで延び、館の入口はその連結部の北側に3mの陸橋部として存在することが判った。さらに小郭部では、郭外へ続く掘立柱建物を検出したことなどから、館は単郭式と考えられる。南土塁痕跡の下からは、堀状の溝を検出し、南側へ館を拡張しているようである。時期は出土遺物の中心が16世紀のものであり、擂鉢は信楽編年によると、16世紀後半のものであることから、「天正伊賀の乱」前後のものと考えられる。その後、近世初頭に屋敷地として再利用された可能性があり、小郭はそれに伴うものであろう。	〈館内〉 ・堀 ・土塁 ・掘立柱建物（4棟） 　礎石建物の可能性あり ・柱列（2条） ・井戸（洗場付） ・溝（館内を区画） ・暗渠 ・土坑 ・集石 ・祠 〈館外〉 ・掘立柱建物（4棟） ・柱列（1条） ・溝（近世）	・土師器 　皿、鍋 ・陶器 　擂鉢（信楽） 　甕　（常滑） 　施釉皿（瀬戸） 　天目茶椀 　山茶椀 ・磁器 　白磁（椀） 　青磁（皿、椀） ・瓦器 　椀、鉢 ・土製品 　犬、土符、狐（近世） ・石製品 　石鍋、石臼
関連文献	松沢修「信楽焼の編年について」『中世の信楽－その実像と編年を探る』（滋賀県立近江風土記の丘資料館　1989）	

No.	29	遺跡名	川南A遺跡	所在地	名賀郡青山町勝地
調査原因	県営ほ場整備			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.7.6 ～ 8.13
調査面積	960㎡			担当者	吉澤良・石川隆郎

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査の結果、奈良時代の竪穴住居2棟、それに伴う時期の溝1条、平安後期の掘立柱建物1棟をそれぞれ検出した。 竪穴住居の1つは、カマドの残存が良好で河原石を用いた支脚とカマド周縁部を30～40cm大の同様の石で基底部をつくっているものを検出した。	・竪穴住居　2棟 ・掘立柱建物1棟 ・溝1条 ・土坑1基 ・性格不明遺構6	奈良時代～鎌倉時代の遺物を中心に出土。 ・須恵器（杯蓋、杯）

関連文献	

No.	30	遺跡名	向出A遺跡	所在地	名張市滝之原
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			調査期間	H4.5.11～6.3
調査面積	450㎡			担当者	吉澤良・石川隆郎

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は中世（鎌倉時代）に大規模な整地作業が行われ、水田にされ今日に至ったと考えられる。	・近代の石組遺構　1基 ・江戸時代の石組遺構1基 ・集石遺構　1基 ・溝　3条	○中世 ・瓦器 ・陶器（擂鉢） ○近世 ・染付椀 ・磁器

関連文献	

県担当分（試掘）

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ア	大欠上遺跡	員弁郡大安町梅戸	県営緑農住環境整備	４０㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。
イ	六谷遺跡隣接地	三重郡菰野町永井北	県営一般農道	２４㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。
ウ	丸岡遺跡	四日市市西村町	北勢中央公園	１０８㎡	遺物・遺物共に検出されなかった。
エ	沖ノ坂遺跡	鈴鹿市国分町沖ノ坂	平成４年度国道四日市鈴鹿環状線道路改良事業	３６㎡	竪穴住居と溝が検出された。遺物は希薄である。
オ	磐城山遺跡	鈴鹿市木田町磐城山	平成４年度国道四日市鈴鹿環状線道路改良事業	４８㎡	ピットが検出されたが、顕著な遺構とは言いがたい。
カ	磐城山古墳群	鈴鹿市木田町磐城山	平成４年度国道四日市鈴鹿環状線道路改良事業	４３㎡	遺構は、周溝と土坑とピットである。遺物は、陶器鉢と土師器である。
キ	間瀬口遺跡	鈴鹿市徳田町字間瀬口　ほか	中勢道路建設	９６㎡	丘陵尾根に立地し、現状は山林である。分布調査では弥生土器・須恵器片が散布していたが、今回の調査では遺物・遺構共に検出されなかった。
ク	高井Ａ遺跡	鈴鹿市徳田町字高井	中勢道路建設	９６㎡	現状は田畑地である。掘立柱建物と見られるピット及び複数の溝が検出された。遺構上面の深さは、30~50cm、遺物包含層の厚さは20cm程度である。緑釉陶器・土師器・須恵器・山茶椀等が出土した。
ケ	拝原遺跡	鈴鹿市御園町字拝原	道路改良	６４㎡	丘陵東斜面の山林である。分布調査では須恵器・土師器・青磁・天目茶椀が散布しており、古墳時代以降の可能性も考えられたが、遺構は検出できなかった。石鏃・土師器片・山茶椀片・山皿が出土した。
コ	国分東遺跡	鈴鹿市国分町	平成５年度国道四日市鈴鹿環状線道路改良	３６㎡	土坑、ピットなどが検出された。遺物についても土師器甕その他や須恵器片・山茶椀片などが出土した。
サ	青館跡	亀山市川崎町字青	県営広域農道整備事業	７５㎡	事業地内では、明瞭な遺構・遺物は確認されなかった。
シ	小下遺跡	亀山市小下町字道金	一般国道306号道路改良	７５㎡	遺構は検出されず、遺物も表土直下から中～近世の土師器片等が少量出土するのみであった。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ス	南神山８号墳	安芸郡安濃町南神山	県道穴倉南神山津線道路改良事業	３０㎡	墳丘状の高まりは確認できなかったが、須恵器片１点を表採した。試掘調査の結果、周溝状の遺構を確認し、須恵器片１点が出土した。また石室の可能性がある石の並びを確認した。植林のため試掘不能の部分有。800㎡が本調査対象。1,300㎡が再試掘対象
セ	前田遺跡	津市大里山室町字前田	県営ほ場整備事業	２２４㎡	試掘坑より溝とピットを検出したが、いずれも良好な遺構とはいいがたい。全体的に遺構・遺物とも希薄である。
ソ	古川遺跡	津市大里窪田町字古川	県営ほ場整備事業	２２４㎡	試掘坑より遺構は確認されず遺物の出土も少量であった。
タ	古墳？	津市大里窪田町	県営ほ場整備事業	６３㎡	古墳ではない。
チ	一身田小学校校庭遺跡	津市一身田	一身田豊野久居線道路改良事業	３２㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。
ツ	宮崎遺跡	一志郡三雲村中太郎生	県営畜産経営環境整備業	５６㎡	遺構は検出されなかった。遺物も客土中から中世と近世の土師器・瓦器・陶磁器が少量出土したのみであった。
テ	北瀬古遺跡	一志郡嬉野町天花寺	県道丹生一志線道路改良事業	１６㎡	２×４ｍの試掘坑２か所を設定し、調査を行ったが、共に遺構は検出されなかった。No.２の試掘坑から微量の土師器片が出土した。流れ込みによるものと思われる。
ト	小松遺跡	一志郡美杉村八知	県営畜産経営環境整備事業	200㎡	鎌倉時代頃の土坑・柱穴を確認した。
ナ	立川遺跡	一志郡美杉村上多気字立川	国道368号道路改良	３２㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。
ニ	忠助垣内遺跡	一志郡美杉村上多気字立川	国道368号道路改良	３６㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。
ヌ	馬場遺跡	一志郡美杉村下多気	国道368号道路改良	６４㎡	１６世紀代の建物ほかが検出された。
ネ	柚原遺跡	松阪市柚原町	県道松阪青山線道路改良事業	１６㎡	黄灰褐色土の客土が見られ、この中から常滑産甕片、土師器皿片が出土した。遺構は検出されなかった。
ノ	御堂山遺跡	松阪市西野々町	国道４２号松阪多気バイパス建設	２２４㎡	耕土下は、全面砂礫。表土下約90cmで湧水。耕土中より土師器・須恵器・近世陶器片等が出土したが、遺構は検出されなかった。
ハ	鳥墓遺跡	多気郡明和町蓑村	県営ほ場整備事業	144㎡	鎌倉時代の土坑・溝・柱穴を確認した。
ヒ	世古遺跡	多気郡明和町有爾中	県道田丸斉明線道路改良事業	４８㎡	２×４ｍ×６か所の試掘坑を設定し、調査実施した結果、遺構は確認できず、遺物も中世の土師器片が数片出土するのみである。今回の地域は遺跡の縁辺部と思われる

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
フ	上ノ垣内遺跡	多気郡多気町荒蒔・相可	国道42号松阪多気バイパス建設	96㎡	平成2年度未買収の部分を調査した。包含層からは、縄文土器中期・後期土器や石鏃が出土したほか、各時代の遺物が出土した。盛期は縄文及び平安時代と考えられる。
ヘ	古墳？	多気郡多気町相可	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	24.6㎡	古墳状地形の4地点に、幅約0.8ｍの試掘溝を1または2本ずつ設定して調査を実施したが、すべて自然地形と判明した。
ホ	堂ノ前遺跡	多気郡多気町中牧	県営畜産環境整備事業	48㎡	試掘坑を8か所設定した。No.3の試掘坑で直径1ｍの土坑を検出した。埋土中に中世の土師器を含む。
マ	門阪遺跡	多気郡多気町中牧	県営畜産環境整備事業	16㎡	試掘時前には堂ノ前遺跡に含まれていたが、遺構が見つかったため小字を取り独立させた。試掘坑No.9で石列が検出された。遺物は中世鍋が出土した。
ミ	縄手遺跡	多気郡多気町中牧	県営畜産環境整備事業	32㎡	遺構は検出されなかった。試掘対象地は、谷地形になっており、度重なる土砂の堆積が認められる。遺物は、須恵器片・土師器片・鍋片が少量出土した。
ム	上出江遺跡	多気郡勢和村上出江	県道佐原勢和松阪線道路改良事業	64㎡	遺構・遺物ともに検出されなかった。
メ	西方寺遺跡	多気郡勢和村上出江	県道佐原勢和松阪線道路改良事業	40㎡	近代の開発溝が検出されたがその外に遺構は検出されなかった。遺物も希薄であった。
モ	車川遺跡	多気郡勢和村車川	県営畜産環境整備事業	48㎡	試掘坑を6か所設定した。試掘坑1で柱穴が検出された。遺構の時期は、室町時代である。遺物には中近世陶磁器・土師器皿・鍋の小片が出土した。
ヤ	北出遺跡	飯南郡飯南町粥見	一般国道368号線道路改良事業	76㎡	柱穴・土坑・溝が検出され、鎌倉時代から室町時代の土師器・山茶椀が出土した。本調査を行う必要がある。
ユ	向村遺跡	度会郡度会町立花	県営ほ場整備事業	128㎡	近世遺構の石井組み及び縄文時代と思われる直径60cm～1㎡の土坑が検出された。主な遺物には、山茶椀・縄文土器・陶器壺。チャート及びサヌカイトの剥片がある。
ヨ	田間遺跡	度会郡度会町立花	県営ほ場整備事業	42㎡	調査対象地は、櫛田川右岸の河岸段丘であり、河川の氾濫によって土砂が堆積したと考えられる。遺構・遺物共に検出できなかった。
ラ	植山遺跡	伊勢市植山町	県営ほ場整備事業	72㎡	柱穴及び戦時中の開墾跡が検出された。遺物は、平安時代前期土師器皿・須恵器細片・江戸時代土師器皿等が出土したが、いずれも少量である。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
リ	横橋東遺跡	伊勢市朝熊町	一級河川五十鈴川改良事業	１８㎡	師1層きのと円礫層の土片含で跡た器皿がはいっ部ら点となえ縁考えの鉢包出遺上か点しず、調旧る。鎌倉時代の擂物検遺もは、あっ上数土えた。で、え鎌近が、遺構区道ら査河
ル	大畑遺跡	鳥羽市答志町和具	県関連営舟越漁港道事業	8㎡	遺跡の北端部を試掘。遺構なし。近世陶器を表面採集した
レ	古墳？	南牟婁郡紀和町平谷	県営農免農道事業	5㎡	古墳ではない。
ロ	川西遺跡	阿山郡伊賀町大字川西	県道東佐奈具線道路改良事業	２４㎡	柘植川の南側、標高約１７ｍの低段丘に位置する。遺構・遺物とも検出されなかった。
ワ	西条Ａ遺跡	上野市西条	県営ほ場整備事業	６０㎡	遺構なし。中勢の遺物が少量出土した。
ヲ	塔ノ元遺跡	上野市西条塔ノ元	県営ほ場整備事業	１３２㎡	遺物は、中世（鎌倉～室町時代）を中心とし、古墳～平安時代ほぼ全域で広く存在する。南斜面が遺跡である。
ン	山神遺跡	上野市山神	県営ほ場整備事業	９６㎡	遺構・遺物ともに検出されなかった。
あ	古墳？	上野市西高倉	県営ほ場整備	１４㎡	古墳ではない。
い	浦木戸遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備事業	１２０㎡	東には高嶋氏館跡が、隣接する。組井戸・土師器鍋館跡は、中世集落であるものと考え出し、施設を検出された。
う	六地蔵Ａ遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備事業	８８㎡	須恵器・土師器が出土し、奈良時代以降の集落跡と考えられる。
え	六地蔵Ｂ遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備事業	８８㎡	弥生土器や黒色土器が出土し弥生時代～平安時代の集落跡と考えられる。
お	久保遺跡	名賀郡青山町下川原	県営ほ場整備事業	１１２㎡	土師器・瓦器が出土し、中世以降の集落跡と考えられる。
か	大平遺跡	名張市滝之原	県営ほ場整備事業	１２㎡	周知の遺跡であり、中勢の遺物が出土した。遺構も認められた。
き	谷垣内遺跡	名張市滝之原	県営ほ場整備事業	４８㎡	平成３年度の分布調査で遺物を表採したため試掘を行ったが、遺構・遺物共に検出でなかった。
く	中出遺跡	名張市滝之原	県営ほ場整備事業	２４㎡	平成３年度の分布調査で遺物を表採したため試掘を行ったが、遺構・遺物共に検出でなかった。
け	滝之原遺跡	名張市滝之原	県道滝之原美旗線改良事業	１２㎡	遺構・遺物共に検出されなかった。

No.	31-1	遺跡名	斎宮跡　第95次調査	所在地	多気郡明和町斎宮字内山3046　他
調査原因		計画調査		事業主体	三重県教育委員会
調査機関		斎宮歴史博物館		調査期間	H4.4.8 ～7.31
調査面積		1,280 ㎡		担当者	野原宏司・大川勝宏

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昨年の第93次調査に引き続き、近鉄斎宮駅の北側の調査を行った。史跡東部の確認されてきている20ブロック方格地割の西側にあたるが、軸線の方向を同じくすると見られるが溝・生垣状遺構・掘立柱建物などが見つかっており、区画規制の広がりを示唆している。	平安時代中期～後期の墓 平安時代初期～末期の掘立柱建物が14棟、平安時代後期～末期の区画溝・生垣状遺構と土坑。	平安時代中期の墓にともなう土師器壺（蔵骨器）・杯と延喜通寶をはじめ、10世紀前葉～13世紀中葉の土師器・ロクロ土師器類多数円面硯、約80片の緑釉陶器

関連文献	『史跡斎宮跡　第95次（内山地区）現地説明開資料』

No.	31-2	遺跡名	斎宮跡　第96次調査 史跡現状変更調査	所在地	多気郡明和町斎宮地内他
調査期間		H4.5.25～3.31	事業主体	明和町教育委員会	調査機関　斎宮歴史博物館

調査次数	調査面積	調査期間	地番・地積	原因
第96次-1	320 ㎡	H4.5.25～6.10	明和町斎宮字東加座374	盛土工事
第96次-2	70 ㎡	H4.11.24 ～12.3	〃　〃　字内山3068-3他	道路拡幅
第96次-3	120 ㎡	H4.12.12 ～H5.1.	〃　〃　字古里	個人住宅の新築
第96次-4	130 ㎡	H5.2.10～3.	〃　〃　字中西	〃
第96次-5	230 ㎡	H5.2.15～3.	〃　〃　字木葉	〃
第96次-6	26.6㎡	H5.3.5 ～3.	〃　〃　字篠林	〃

関連文献	

No.	31-3	遺跡名	斎宮跡　第97-1，97-2次調査	所在地	多気郡明和町竹川字古里・中垣内地内
調査原因		計画調査		事業主体	三重県教育委員会
調査機関		斎宮歴史博物館		調査期間	H4.7.8 ～9.25
調査面積		627 ㎡		担当者	野原宏司・大川勝宏

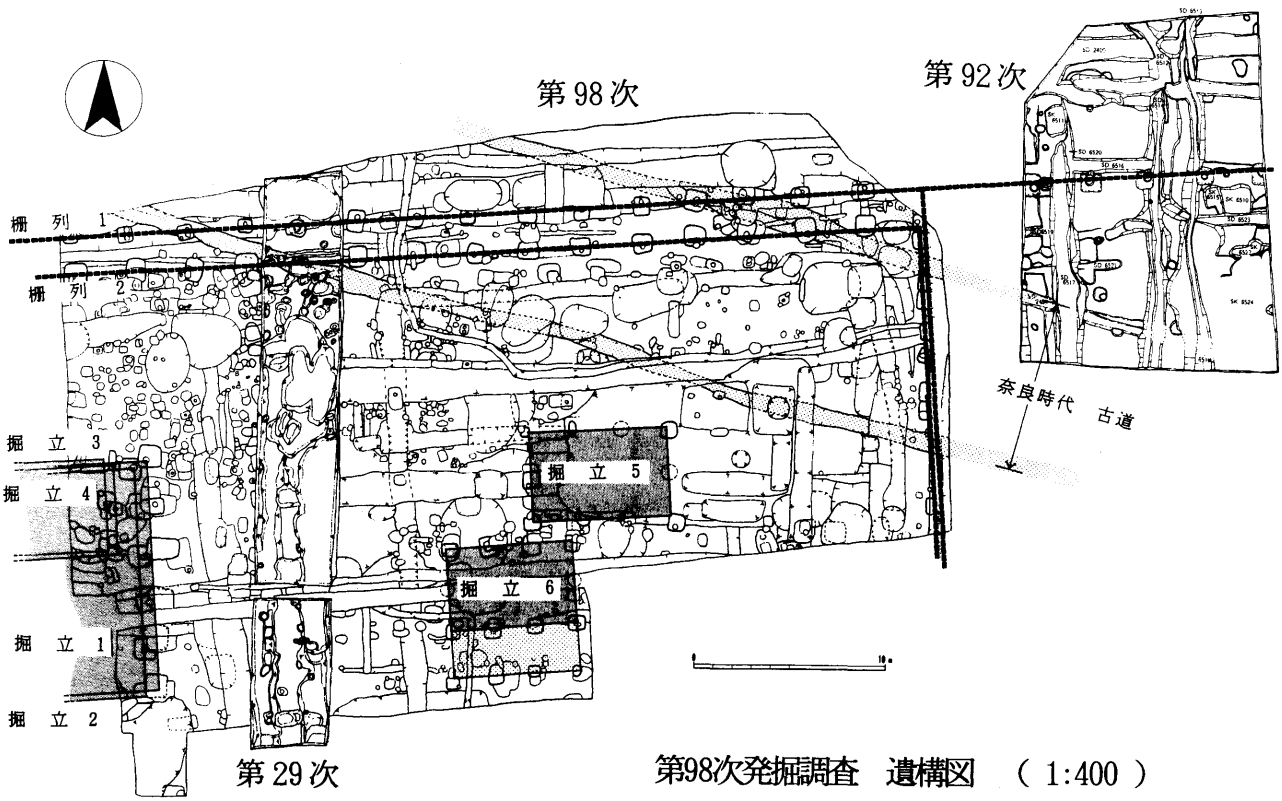
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
これまでの調査で古里地区一帯で確認されてきている奈良時代と鎌倉時代のものと思われる大溝が祓川段丘崖付近でとらえられたのと、竹神社の敷地内の遺構の分布状況を把握するために、計8ヶ所のトレンチ調査を行った。	・奈良時代・鎌倉時代の大溝 ・奈良時代の竪穴住居・土坑 ・奈良時代～平安時代の掘立柱建物 ・鎌倉時代の土坑	奈良時代～室町時代の土師器を中心とした土器類。特に2本の大溝底部付近からは、奈良時代の土師器甕類と鎌倉時代の山茶椀が多量に出土した。

関連文献	

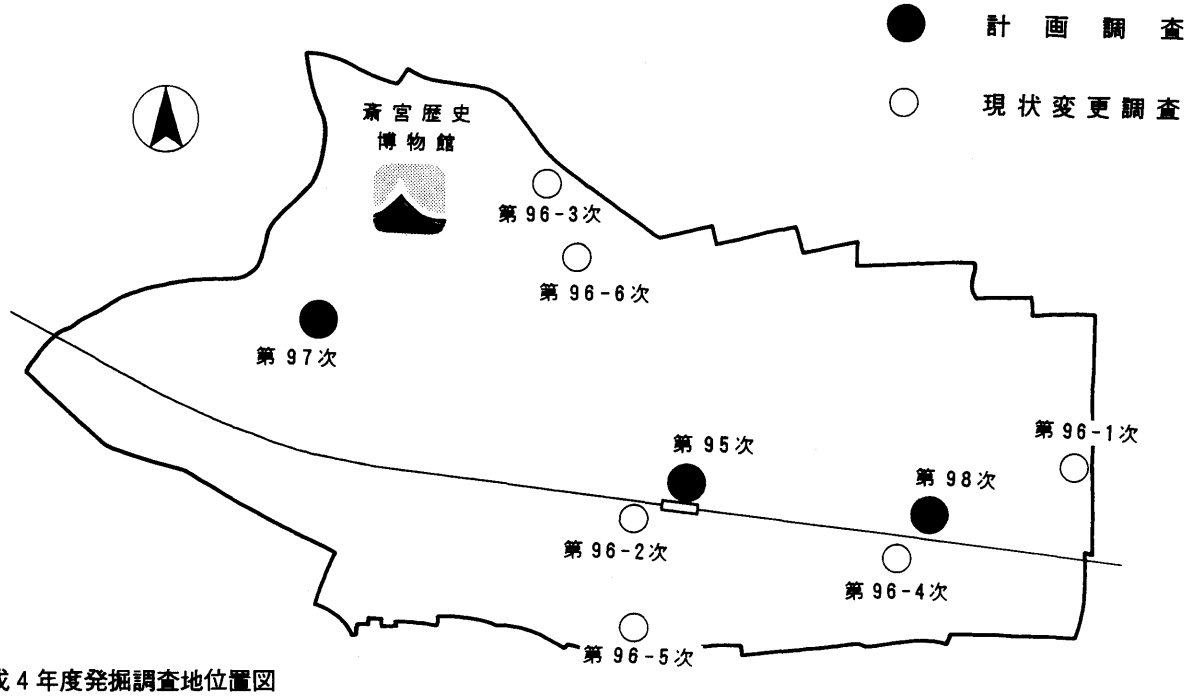
No.	31-4	遺跡名	斎宮跡　第98次調査	所在地	多気郡明和町斎宮字鍛冶山2745　他
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会
調査機関	斎宮歴史博物館			調査期間	H4.9.28～H5.3.4
調査面積	1,150 m²			担当者	大川勝宏・野原宏司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
史跡東部には、碁盤目状に区画された地割りとして1辺約120 mごとに幅約10mの道路とその側溝が東西南北に整然と続き、東西5列南北4列の合計20区画の存在が知られる。このような方格地割は、奈良時代後期から平安時代初期までに造営されたものと考えられる。 今回の調査地は、この方角地割のほぼ中央部の1区画の北東隅にあたり、昨年度調査を実施した第92次調査区の西側に隣接する。 調査の結果、第46次、第88次、第92次調査で確認された柵列1（SA2800）は東西方向の延長部で14間分（約42m）を検出した。この柵列の柱掘形は1辺約80cmの方形で直径約25cmの柱痕跡が見られる。 新たに発見した柵列2は柵列1の南側約2mに並列してやや大きめの柱掘形を持ち、東西方向で15間分（約45m）を検出した。しかも調査区東端で柵列1と重複して南に折れ曲がることが確認された。柵列1、2は柱列の両側で雨落ち溝が確認されていないことから板塀のようなものと考える。 掘立柱建物1、2は1辺約1.2 mの柱掘形と直径約35cmの柱痕跡を持つ大型の建物であり、掘立柱建物1から2への建て替えが見られる。南北5間×東西1間（12m×2.4 m)mまで確認したが、さらに西側の調査区外へ延びるものと考える。 柵列1による区画は東西方向で約165 mに及ぶ。また北東角から西へ約45mでも南に折れ曲がり、2つの区画の存在が確認された。 柵列2による区画は方格地割の道路に並行し、東西役120 mの両端で南に折れ曲がることが発見された。 大型の掘立柱建物1、2は平安時代前半期の斎宮内院の一部としての可能性をもつものであるが、今後は柵列1から2への変遷と建物等の遺構配置や土坑からの一括遺物に注目して各区画ごとの性格を検討していく必要がある。	○奈良時代前期 ・古道跡 道路と両側側溝を含めて幅約10mで史跡西部の古里地区から東部まで直線的に延びることが確認された。 ○奈良時代後期 ・柵列1 ○平安時代初期～前期 ・柵列2 ・掘立柱建物1、2 ・掘立柱建物3、4 東西棟で 桁行1間以上×梁行2間 （2.4 以上×4.8 m） ・掘立柱建物5 東西棟で 桁行3間×梁行2間 （7.2 ×4.8 m） ・掘立柱建物6 東西棟で 桁行3間×梁行2間 （6.6 ×4.4 m）の身舎の南面に廂がつく ・土坑（土器溜） ○平安時代前期 ・溝（L字状の区画溝） ・溝（土器溜） ○平安時代前期～中期 ・溝（土器溜）	遺物の大半は平安時代前期の土器で、土師器を中心としてその大部分が、溝や土坑から出土した。遺物整理箱で約150 箱ほどある。 ○土師器 ・杯、皿、甕 ○須恵器 ・杯、皿、甕 ○緑釉陶器（約20点出土） ・把手付瓶、椀、皿 ○特殊遺物 ・円面硯 ・風字硯（黒色土器） ・転用硯（須恵器盤） ・石帯（鉈尾）

関連文献	『史跡斎宮跡　第98次（鍛冶山地区）現地説明開資料』

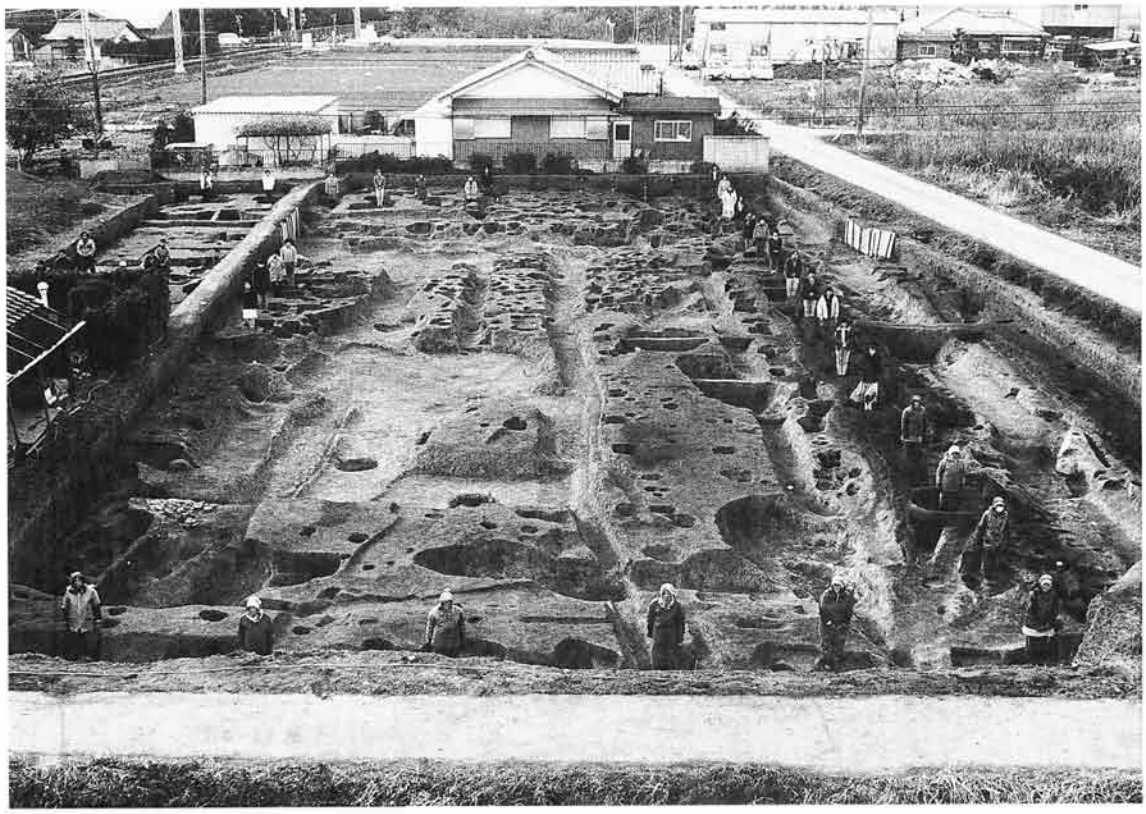


第98次発掘調査 遺構図 （1:400）



平成4年度発掘調査地位置図

斎宮跡第95次調査区全景（下が北）



斎宮跡第98次調査区全景（東から）

No.	32	遺跡名	天王平尾津平遺跡	所在地	桑名郡多度町大字小山字天王平
調査原因	農道拡幅工事			事業主体	多度町
調査機関	多度町教育委員会			調査期間	H4. 6.20 ～ 9.18
調査面積	533 ㎡			担当者	渡辺尚登

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
養老山地の一支脈東端の東斜面に位置し、遺跡の範囲は、東西約500m、南北約900mに及ぶと考えられる。 昭和56・57年度に実施された調査では、奈良時代末～平安時代の竪穴住居51棟、掘立柱建物16棟が検出されている。	○奈良時代 ・竪穴住居1棟 ○平安時代 ・竪穴住居6棟 ・掘立柱建物3棟 ・溝、土坑	平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が中心で、縄文土器・弥生土器片も出土。

関連文献	

No.	33	遺跡名	北野遺跡	所在地	員弁郡員弁町大字上笠田字北野
調査原因	高圧鉄塔建設			事業主体	中部電力株式会社
調査機関	員弁町教育委員会			調査期間	H4. 8.26 ～10.19
調査面積	225 ㎡			担当者	蔭山誠一・水谷芳春

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は、員弁川と明智川に挟まれた台地上の東縁部に立地し、標高約95mの地点にある。 昭和49年に、住友金属（株）のさ工場用地として発見された土器片が石器や縄文時代前期の灰釉陶器片や石器・陶器片が出土している。 今回の高圧鉄塔建設に伴い、7月下旬～8月上旬に試掘調査を行なった。その結果、建設予定地に225㎡の発掘調査を行なった。 その結果、竪穴住居や土坑などの遺構が見つかり、遺跡は西側と北側には広がる縄文時代（前期）と平安時代前期の遺構と遺物が出土した。特に縄文時代前期には、上・下2層にわかれ、遺物のあるこの時期に分層でき、2時期にわたることがわかった。	○縄文時代前期 ・竪穴住居2棟 （各々、上・下層がある） ・土坑7基 ○平安時代 ・土坑1基 ・柱穴1基	○縄文時代前期 ・土器 （浅鉢・深鉢） ・石器 （磨製石斧・打製石斧 ・石鏃・石槍・石錐 ・石皿・磨り石・叩き石 ・凹石・石匙・掻器 ・砥石・フレイク） ○平安時代 ・須恵器（杯） ・土師器（甕）

関連文献	『員弁町上笠田北野遺跡　第2次発掘調査現地説明会資料』

No.	34	遺跡名	段遺跡	所在地	員弁郡員弁町大字石仏字段
調査原因	ショッピングセンター（イナベパル）移転新築のため			事業主体	桑名商業株式会社
調査機関	員弁町教育委員会			調査期間	H4. 6. 8 ～11.14
調査面積	14,650㎡			担当者	蔭山誠一

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は、員弁川左岸の河岸段丘上に立地し、標高約76mの北から南への緩傾斜地にある。 調査の結果、奈良時代末～平安時代前期と江戸時代の大きく2つの時期に営まれた複合遺跡であることがわかった。 調査面積は、14,650㎡に及び、当時の集落のあり方について、一定の範囲の調査ができた。	〔A地区〕 ○奈良末～平安時代前期 ・掘立柱建物8棟 ・土坑4基 ○江戸時代（18C後半） ・掘立柱建物3棟 ・土坑1基 ○時期不明 ・土坑1基 〔B・C・D地区〕 ○奈良末～平安時代前期 ・掘立柱建物10棟 ・竪穴状土坑5基 ・その他の土坑3基 ・焼土1基 ○江戸時代前期 （17C前半）・溝1条 （18C後半）・溝6条 ・掘立柱建物5棟	○奈良末～平安時代前期 ・須恵器 ・土師器（土錘、製塩土器も含む） ・黒色土器・灰釉陶器 ○江戸時代 ・施釉陶器（椀、皿、擂鉢香炉など） ・土師器（1片のみ） ・常滑産大甕 ・桟瓦

関連文献　『段遺跡発掘調査ニュース』　NO.1～3

No.	35	遺跡名	村前遺跡	所在地	員弁郡東員町大字瀬古泉字村前
調査原因	工場建設			事業主体	（株）エバ工業
調査機関	東員町教育委員会			調査期間	H4.5.11～H5.2.18
調査面積	7,000㎡			担当者	松本覚

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
員弁川左岸の標高22～24mの水田にあり、川床との比高差は1～2mの高位である。 縄文時代中期～鎌倉時代の複合遺跡であるが、縄文時代中期と平安時代の2時期が中心である。 遺物の中には緑釉陶器が100余点を数え、員弁郡の遺跡では珍しい。	○縄文時代 ・竪穴住居　2棟 ・野外炉　1基 ○古墳時代 ・竪穴住居　2棟 ○平安時代 ・竪穴住居　9棟 ・掘立柱建物　32棟	・縄文土器（甕） ・石斧・石鏃・石錘 ・土師器（高杯、皿、甕） ・須恵器（杯、甕） ・灰釉陶器（椀、皿） ・緑釉陶器（椀） ・山茶碗

関連文献　藤原実重『作善日誌』

No.	36	遺跡名	西金井遺跡	所在地	桑名市西金井字高添ほか
調査原因	土地改良			事業主体	下新田共同施行
調査機関	桑名市教育委員会			調査期間	H4.10月～H5.3月
調査面積	819.5㎡			担当者	渡辺尚登

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
西金井遺跡は、桑名市の南、三重郡朝日町に隣接する西金井地区にあり、周知の遺跡であったが、規模や時代・遺跡の性格は不明であった。 今回、ここのところ地域で土地改良事業に直接行われるとなり、遺構に影響を及ぼすと思われる排水路部分を発掘調査した。	幅3m、長さ144mの狭い範囲の発掘調査であったため、自然流水以外、主な遺構は発見できなかった。	弥生中期～鎌倉時代の土器多数 ・弥生土器（高杯、壺） ・土師器（皿、高杯、土錘） ・須恵器（蓋、杯、椀） ・灰釉陶器（椀、皿） ・白磁（椀） ・その他（石鏃・管玉）

関連文献　『桑名市史』

No.	37	遺跡名	桑名城址（試掘）	所在地	桑名市桑部字城下
調査原因	土砂採取			事業主体	城山開発事業準備委員会
調査機関	桑名市教育委員会			調査期間	H4.11月
調査面積	49㎡			担当者	渡辺尚登

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
桑名城址は中世城址で、城主の名もぼじら明確で、又、織田信長によって滅れ、豊臣秀吉によって修理が命された記録もある。 城址は現在山林で、土塁の残りも良い。 今回は測量を主としたため、試掘は4ヵ所のみ。	（測量図作成中）	トレンチより、室町期の擂鉢・天目茶椀片

関連文献	『勢陽五鈴遺響』 『三重の中世城館』（三重県教育委員会　1976） 『大日本史料』

No.	38	遺跡名	縄生廃寺跡	所在地	三重郡朝日町大字縄生字中谷2447他
調査原因	重要遺跡確認調査			事業主体	朝日町
調査機関	朝日町教育委員会			調査期間	H4.10.19～H5.2.4
調査面積	152㎡			担当者	早川裕己

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
補助事業5年目をむかえ、塔跡の北部で確認されていた版築の範囲を確認することとと、東部の未発掘の箇所をトレンチにより確認することに重点をおいた。 その結果、塔跡北部の版築の西肩を検出し、塔の東辺とその西肩が、ほぼ軸線上に乗ることが判明した。 その在り方から、南北8m前後、東西15m前後と版築の範囲が予想され東西棟で金堂跡ではないかとも言われている。	金堂跡か？ 版築跡の範囲 東西15m前後 南北8m前後 と思われる。 上部は削平されている。	東部では少量ではあるが、広範囲に近世陶磁器類、塔北部の版築周辺及び内部で平瓦片が出土している。

関連文献	

No.	39	遺跡名	平尾城跡	所在地	四日市市平尾町3025　ほか
調査原因	市道下海老・平尾線道路改良工事			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H5.2.10～
調査面積	3,023㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川北岸の台地上に立地する。現在のところ土塁・空堀・土坑1基を検出している。 基本的層序は、腐食土 ― 褐色砂質土 ― 黄灰色砂質土 ― 暗褐色砂質土 ― 黄褐色砂質土（地山）である。黄灰色砂質土中より宋銭（元豊通宝）1枚が出土している。	・土塁 ・空堀 ・土坑	・天目茶椀 ・擂鉢 ・甕 ・土師器皿 ・山茶椀 ・宋銭（元豊通宝）

関連文献	

No.	40	遺跡名	久留倍遺跡（試掘）	所在地	四日市市大矢知町字青木谷
調査原因	倉庫及び住宅建設			事業主体	（株）アラキ開発
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H 4.9.25
調査面積	48㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大矢知丘陵の北丘、東斜面に所在し、弥生時代以降の遺物の散布が確認されている。 開発計画地内に4×4mの試掘調査坑を3ヵ所設定し、調査を行ったが、耕作土中より須恵器細片が出土したのみで、他に遺構・遺物は検出されなかった。	なし	・須恵器（細片）

関連文献	

No.	41	遺跡名	下之宮遺跡（試掘）	所在地	四日市市下之宮町字笠木
調査原因	店舗建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H 4.5.21
調査面積	約48㎡			担当者	川崎正幸・葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大矢知丘陵の東方に広がる低地に所在する。弥生土器・土師器・須恵器・山茶椀・青磁などの散布が確認されている。 開発計画区域内において4×4mの試掘調査坑を3ヵ所設定し、調査を行った。弥生時代中期の土器が少数出土したが、遺構は確認されなかった。	なし	・弥生土器

関連文献	

No.	42	遺跡名	西野山遺跡（試掘）	所在地	四日市市南小松町字西野山
調査原因	工業団地			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H 5.3.22～6.22
調査面積	656㎡（予定）			担当者	葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
内部川中流域南岸の台地北縁に所在する。標高55m前後である。 弥生時代から古墳時代にかけての遺物が表採されている。	なし	・弥生土器　・石器 ・須恵器 ※全て表採

関連文献	『文化財保護年報3　平成3年度』（四日市市教育委員会　1992）

No.	43	遺跡名	西野遺跡（試掘）	所在地	四日市市南小松町字西野
調査原因	工業団地			事業主体	四日市市土地開発公社
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.3.22～6.22
調査面積	896㎡（予定）			担当者	葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
内部川中流南岸の台地北縁に所在する。標高55m前後である。 旧石器時代から鎌倉時代にかけての遺物が表採されている。重複して西野古墳群が所在する。	なし	・旧石器（ナイフ） ・弥生土器・石器 ・須恵器・埴輪 ・山茶椀　など ※全て表採

関連文献	

No.	44-1	遺跡名	上里遺跡（試掘）	所在地	四日市市久保田２丁目
調査原因	共同住宅建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.4.27
調査面積	約48㎡			担当者	川崎正幸・葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川の南岸に広がる。弥生土器の散布が確認されているが、詳細は不明。 開発計画区域内に４×４ｍの試掘調査坑を３ヵ所設定し、調査を行った代のみである。遺構は確認されず、近世～近代の陶磁器・陶器が少数出土したのである。	なし	・陶器 ・陶磁器

関連文献	

No.	44-2	遺跡名	上里遺跡（試掘）	所在地	四日市市久保田２丁目
調査原因	共同住宅造成			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.11.4
調査面積	64㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川南岸の沖積低地に所在する。弥生土器の散布が確認されている。 開発計画区域内に４×４ｍの試掘調査坑を４ヵ所設定し、調査を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	45	遺跡名	浜田城跡（試掘）	所在地	四日市市鵜の森1丁目
調査原因	四日市市茶室建設			事業主体	四日市市教育委員会
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.2.3 ～2.4
調査面積	約48㎡			担当者	葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鵜の森公園の中に、鵜の森神社の境内として残る。社殿周辺に土塁が囲む。 開発計画区域内において4×4mの試掘調査坑を設定し、調査を行ったが、土師器（浜田城存続時以前と思われる）1点を検出したのみで、遺構は確認されなかった。	なし	・土師器

関連文献	『三重の中世城館』（三重県教育委員会　1976）

No.	46	遺跡名	平戸山遺跡（試掘）	所在地	四日市市西松本町529-4
調査原因	共同住宅建設			事業主体	（株）太平洋建設
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.2.22～23
調査面積	64㎡			担当者	葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川南岸の丘陵北面、標高20m前後のところに所在する。 1984年に小規模な発掘調査が行われており、弥生時代中期の土器を多量に含む土坑が検出された。 開発計画区域がほとんど斜面であるため、地形に合わせて16×2m、8×2m、4×4mの試掘調査坑を設定し、調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	47	遺跡名	庚申塚遺跡（試掘）	所在地	四日市市生桑町
調査原因	土地開発計画			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.2.3
調査面積	112㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川北岸の丘陵尾根から東斜面にかけて所在し、古墳時代の須恵器の散布が確認されている。 開発計画地内に4×4mの試掘調査坑を7ヶ所設定し、調査を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	48	遺跡名	芝田遺跡（試掘）	所在地	四日市市芝田１丁目
調査原因	共同住宅造成			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.11.5
調査面積	48㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川と鹿化川に挟まれた沖積低地上に所在し、埴輪片の散布が確認された。開発計画予定地内に4×4mの試掘調査坑を3ヵ所設定し、調査がのべ4ヶ所実施され、耕作土中より山茶椀片が出土し、他に遺構・遺物は確認されなかった。	なし	・山茶椀

関連文献	

No.	49-1	遺跡名	北中寺遺跡	所在地	四日市市石塚町1803-1
調査原因	造成工事			事業主体	（株）丸美産業
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H4.7.27～8.11
調査面積	126㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川と鹿化川に挟まれた沖積低地上に所在し、試掘調査によって南北を限られた範囲で土師器、須恵器、山茶椀など多数の遺物が出土した。古墳時代の溝1条、中世以前の溝1条、近世以前の土坑1基、中世の溝1条、古墳時代の土坑1基、時期不明の土坑1基、ピット7基、土坑4基の検出があり、古墳時代の土坑からは子持器台が出土したものと推測される。	・溝　4条 ・ピット　7基 ・土坑　4基	・弥生土器（壺） ・土師器（甕、高杯　など） ・須恵器（蓋杯、甕、子持器台など） ・灰釉陶器 ・山茶椀 ・土錘 ・円筒埴輪片

関連文献	『四日市市文化財保護年報２－平成２年度』（四日市市教育委員会 1991）

No.	49-2	遺跡名	北中寺遺跡（２次）	所在地	四日市市石塚町
調査原因	共同住宅建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市遺跡調査会			調査期間	H4.9.16～11.25
調査面積	約466㎡			担当者	葛山拓也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川と鹿化川に挟まれた沖積低地上に所在し、古墳時代の遺物が多数出土した。複合遺跡であるが、遺構は確認されなかった。	なし	・土師器　・須恵器 ・灰釉陶器　・山茶椀 ・土錘　・木簡 ・斎串　・下駄 ・木製品 ・石製紡錘車　など

関連文献	

No.	49-3	遺跡名	北中寺遺跡（試掘）	所在地	四日市石塚町
調査原因		下水道配管工事		事業主体	四日市市
調査機関		四日市市教育委員会		調査期間	H5.2.18
調査面積		6㎡		担当者	春日井恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鹿化川と三滝川とに挟まれた沖積低地にに所在するの複合遺跡である。古墳時代から室町時代にかけて行った、平成4年9月から11月にかけて行った、2次調査場所の西南に位置する。 1×6mの試掘調査坑を設定し、調査を行ったが、遺構・遺物とも検出できなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	49-4	遺跡名	北中寺遺跡（3次）	所在地	四日市市石塚町
調査原因		共同住宅建設工事		事業主体	個人
調査機関		四日市市遺跡調査会		調査期間	H5.3.10～3.20
調査面積		135㎡		担当者	春日井恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
古墳時代の溝2条、中世の井戸跡時期不明のピットなどを検出した。	・溝2条 ・井戸跡1基 ・ピット	・土師器　・須恵器 ・灰釉陶器 ・山茶椀　・土錘など

関連文献	

No.	50	遺跡名	出城山城跡（試掘）	所在地	四日市市智積町字雨池4726
調査原因		電力供給用鉄塔建設		事業主体	（株）中部電力
調査機関		四日市市教育委員会		調査期間	H4.9.17
調査面積		16㎡		担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
矢合川と南方に所在する。 畏沙門堂境内の一生駒山の崩れと思たわ高まる南側の吹山土塁状の痕跡と思われる窪みが残存する。 開発計画に伴い、地表面観察認かさ遺、られ物試掘調査を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。	なし	なし

関連文献	『三重の中世城館』（三重県教育委員会 1976）

No.	51	遺跡名	富塚遺跡（試掘）	所在地	四日市市桜町字中長7250,7251,7266
調査原因	電力供給用鉄塔建設			事業主体	（株）中部電力
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.9.16
調査面積	16㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
足見川上流北岸の台地上に所在しチャート剥片の散布が確認されている。 開発計画予定地に4×4mの試掘調査坑を1ヶ所設定し、調査を行ったが、耕作土中より土師器細片が出土したのみで、他に遺構・遺物とも確認されなかった。	なし	・土師器（細片）

関連文献	

No.	52	遺跡名	向山遺跡（試掘）	所在地	四日市市山田町字向山758 ほか
調査原因	土地利用計画			事業主体	向山周辺土地開発準備委員会
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.11.2～11.14
調査面積	640㎡			担当者	春日井恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鎌谷川と内部川とに挟まれた丘陵の尾根上に所在する。標高70～72mである。 平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器などが散布する。 4×4mの試掘調査坑を40ヶ所設定し、調査を行ったが、明確な遺構は検出できず、出土した遺物もわずかであった。	時期不明の土坑、及び溝跡	・陶器片 ・チャート剥片 （いずれも表土中）

関連文献	

No.	53	遺跡名	西ケ谷遺跡（試掘）	所在地	四日市市東坂部町字西ケ谷ほか
調査原因	住宅団地造成			事業主体	鉄建建設（株）
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H5.1.20～2.12
調査面積	1,632㎡			担当者	春日井恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
部田川北岸の丘陵、及び丘陵裾部に広がる古墳時代の集落跡と思われる遺跡である。 1989年に一部試掘調査が行われ、古墳時代の土師器、須恵器などが出土している。 4×4mの試掘調査坑を102ヶ所設定し、調査を行ったところ、一部の試掘調査から7世紀頃の土師器、須恵器が出土した。	・土坑	・土師器（甕） ・須恵器（蓋杯、高杯、甕）

関連文献	『四日市市文化財保護年報1－平成元年度』（四日市市教育委員会 1991）

No.	54	遺跡名	折戸古墳（試掘）	所在地	四日市市六名町字東起
調査原因	工場建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.6.2～6.4
調査面積	110㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
内部川と鎌谷川に挟まれた丘陵上に所在する。 開発計画区域内に1m幅のトレンチを13本設定し、調査を行った。 調査の結果、東起古墳の石室、墓道は検出したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	55	遺跡名	東起古墳	所在地	四日市市六名町字東起 1005,1006
調査原因	工場建設			事業主体	個人
調査機関	四日市市教育委員会			調査期間	H4.6.2～ 6.22
調査面積	160㎡			担当者	川崎正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
内部川と鎌谷川に挟まれた丘陵上に所在する。 開発計画区域内に1m幅のトレンチを43本設定し、調査を行った。 調査の結果、東起古墳の石室、墓道は検出されなかった。 現在、残存する墓道は、横穴式石室の石材のみで、規模は明確ではない。 今回おこなった調査の結果、複数の墓壙が造られていたことは推定される。 開発の際に、墓壙の一部が残存する。 墓壙は、7世紀前半と思われる。	・横穴式石室 ・墓道	・土師器（壺、高杯） ・須恵器（蓋杯、高杯、短頸壺） ・鉄鏃 ・鉄鎌 ・耳環

関連文献	『四日市市の後期古墳』（四日市市埋蔵文化財調査報告8　四日市市教育委員会 1978）

No.	56	遺跡名	西ノ野遺跡	所在地	鈴鹿市国府町字西ノ野
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H4.5.11～5.22
調査面積	160㎡			担当者	浅尾悟

遺跡の概要

周知の遺跡内で無届の開発行為が行われ、表土除去された後、古墳の周溝が露見していたため、緊急調査を実施した。調査は西ノ野13号墳のみの調査で、14号墳、15号墳は埋め戻し、現状保存とした。現況は墳丘は全く認められなく、早くから消滅していた古墳である。13号墳は径11.5mの円墳で、周溝幅0.5～1.7mで、南側は狭く、浅い。周溝内面は傾斜が急で最大深度は0.45mである。周溝東南隅でほぼ完形に復元できる土師器甕が出土した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
西ノ野13号墳	円墳	径11.5m	不明	土師器甕	5c後半	
西ノ野14号墳	円墳	径 東西12m 南北13m	〃	――	――	
西ノ野15号墳	円墳	径11～12m	〃	――	――	

関連文献

No.	57-1	遺跡名	伊勢国分寺跡(5次)	所在地	鈴鹿市国分町字南浦、谷上
調査原因	範囲確認調査			事業主体	鈴鹿市教育委員会
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.9.7～11.5
調査面積	280㎡			担当者	浅尾悟

遺跡の概要

本年度は尼寺推定地に3ケ所調査区設定した。谷上1地区からは寺院を確認東限の思われる東築地跡を確認する。その結果、寺院推定寺域は東西95m×南北110m程になるものと思われる。瓦は軒丸Ⅱ型式、軒平ⅠBb型式を主体とし、白鳳期の瓦であると考えられる。従って、この寺院は尼寺（大鹿廃寺）と考えられる。

尚、南浦5地区から発見された横穴式石室は、鈴鹿川流域では最下流域の発見市八幡古墳と同時期であり、四日市形態は複室式で、石室形態は最古（6C末）に属する。

主な遺構

○南浦5地区
・横穴式石室を内部構造とする古墳1基（6C末）
・瓦集積遺構
○南浦6地区
・瓦集積遺構
・整地層
○谷上1地区
・寺院東築地跡
・焼土坑

主な遺物

○瓦類
・軒丸瓦（Ⅱ・Ⅷ型式）
・軒平瓦（ⅠB型式）
・丸瓦
・平瓦
○土器類
（石室内遺物）
・須恵器（杯、蓋、高杯、平瓶、長頸壺）
・土師器（杯）
・金環
（その他）
・須恵器（杯、蓋）
・灰釉陶器椀
・山茶椀
・近世陶器

関連文献

No.	57-2	遺跡名	伊勢国分寺跡	所在地	鈴鹿市国分町字南浦、谷上
調査原因	生活排水路建設			事業主体	鈴鹿市（河川排水課）
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.2.3～2.5
調査面積	約50㎡			担当者	浅尾悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
現在進めている伊勢国分尼寺跡推定地を縦貫する形で0.8×20mの東西トレンチを設定した。西側トレンチは築地等の遺構はなく、瓦多数含む包含層を確認し、そのトレンチから、寺院の西限を確認した。続いて東側トレンチで築地跡を確認した。その結果、東西が約95mと推定される寺院の東限を確認した。	○西トレンチ ・遺物包含層 ○中央トレンチ ・溝（中世？） ○東トレンチ ・築地跡	・瓦片 ・灰釉陶器（椀）

関連文献	

No.	58-1	遺跡名	国分北遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国分町字野田602 ほか
調査原因	倉庫建設			事業主体	（株）生川倉庫
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.1.28
調査面積	40㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊勢国分寺跡の北東500mの地点。5×2mの試掘坑4ケ所を設けたが、耕作土の下はすぐ黄色シルトの基盤層となり、遺構は認められなかった。	なし	・平瓦片 6点

関連文献	

No.	58-2	遺跡名	国分北遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国分町字野田
調査原因	住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.2.22
調査面積	5㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊勢国分寺跡の北東500mにあたる。幅1×5mのトレンチ1ケ所を設けた。耕作土の下はすぐ黄色シルトの基盤層となり、遺構・遺物は認められなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	58-3	遺跡名	国分北遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市国分町字広神戸457-17
調査原因	鉄工所建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.2.22
調査面積	20㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は伊勢国分寺跡の北方500mに位置し、かって大量の焼土、瓦が出土し、窯跡と伝えられる地点に近い。 幅1m、延長各10m、7m、3mのトレンチ調査を行ったが、調査区の大半はかっての沼沢地であり、遺構、遺物とも確かめられなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	59	遺跡名	東植松遺跡	所在地	鈴鹿市国分町東植松
調査原因	住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.3.15
調査面積	35㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は伊勢国分寺跡の北方400mにあたる。耕作土を除くとすぐ灰白色粘土質シルトの地山となる。大溝、ピットが検出された。大溝は北西～南東に走り、流水の痕がいちじるしい。時期の確証に欠けるが、旧地割りを示すものと見られる。	・大溝 ・ピット	・須恵器 ・土師器 ・平瓦

関連文献	

No.	60	遺跡名	間瀬口遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市木田町字間瀬口828-20ほか
調査原因	公園整備			事業主体	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			調査期間	H4.9.3
調査面積	100㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川支流浪瀬川の左岸に位置する古墳時代～奈良時代の散布地の辺縁にあたる。3本のトレンチを入れたが、地下2m以上まで氾濫によるとみられる礫の堆積層であった。	なし	なし

関連文献	

No.	61	遺跡名	塚原古墳群	所在地	鈴鹿市高岡町字塚原
調査原因		都市計画道路高岡采女線		事業主体	鈴鹿市
調査機関		鈴鹿市遺跡調査会		調査期間	H4.4.20～6.2
調査面積		300㎡		担当者	新田剛

遺跡の概要

表土（耕作土）及び客土を0.3～1m除去した地山面で、遺構検出を行った。調査地点は南向きの暖斜面で古墳の痕跡（周溝）と溝2条が検出された。
古墳周溝からは、須恵器片1点が出土したのみで時期は判断しがたい。
溝からは、弥生土器片、土師器片、須恵器片、平瓦片、灰釉陶器片が少量出土しているが、遺構との関係は不明である。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
塚原1号墳	方墳	―――	―――	須恵器片	?	

関連文献

No.	62	遺跡名	寺山遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町寺山
調査原因		都市計画道路高岡采女線		事業主体	鈴鹿市
調査機関		鈴鹿市遺跡調査会		調査期間	H4.4.20～6.2
調査面積		600㎡		担当者	新田剛

遺跡の概要

表土（耕作土）を0.1～0.2m除去した地山面で遺構検出を行った。
その結果、古墳4基（6・7・18・19号墳－周溝のみ）、奈良時代の竪穴住居1棟及び2×3間の掘立柱建物2棟、土坑、溝が検出された。
出土遺物には、石斧（弥生時代）、須恵器、土師器（古墳～奈良時代）、平瓦、砥石などがある。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
寺山6号墳	円墳？	――	――	土師器片	?	周溝の一部
寺山7号墳	円墳	――	――	土師器・須恵器片	5世紀	〃
寺山18号墳	方墳	一辺12m	――	土師器・須恵器	6世紀	〃
寺山19号墳	〃	―――	――		? 6世紀前半	

関連文献

No.	63	遺跡名	起A遺跡	所在地	鈴鹿市飯野寺家町字起
調査原因		住宅建築		事業主体	個人
調査機関		鈴鹿市教育委員会		調査期間	H5.3.5
調査面積		20㎡		担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
S57年県調査区の北に隣接する低位段丘の辺縁にあたる地点。 4×4mの試掘坑を設けたが、大部分がほ場整備に先立つ土取り穴で攪乱されていた。	なし	なし

関連文献　『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告書』（三重県教育委員会 1983）

No.	64	遺跡名	土師南方遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市土師町字六田庄
調査原因	個人住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.12.14
調査面積	4㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
2×2mの試掘坑を設定した。基本層位は第1層が灰褐色砂泥（耕作土）0.1m、第2層が灰褐色砂質シルト0.15m、第3層が黄褐色中・細礫混じり砂である。第3層上面で遺構検出を試みたが遺構・遺物ともに検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	65	遺跡名	神戸中学校遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市十宮4丁目1－1
調査原因	グランド改良			事業主体	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.1.4 ～1.6
調査面積	159㎡			担当者	藤原秀樹・新田剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の低位段丘上に位置する弥生時代～近世の遺跡として知られ、「古里」の小字名が残る。幅1mのトレンチを3本（トレンチ番NO1～3）設定し、表土0.005～0.05m及び暗褐色粘土質シルト層0.1～0.4m除去した。礫混じり砂質シルトの地山上面で遺構検出を行った。	トレンチNO1 ・竪穴住居 ・土坑 ・溝 ・ピット	・弥生土器 ・土師器 ・須恵器（朱付の須恵器杯あり） ・丸瓦
	トレンチNO2 ・土坑 ・溝 ・ピット	・土師器
	トレンチNO3 ・方形周溝墓 ・竪穴住居 ・土坑	・弥生土器 ・土師器 ・須恵器 ・山茶椀

関連文献	

No.	66	遺跡名	宮ノ前遺跡	所在地	鈴鹿市十宮町字宮ノ前
調査原因	住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H5.3.25
調査面積	70㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
神戸の市街地の北方はずれに位置する。鈴鹿川右岸の低位段丘が谷底平野に埋没するところで、鈴鹿川から約50mの地点である。海抜11m。 調査の結果、耕作土の直下で、奈良時代の掘立柱建物を検出し、下層は弥生時代末から古墳時代前期の包含層であった。	・掘立柱建物 3×4間　1棟 不明　1棟	○上層 ・須恵器 ○下層 ・弥生土器 ・土師器

関連文献	

No.	67	遺跡名	中瀬古南遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市中瀬古町西ノ口
調査原因	住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.10.21
調査面積	25㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中ノ川右岸の台地上に位置する古墳時代～中世の集落遺跡。 5×5mの試掘坑1ケ所を調査したところ、ピット、小溝（竪穴住居の壁溝か）を検出した。遺構の残りはきわめて悪い。	・ピット ・小溝（竪穴住居？）	・弥生土器片 ・須恵器片 少量

関連文献

No.	68	遺跡名	寺谷古墳群	所在地	鈴鹿市郡山町字西谷山663-222
調査原因	学校建設			事業主体	亨栄学園
調査機関	寺谷古墳群発掘調査団			調査期間	H4.7.6～H5.2.5
調査面積	15,000㎡			担当者	新田剛・藤原秀樹

遺跡の概要

中ノ川右岸の低位段丘に所在する。5世紀後葉～6世紀前半にかけての円墳3基、造出付方墳1基、方墳15基、円筒埴輪棺3基、7世紀初頭の土壙墓、8世紀の甕棺土壙墓からなる墳墓群。古墳は耕作により墳丘をすべて失っているが、周構内からは、豊富な埴輪類が出土している。また北向き斜面において、縄文時代中期～後期の遺物包含層（石皿、石鏃、すり石、石斧）を検出した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
寺谷1号墳	方墳	6	――	須恵器	5C末～6C初	
2号墳	〃	5.1	――	円筒埴輪	〃	
3号墳		12	――	形像・円筒埴輪 須恵器	〃	周溝内祭祀
4号墳	円墳	16	――	〃	〃	
5号墳	方墳	5.1	――	〃	？	
6号墳	円墳	17.5	――	形像・円筒埴輪 須恵器、鉄器	5C後半	周溝内祭祀
7号墳	方墳	5.3	――	須恵器	6C前半	
8号墳	〃	10.7	――	〃	〃	
9号墳	〃	4.8	――	〃	5C末～6C初	円筒棺
10号墳	〃	9.8	――	須恵器、土師器	6C前半	
11号墳	〃		土壙墓	須恵器	7C前	
12号墳	〃	10.5	――	〃	6C前	
13号墳	〃	4	――	〃	〃	
14号墳	〃	3.4	――	〃	〃	
15号墳	造出付方墳	全長12.8 幅9.8 造出3.2	――	〃 土師器	〃	
16号墳	円墳	13.2	――	須恵器、土師器	〃	
17号墳	方墳	10.3	――	形像・円筒埴輪 須恵器	5C末～6C初	周溝内祭祀
18号墳	〃	2.9	――	須恵器	6C前半	
19号墳	〃	4.6	――	〃	〃	
20号墳	〃	7.1	――	形像・円筒埴輪 須恵器	5C末～6C初	

関連文献

No.	69	遺跡名	塚腰遺跡	所在地	鈴鹿市郡山町字塚腰
調査原因	側溝工事			事業主体	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.9.22～9.24
調査面積	64㎡			担当者	新田剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
工事立会いの際、遺構・遺物が検出されたため、記録保存とした。調査区は0.8×80mのトレンチで、表土(耕作土)を0.2m除去した地山上面で遺構確認を行った。	・竪穴住居(弥生時代) ・溝(中世) ・ピット(平安時代～中世)	・弥生時代 ・土師器 ・山茶椀

関連文献	

No.	70	遺跡名	一反通遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市上野町字一反通
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.4.6
調査面積	30㎡			担当者	新田剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
5×6mの試掘坑を設け、客土及び耕作土を約0.6m除去した地山上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	71	遺跡名	四辻経塚(試掘)	所在地	鈴鹿市東庄内町字池代
調査原因	工場建設			事業主体	チトセ株式会社
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.11.11
調査面積	28㎡			担当者	新田剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
2×2mの試掘坑を7ケ所設定し、調査を行った。基本層位は第1層が客土0.3～0.7m、第2層が黒ボク土0.2m、第3層が褐色砂質シルト0.1～0.3m、第4層が黄褐色礫混じり砂質シルトの地山である。 調査の結果、遺構・遺物ともに全く発見されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	72	遺跡名	北中大野遺跡(試掘)	所在地	鈴鹿市三畑町字北中大野
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.7.15
調査面積	18㎡			担当者	浅尾悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺跡は山茶椀等の破片が認められる散布地である。 黒褐色砂質土層(0.3m)の下は黄褐色粘質土層(地山)で、遺構・遺物とも発見されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	73	遺跡名	奥ノ谷遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市上田町字牛飼場
調査原因		土壌改良		事業主体	（有）大和土木
調査機関		鈴鹿市教育委員会		調査期間	H4.6.2
調査面積		30㎡		担当者	浅尾悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
詳細遺跡分布調査時には、チャート製石器、茶有茎尖頭器、須恵器、土師器、山開発区域内の散布が認められた。事前分布調査は山林で帯状に4,041㎡）の試掘調査のみ試掘調査を2×3m黒ボクの黒色土で砂質土（40～50cm）の堆積層（地山）の掘削実施した。表土は黒褐色土砂礫層で落坑施設は困難なため、2ケ所の遺構・遺物が発見されたのは、2ケ所とも浅く全くそっ込み遺構確認できなかった。	なし	なし

関連文献	

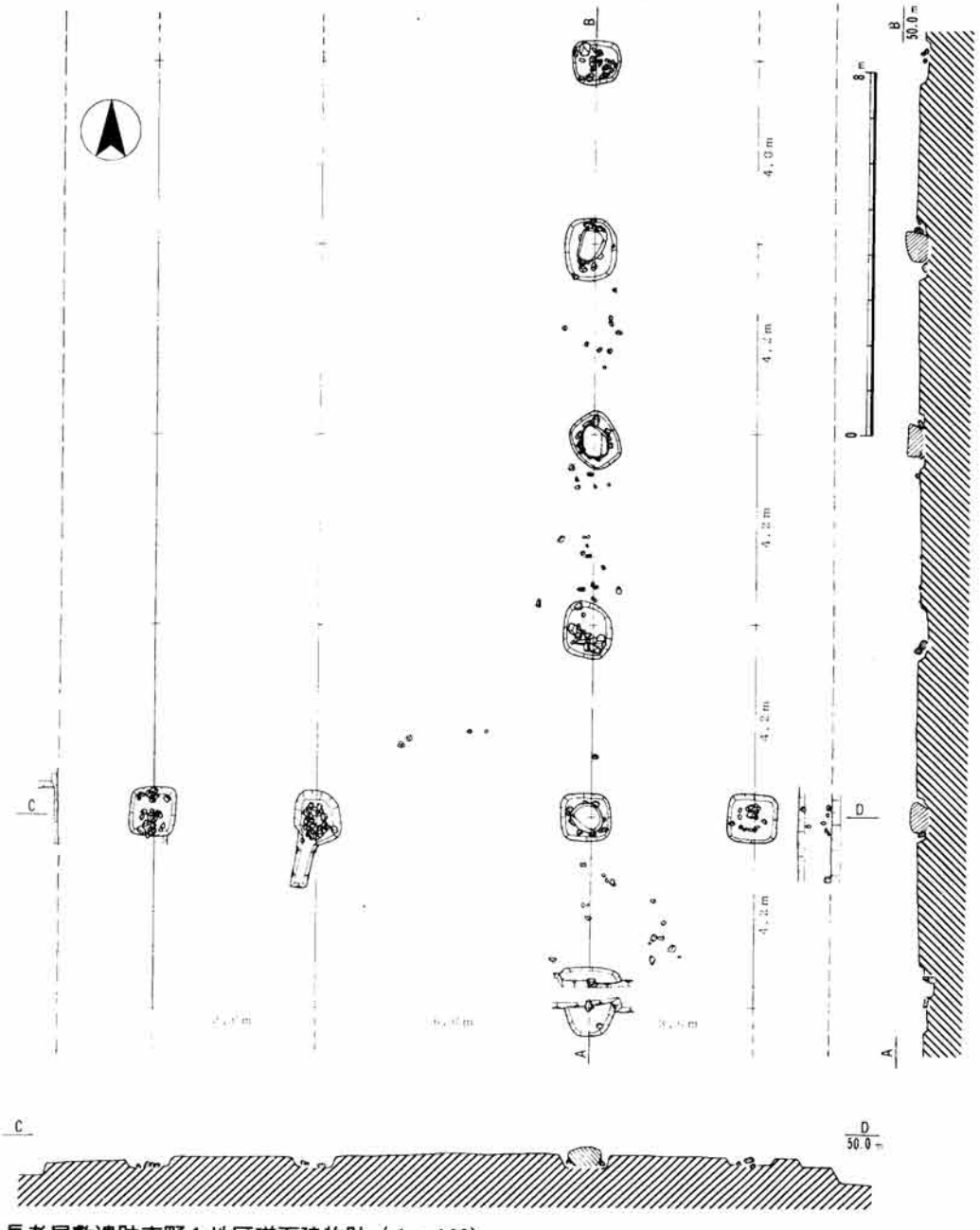
No.	74	遺跡名	長者屋敷遺跡(1次)	所在地	鈴鹿市広瀬町字長塚ほか
調査原因		重要遺跡範囲確認調査		事業主体	鈴鹿市教育委員会
調査機関		鈴鹿市教育委員会		調査期間	H4.11.10 ～H5.1.29
調査面積		335 ㎡		担当者	浅尾悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
重要遺跡範囲確認調査は初年度で3ケ所の調査区を設定した。 南野1地区は藤岡謙二郎氏が既に調査行われた。検出された遺構は東西5間以上の礎石建物（3.6m＋6.0m＋3.6m）×南北3間（4.2m等間）で、前回調査の結果推定するとあるいは1間×8間の上屋部分の全ての棟持ち柱と思われる箇所もあり、両妻面落軒瓦及び棟瓦とびしの中で、建物の半数は瓦葺の可能性が高い。基壇は断片的に認められ、建物の規模は不明である。 長塚1地区の周辺からは砂利敷の遺構を確認する。	長塚1地区 ・瓦葺建物跡、 ・砂利敷 南野1地区 ・瓦葺礎石建物跡 荒子1地区 ・瓦溜2基 ・溝	・平瓦 ・丸瓦 ・須恵器（杯） ・石斧

関連文献	藤岡謙二郎『都市と交通路の歴史地理学的研究』（大明堂 1960 ）

南野１地区付近全景

礎石建物跡（南より）



長者屋敷遺跡南野１地区礎石建物跡（１：160）

No.	75	遺跡名	矢下3号墳	所在地	鈴鹿市西富田町
調査原因	道路改良（拡幅）			事業主体	鈴鹿市（道路建設課）
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.8.10～8.14
調査面積	20 ㎡			担当者	浅尾悟

遺跡の概要

市道の拡幅により削平される部分について調査を実施した。調査前には既に西側半分は削られており、頂部には盗掘坑らしき土坑が見られた。東側は自然の谷となり、現市道との比高差は、約2.3mあるが、現道自体が削られており、墳丘の高さは1.5m前後と推定される。中央部分で粘土床を検出し、幅1.1m、幅さ2.5m以上でほぼ東西に向いている。鉄刀は粘土床のほぼ中央部で検出したが、他に副葬品は見られなかった。また、墳丘の下層の黒ボクからは弥生土器（中期前半）が比較的多量に出土した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
矢下3号墳	円墳	（15m）	粘土槨	鉄刀	5C？	

関連文献

No.	76	遺跡名	西ノ野遺跡	所在地	鈴鹿市国府町西ノ野
調査原因	住宅建築			事業主体	個人
調査機関	鈴鹿市教育委員会			調査期間	H4.8.20～8.22
調査面積	70㎡			担当者	藤原秀樹

遺跡の概要

鈴鹿市右岸台地上に所在する西ノ野遺跡・西ノ野古墳群の一角に位置する。土壙墓3基と古墳周溝1を検出した。土壙墓1からは6世紀前葉の須恵器杯が出土した。土壙墓3には円筒埴輪が1個体副葬されていた。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
西ノ野16号墳	円墳	約 9m	——	——	——	

関連文献　『鈴鹿市史　第1巻』（鈴鹿市教育委員会　1980）

No.	77	遺跡名	柴戸遺跡	所在地	亀山市川合町字柴野
調査原因	宅地造成			事業主体	有限会社たなべ不動産
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H4.5.18～7.22
調査面積	2,570 ㎡			担当者	山口昌直

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
椋川右岸の標高約45mの段丘北西端、昭和63年の調査区の西側隣地に位置する。 調査の結果は、円墳3、竪穴住居5棟、掘立柱建物4棟、土壙墓等が確認された。 円墳は径10～15m程度でいずれも周溝を有するが、そのうち1基は後世の開墾時に削平され、周溝を残すのみであった。他の2基の残存状況もあまり良くなかった。また、竪穴住居は古墳の下層から確認された。 これらの円墳、竪穴住居および掘立柱建物は、東側隣地の調査結果から円墳は6世紀前半、竪穴住居は5世紀前半、掘立柱建物は11世紀のものと思われる。	・円墳 ・竪穴住居 ・掘立柱建物 ・土壙墓 ・土坑 ・ピット	・土師器 ・鉄刀

関連文献　『柴戸古墳　柴戸古墳発掘調査概要』亀山市文化財概要3（亀山市教委1989）

No.	78	遺跡名	東樺野遺跡	所在地	亀山市菅内町上野
調査原因	国道改良			事業主体	県土木部
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H4.7.27～10.30
調査面積	3,600 ㎡			担当者	山口昌直

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の標高約55mの尾根上に位置する。古墳は東樺野2号墳（平成3年度調査）が存在するが、周辺の地形から考えて、古墳の存在を推測させる。 調査区内の遺構は、溝、柱穴、井戸、土坑、ピット等の遺構が検出され、遺物は須恵器、土師器、山茶椀、山皿、羽釜、伊勢型鍋等の遺物が出土した。 丘陵上の遺物は、縄文時代末期～鎌倉時代の一部と考えられる。	・溝 ・掘立柱建物 ・井戸 ・土坑 ・ピット	・須恵器 ・土師器 ・山茶椀 ・山皿 ・羽釜 ・伊勢型鍋

関連文献　『東樺野2号墳・東樺野遺跡』（三重県埋蔵文化財センター1992）

No.	79	遺跡名	忍山遺跡	所在地	亀山市野村町忍山
調査原因	道路建設			事業主体	亀山市
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H4.11.11 ～H5.2.9
調査面積	2,950 ㎡			担当者	山口昌直

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸の標高約58mの段丘南端に位置する。 調査区内のほぼ全域から掘立柱建物、井戸、溝、土坑等の遺構が検出され、遺物は13世紀末～14世紀前半に営まれた集落の一部である。出土遺物は縄文時代晩期の深鉢片がほとんどで、調査区西端から出土した。 南西端で遺構は検出されなかった。	・掘立柱建物 ・井戸 ・溝 ・土坑 ・ピット	・縄文土器深鉢（馬見塚式） ・山茶椀 ・山皿 ・土師皿 ・羽釜

関連文献

No.	80	遺跡名	大垣内遺跡	所在地	亀山市山下町大垣内
調査原因	宅地造成			事業主体	中部開発三重株式会社
調査機関	亀山市教育委員会			調査期間	H5.2.16～3.末日
調査面積	605 ㎡			担当者	山口昌直

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の標高約67mの段丘先端に所在する。周辺には多くの遺跡が存在する。 調査区内の遺構は、古墳、土坑、ピット等の遺物が出土した。 1条検出された溝は、隣接する沢遺跡と思われる。	・古墳周溝 ・掘立柱建物 ・土坑 ・ピット	・縄文土器深鉢（北白川C式） ・須恵器 ・土師器 ・山茶椀

関連文献　『沢遺跡Ⅱ』亀山市文化財調査報告6（亀山市教委1990）

No.	81	遺跡名	宮ノ裏遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字内多字宮ノ裏
調査原因		工場建設		事業主体	三鈴ハウス株式会社
調査機関		安濃町遺跡調査会		調査期間	H4.9.8 ～9.10
調査面積		790 ㎡		担当者	田中秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊勢自動車道で分断されているが昨年調査した内多馬場遺跡と同じ丘陵上の遺跡である。 主な遺構として、7世紀代の竪穴住居3棟、奈良時代の掘立柱建物3棟以上が検出された。 また遺物としては須恵器杯、甕、高杯、土師器甕、皿、杯、瓦等があり、特殊な遺物としては坩堝が出土しており、近くで製銅ないし製鉄が行われていた可能性が考えられる。	・SH1　6 ×3.5m ・SH2　3.4 ×3.4m ・SH3　6 ×6 m ・SB1　2 ×3 間 (3.6×5.1m) ・SB2　2 ×2 間 (3.9×3.9m) ・SB3　2 ×3 間 (6.6×4.8m)	・須恵器 (杯、高杯、甕) ・土師器 (杯、皿、甕、甑) ・平瓦破片 ・坩堝破片

関連文献

No.	82	遺跡名	山添遺跡(試掘)	所在地	安芸郡安濃町大字清水字山添
調査原因		宅地造成		事業主体	株式会社　西浦産業
調査機関		安濃町遺跡調査会		調査期間	H4.11.19 ～11.20
調査面積		80㎡		担当者	田中秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
清水が丘団地の南東隣で、津市との境付近で現況は水田、畑である。 調査区の南・北端部で竪穴住居、溝などの遺構、中央では中世以前の水田跡が検出された。年度末から来年度にかけて調査の予定。	・竪穴住居2棟 ・溝 ・土坑 ・水田	・須恵器(甕、壺) ・土師器 (杯、皿、甕) ・山茶椀

関連文献

No.	83	遺跡名	ツヅミ遺跡	所在地	安芸郡安濃町東観音寺字ツヅミ
調査原因		土取り		事業主体	株式会社伊勢組
調査機関		安濃町遺跡調査会		調査期間	H4.6.8 ～8.9
調査面積		220 ㎡		担当者	田中秀和

遺跡の概要

ツヅミ遺跡は、前田遺跡の東にある丘陵上の遺跡で、土取り工事に伴い調査を実施した。6世紀前半の古墳と50基の鎌倉時代末～室町時代にかけての中世墓が発見された。古墳は2基発見され、1号墳の主体部は木棺直葬で、2号墳には横穴式石室と推定される。
中世墓は50基発見され、焼いて砕いた骨を骨壺にいれた後埋葬し、そのまわりを石組みで囲むものと、地面に穴を掘り、木のお棺を埋めたもの、焼いて砕いた骨を地面に埋めたものがみられた。副葬品はほとんどなく、土師器の皿がある程度であった。骨壺の蓋として用いられた山茶椀には梵字と思われる墨書が見られるものもあった。また五輪塔の部品が十数点出土した。完全になるものはなかったが墓がつくられた当時これらの塔が建っていたと思われる。

古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考
ツヅミ1号墳	方墳	8 ×5 m	木棺直葬 2.5 ×1.2m 棺 1.6 ×0.5m	・須恵器 (杯身、蓋、壺) ・鉄鏃	MT15 6世紀 前半	
ツヅミ2号墳	円墳	10m	横穴式石室?	・須恵器 (高杯)	TK43 6世紀 後半頃	未調査、今後土取り時に調査予定

関連文献

No.	84	遺跡名	多倉田遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字村主字多倉田
調査原因	宅地造成			事業主体	個人
調査機関	安濃町遺跡調査会			調査期間	H4.12.5～12.27
調査面積	225 ㎡			担当者	田中秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昭和55年三重県教育委員会が調査した県道の地点である。現状では、盛土がなされて調査区の西半部は、水田であった。込み合った状況から、自然地形であった。遺構面は2面確認され、上層で2条、下層で2条検出され、上層は中世の溝等時代の遺構を含む溝であり、下層は縄文時代後期及び自然流路である。 なお、試掘調査の際に、調査区の南側に検出された溝は、そのまま延長すると西端の寺の西端にかかる。また、当該期の法寺の正面を考えられる。	○上層 ・溝2条 ・土坑 ○下層 ・溝2条 ・自然流路	○縄文時代後期 ・深鉢破片 ○弥生時代 ・後期甕、高杯破片 ○古墳時代前期 ・高杯破片 ○古墳時代中期 ・須恵器（杯、高杯） ○奈良時代 ・須恵器（杯、高杯） ○中世 ・山茶椀

関連文献	

No.	85	遺跡名	上津部田城址	所在地	津市一身田上津部田
調査原因	史跡公園整備のための遺構確認			事業主体	津市
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H4.7.6 ～8.28
調査面積	約600 ㎡			担当者	米山浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高15mほどの丘陵北端部に立地する戦国時代の平山城である。 土塁に囲まれた主郭は北東隅が開口し門跡があり、主郭内からは掘立柱建物7棟、井戸、柵列、集石土坑等が検出されている。 主郭南には堀切、北・東・南には郭が付属する。また、主郭南東の各部にも大小の平坦部があった。	・掘立柱建物 ・土坑 ・井戸 ・集石土坑 ・柵列 ・土塁 ・堀切	・土師器（羽釜、皿） ・常滑焼（甕、捏鉢） ・瀬戸・美濃産 （擂鉢、灰釉皿）

関連文献	『上津部田城址発掘調査報告』（津市教育委員会　1989） 『上津部田城址（第2次）発掘調査報告』（津市教育委員会　1992）

No.	86	遺跡名	（仮）半田遺跡・平木遺跡（試掘）	所在地	津市半田
調査原因	一般県道家所阿漕停車場線道路改良事業ほか			事業主体	県土木部
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H4.9.7 ～9.18
調査面積	128㎡			担当者	池端清行・村木一弥

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
現況は岩田川右岸の丘陵裾付近にひろがる標高2.5 m前後の水田である。 調査の結果、中近世を中心とした遺物が若干出土したが、遺構は検出されなかった。	なし	・土師器 ・須恵器 ・山茶椀 ・天目茶椀

関連文献	

No.	87	遺跡名	四ツ野B遺跡	所在地	津市高茶屋小森町字四ツ野
調査原因	工場建設			事業主体	ｻｰｸﾙｹｲ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
調査機関	津市教育委員会			調査期間	H4.5.7 ～8.15
調査面積	1,900 ㎡			担当者	池端清行・村木一弥

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
四ツ野地区は、弥生時代後期の遺跡が南東に隆起する段丘上に立地する。Bの調査では、縄文時代晩期の土器棺墓2基、弥生時代前期の竪穴住居78棟、時期不明の掘立柱建物2棟が検出された。縄文時代晩期の土器棺墓は、昭和61年に出土した。弥生時代前期の竪穴住居は、縄文時代晩期の竪穴住居の上に重複して検出された。竪穴住居は、平面形が五角形を呈するものが多い。竪穴住居の出土遺物は、縄文時代晩期の土器棺墓の出土土器と、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が考えられる。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。竪穴住居の出土遺物は、弥生時代前期の竪穴住居の出土土器が多い。	○縄文時代晩期 ・土器棺墓2基 ○弥生時代前期 ・土坑1基 ○古墳時代前期を中心とする竪穴住居78棟 （五角形住居1棟） ○時期不明 ・掘立柱建物2棟	・縄文土器（晩期） ・弥生土器（前期・後期） ・土師器 （古墳時代前期～中期） ・須恵器（小片が1点出土したのみ）

関連文献	『津市の文化財』（津市教育委員会　1989）

No.	88	遺跡名	久居城址	所在地	久居市万町
調査原因	県都市計画道新設			事業主体	三重県都市計画課
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H5.2.20～3.25
調査面積	500㎡			担当者	辻富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
寛文10年に開かれた久居藩の城中にあたり、武家屋敷が配置されていた。	・土坑（民家倒壊後の処理坑） ・井戸	・近世陶磁器 ・木製品（下駄など）

関連文献	

四ツ野Ｂ遺跡全景（北西から）

竪穴住居群（北西から）

No.	89	遺跡名	戸木遺跡	所在地	久居市戸木町字桃里
調査原因	市営住宅新設事業			事業主体	久居市建設課
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H4.6.24～9.21
調査面積	1,500㎡			担当者	辻富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
室町時代後期の戸木城址と江戸時代初期の久居城址に挟まれて位置する。 遺跡は南に段丘を持ち、段丘端部に土塁が築かれている。	・溝　土塁の下部に南北方向の溝が検出され、出土遺物から16～17世紀初頭と考えられる。 ・土塁　溝の下部で検出された溝により、土塁の構築時期は17世紀初頭以降と考えられる。	・陶磁器

関連文献	

No.	90	遺跡名	庄田第1号墳	所在地	久居市庄田町字貝下
調査原因	宅地開発			事業主体	久居市土地開発公社
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H4.5.22～6.24
調査面積	225㎡			担当者	辻富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
榊原川沿いに形成された段丘の一部で、舌状に張り出した台地の基部にあたる部分に構築されている。 古墳は9基で構成された庄田古墳群の一部で、古墳群中最も台地基部に位置している。 古墳は横穴式石室を主体部に持つ一辺約11mの方墳である。 石室床面には2基の組合式石棺が設置されていた。	・横穴式石室 羨道・玄門部分はすでに消滅していた。 組合式石棺2基	・須恵器 6世紀末 （杯、杯身、高杯、提瓶、横瓶） ・金銅製棺飾 ・金銅製耳環 ○中世 （表土部分より） ・土鍋 ・山茶椀

関連文献	

No.	91	遺跡名	赤坂遺跡	所在地	久居市木造町字赤坂
調査原因	県一般農道整備工事			事業主体	三重県農林水産事務所
調査機関	久居市教育委員会			調査期間	H4.11.11～H5.1.21
調査面積	1,800㎡			担当者	辻富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川沿いの低湿地中の微高地に広がる遺跡である。 今年度の調査対象地は、微高地全域に広がる赤坂遺跡の東端にあたる。 赤坂遺跡は縄文時代から中世に至る集落が連綿と築かれていたと考えられる。	○弥生時代 ・溝（周溝の一部か） ○中世 ・土坑 ・ピット	○弥生時代 ・中期の土器 （周溝中より発見） ・壺　2 ○中世 ・山茶椀

関連文献	

No.	92	遺跡名	薬師谷古墳群	所在地	一志郡一志町大字八太
調査原因		ゴルフ場造成		事業主体	株式会社丸二
調査機関		一志町教育委員会		調査期間	H3.1.10～H4.12.10
調査面積		約6,000 ㎡以上		担当者	伊勢野久好

遺跡の概要

前年度からの継続調査。延長300m、幅20m弱の尾根上に古墳14基が、また谷筋には石切場跡が築かれている。このうち古墳群については、砂岩（いわゆる井関石製）を用いた横穴式石室も小石室であり、2～3基がひとつのグループをなして偏在している。

各古墳の墳形は狭長な尾根を利用した不整形であり、規模も不明確なものが多い。時期は前年度同様MT15～TK43型式の残存する内に、TK10型式を最盛期としている。各古墳の遺存状態は良好で閉塞石が多い。

特筆すべき横穴式石室は14号墳で、当古墳群中最大規模の石室である。石室形態は嬉野町釜生田古墳群と類似するも幅の広い玄室内から、3人以上の埋葬が認められ、豊富な副葬品が出土している。主な水晶製三輪玉、水晶原石をはじめ玉類（管玉・小玉）、轡一式（f字鏡板・引手金具等）、鉄製品（直刀・短刀・鉾・斧・鏃等）、土器類があげられる。中でも水晶原石の大量出土は極めて稀なことであり、注目されよう。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
薬師谷 9号墳	不整形	——	横穴式石室	杯身セット3、鏃	TK10	閉塞石
〃 10号墳	〃	——	〃	壺、鉄斧、刀子、鏃	〃	箱式石棺2
〃 11号墳	〃	——	〃	杯身、玉類 人骨片	TK10～TK43	箱式石棺1 閉塞石
〃 12号墳	〃	——	〃	短頸壺、直口壺 杯身片	TK10	両袖式
〃 13号墳	〃	——	小石室 2	玉類、刀子	MT15～TK43	
〃 14号墳	〃	——	横穴式石室	水晶製三輪玉7 水晶原石54 玉類 鉄製品 土器類	MT15～TK43	閉塞石 框石

関連文献

No.	93	遺跡名	片野遺跡（第5次）	所在地	一志郡一志町大字片野
調査原因		町道建設		事業主体	一志町環境改善課
調査機関		一志町教育委員会		調査期間	H4.11.11～H5.1.6
調査面積		520 ㎡		担当者	伊勢野久好

遺跡の概要

片野遺跡は、丘陵上段に位置する。中世の遺構は、右岸の縄文時代中期から中近世まで連続して認められる。

既に4回の調査が実施されている。今回の調査区は、丘陵上の西南側に位置する。

調査区は、丘陵上の西南側に位置する。

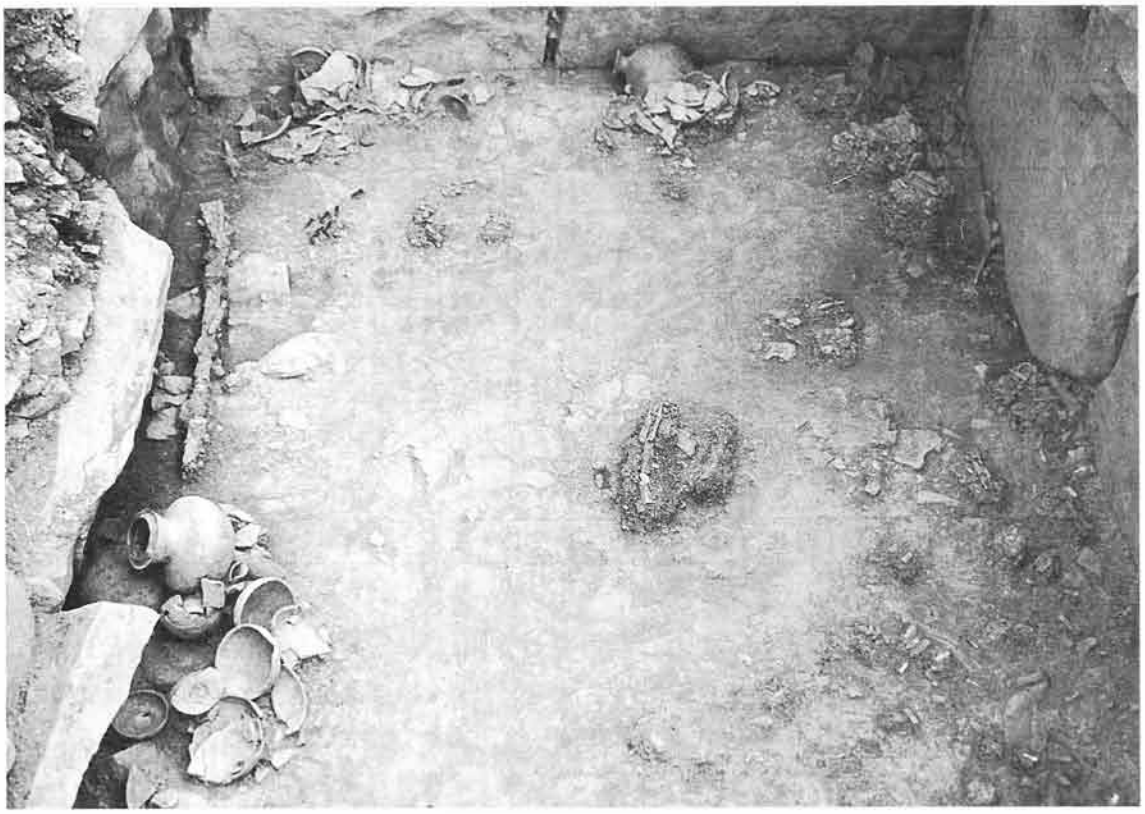
主な遺構

○弥生時代中期
・方形周溝墓5基以上
○古墳時代
・土壙墓3基以上
○奈良時代
・竪穴住居3棟

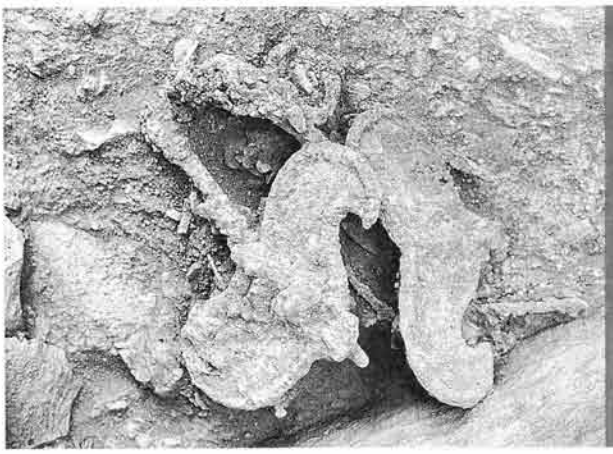
主な遺物

○弥生時代
・弥生土器　壺・甕（Ⅱ～Ⅲ期）
・石器類
○古墳時代
・滑石製臼玉
○奈良時代
・土師器（皿、椀、甕など）

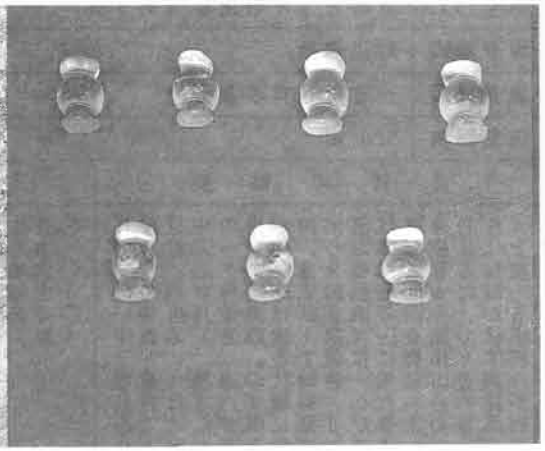
関連文献



薬師谷14号墳　遺物出土状況



轡出土状況



水晶製三輪玉

No.	94	遺跡名	笹遺跡	所在地	一志郡一志町大字井生
調査原因	配送センター取付道路建設			事業主体	株式会社昭和
調査機関	一志町教育委員会			調査期間	H5.1.19～3.13
調査面積	約800 ㎡			担当者	伊勢野久好

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は雲出川右岸の河岸段丘上に位置する。 今回の調査は遺跡西端部を南北に縦断する道路幅に限られるため、遺物の出土量は少ない。 また、遺構は弥生時代中期の竪穴住居をはじめ奈良時代の大溝2条と時期不明の柱穴が多数検出された。	○弥生時代中期（Ⅳ期 ・竪穴住居1棟 ○奈良時代 ・大溝2条	○弥生時代 ・弥生土器（壺、甕） ○奈良時代 ・土師器（杯、甕） ○中世 ・山茶椀・陶磁器類

関連文献	

No.	95	遺跡名	下之庄東方遺跡（南浦地区）	所在地	一志郡嬉野町中川字南浦
調査原因	南浦土地区画整理			事業主体	南浦土地区画整理組合
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H4.2.10～7.25
調査面積	9,800 ㎡			担当者	和気清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
弥生時代～鎌倉時代までの複合遺跡である。 当初試掘調査においては石包丁等の遺物が確認されており、弥生時代の集落跡が想定され、今回の調査においては鎌倉時代の方形区画の溝を有する集落跡が確認された。 一部調査不可能な地域があるため、正確な規模等は不明である。 また、60m以上の単位の方形区割り遺構が存在し、その中に奈良時代の道状遺構が確認されている。 さらに、道状遺構の方位については、方形区割りの方位と大きく変わっても確認されている。	・区割り溝6条 1．南北に流れ幅1mで深さ0.3m 2．東西に流れ幅1m深さ1m 発掘区の中央部に流れる溝については断面が台形状を呈する溝であり、他の溝と比べ非常に深い溝となる。この前面には20m単位の小区画が有するものである。 ・井戸2基 建物跡については、現在整理中で不明であるが、掘立柱建物が4棟以上存在する。 奈良時代の道状遺構については幅50cmの溝が約1m間隔で平行し東西に流れるものである。	○弥生土器（中期）壺 ○奈良時代 ・土師器 ○鎌倉時代 ・山茶椀 全体的に土器量は少ない

関連文献	

No.	96	遺跡名	中川駅前遺跡群 片部遺跡他（試掘）	所在地	一志郡嬉野町中川
調査原因	中川駅前区画整理			事業主体	中川駅前区画整理組合
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H5.2.1 ～3.5
調査面積	960 ㎡			担当者	和気清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
近鉄中川駅前周辺51ヘクタールの地域の試掘調査である。 遺構・遺物が確認された地域は、中川駅北東地域においては、上層で鎌倉を主体とした層と下層において弥生前期・中期・古墳時代の層が確認された。下層においては分層が可能かは問題点が残る。 駅南東地域においては、最南の字下フケで腐食土上層において鎌倉の遺物包含層が確認でき、下層においては時期不明であるが、流木等の自然遺物が確認できる。駅西の小川神社周辺においても平安～鎌倉の遺物包含層が確認された。	遺構については低湿地の遺跡であることから、遺構検出において明瞭な遺構として捉えるについては試掘坑としての限界があるため、明瞭に確認されたもののみ見るならば溝などの遺構であるが、一部畦状の遺構や堤状の遺構を確認することができた。	○縄文時代 中期と考えられる底部の破片があるのみである。 ○弥生時代 前期に属するであろうと考えられる壺頸部の破片と、中期後半の櫛描文の破片が確認された。 ○古墳時代 S字口縁甕B類とTK208併行期の須恵器が確認されている。 ○奈良時代 明瞭に奈良に属する遺物は少ないが、須恵器等がある。 ○平安～鎌倉時代 この時期の遺物が最も多く山茶椀や青磁が確認されている。

関連文献	

No.	97	遺跡名	一志廃寺・天保遺跡	所在地	一志郡嬉野町一志
調査原因	町道一志・島田線新設			事業主体	嬉野町土木課
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H5.3.15～調査中
調査面積	2,000 ㎡			担当者	和気清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川左岸の堤防地から現在の薬師寺裏山を通り島田に抜けていく路線である。試掘調査においては一部布目瓦等が確認されていることなどから、一志廃寺の外郭の遺構が存在すると考えていたが、現在の調査段階においては廃寺に関連する遺構は確認されていない。 しかし、現在既存の道の下層に古墳時代を主にした遺物を含む層が存在しており、その性格については不明な点が多い。	一部の調査区においてのみ遺構検出を行っただけであるため、明確な遺構の把握は出来ていないが、現在のところ、東西に流れる大溝と南北に流れる子溝が交錯する状況で確認されており、溝の遺物から、平安時代に属するものであると考えられる。	・土師器 ・須恵器（古墳・平安時代などが確認されているが現在未整理であるため、詳細については不明である。

関連文献	

No.	98	遺跡名	まんじゅう山古墳群	所在地	一志郡嬉野町滝之川
調査原因	ゴルフ場造成工事			事業主体	株式会社三永開発
調査機関	嬉野町教育委員会			調査期間	H4.2.10～5.1.29
調査面積	9,350㎡			担当者	和気清章

遺跡の概要

中村川上流の右岸にある標高135 mの丘陵上にある古墳群である。今回調査を行った丘陵には5基の古墳群が確認されているが、ほぼ同高の南東丘陵においても4基の古墳群が存在し、この古墳群と共にまんじゅう山古墳群が形成されている。

今回の調査においては、こうした古墳以外に、高さ1.70m、幅1.80mの大型石組遺構が確認されており、古墳前面の20mの丘陵斜面上に位置することやテラスを付属させることなどから古墳群に対する祭祀場等と想定している。この大型石組遺構の他に、西15m地点に幅0.8 mほどの小型の物も存在し、石組の構造等から同様の遺構であると考えられる。

共に、立石下の壇状石組については1枚は岩盤の利用を行っているもので、大型のものについては、立石下は岩床を平らにし一部加工をした岩床上に立石を立てたものであることが確認された。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
1号墳	円墳	14.8m	横穴式石室	・須恵器・金環	6C末	
2号墳	〃	12.6m	〃	・須恵器・金環	6C後	
3号墳	〃	16.9m	〃	・須恵器 ・金環 ・土師器（甕、甑） ・韓式系土器	6C後	
4号墳	〃	12.8m	〃	・須恵器・金環	6C末	
5号墳	〃	16.2m	〃	・須恵器・金環	6C末	

	高さ	幅	厚さ	構造	備考
1号石組	1.72m	1.80m	1.50m	大型の立石の前面に、3枚の平石を置き、祭壇状の壇を作る。	

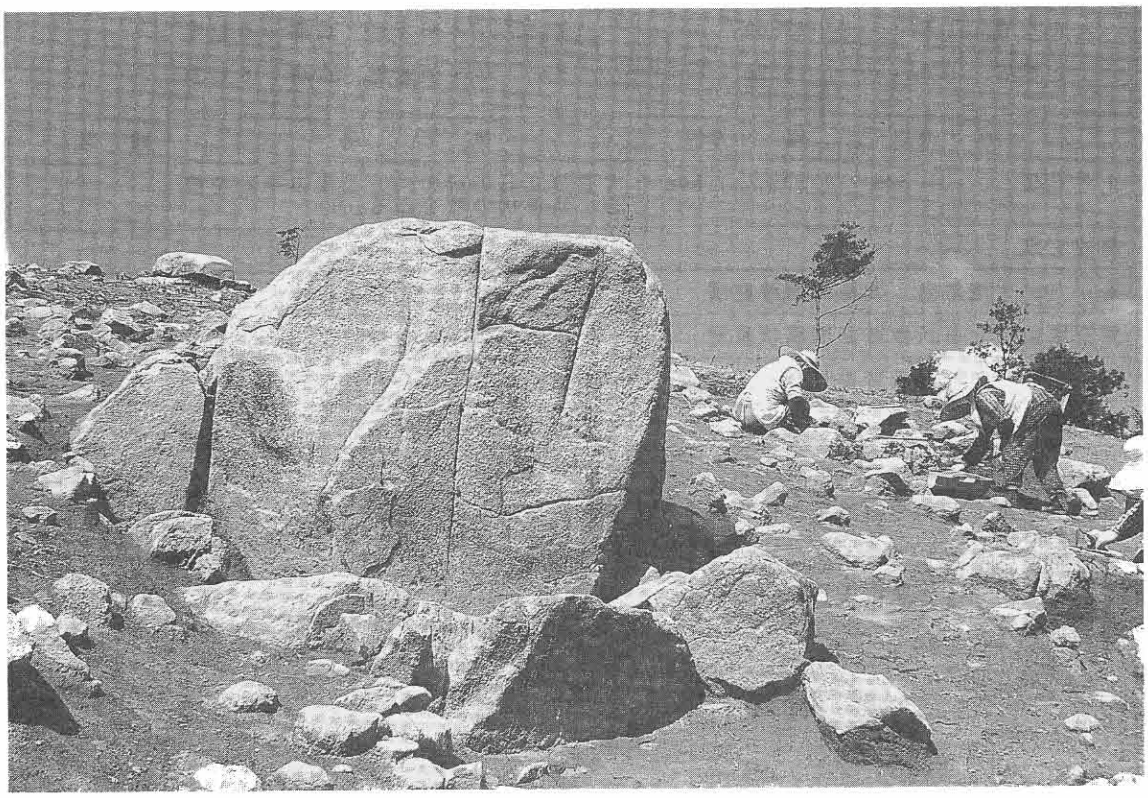
関連文献	

No.	99	遺跡名	北畠氏館跡庭園	所在地	一志郡美杉村上多気1148
調査原因	北畠氏館跡庭園現状変更			事業主体	北畠神社
調査機関	美杉村教育委員会			調査期間	H4.6月～7月
調査面積	11㎡			担当者	宮崎洋史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
庭園保護のための柵設置に伴う調査である。 調査の成果として、1.館造成のための整地土が存在すること、2.金箔装の引手金具が出土したことがあげられる。	・15世紀中葉頃の整地土 ・16世紀後半の遺構（土坑・ピット）	・金箔装の引手金具 ・南伊勢系の土器類

関連文献	

まんじゅう山古墳群　全景



同　立石

No.	100	遺跡名	安田遺跡（試掘）	所在地	松阪市六根町
調査原因	砂利採取			事業主体	松阪興産（株）
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H4.10.19
調査面積	192㎡			担当者	福田昭・西田尚史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
砂利採集に伴う六根地内の安田遺跡の水田部分を試掘した。 地表から3m掘った所で涌水し、砂利・砂層に当たり、遺構・遺物の検出はなかった。畑地の部分は対象外である。	なし	なし

関連文献　『松阪市史　資料篇　考古』（松阪市史編纂委員会　1978）

No.	101	遺跡名	白山古墳群	所在地	松阪市丹生寺町1205
調査原因	団地造成			事業主体	和興ホーム三重（株）
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H5.1.～3月末
調査面積	1,000㎡			担当者	福田昭・西田尚史

遺跡の概要

国道166号線から近畿自動車道伊勢線に通じる丹生寺・一志線沿いの西野町の東側に位置する丸山にある。
3号墳は、天上石5枚と側壁・奥壁が残存する。
4号墳は、天井石3枚と玄室の奥壁以外が残存する。
両古墳とも天井石に使われた1～2tの石以外は比較的小ぶりの川原石が使われいる。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
白山3号墳	円墳	径15m 高さ2.6m	横穴式石室（右片袖） 玄室 巾1.5m 長4.4m 高2.2m 羨道 巾1.1m 長2.2m 高2.0m	・須恵器（杯身蓋、提瓶） ・金環 ・鉄鏃 ・土師器（椀）	6C末	天井石5枚と裏込め石を検出
白山4号墳	円墳	径13m 高さ2.6m	横穴式石室（右片袖） 玄室 巾1.3m 長4.7m 高2.4m 羨道 巾0.9m 長2.7m 高1.8m	・須恵器（壺、甕） ・土師器（椀、脚付坩） ・金環 ・刀子	6C末	天井石3枚検出

関連文献

No.	102	遺跡名	口南戸遺跡（試掘）	所在地	松阪市立野町口南戸
調査原因	市道改良工事			事業主体	市土木部
調査機関	松阪市教育委員会			調査期間	H4.11.26
調査面積	48㎡			担当者	福田昭・西田尚史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
次年度事業の試掘調査を行った。 口南戸古墳、浅間古墳群の北側の一段高い畑地と国道166号線沿いの水田に試掘坑を設定した。 遺構・遺物が確認されたので次年度680㎡本調査を予定している。	・土坑	・弥生土器 ・山茶椀 ・土師器（鍋、皿）

関連文献　『松阪市史　資料篇　考古』（松阪市史編纂委員会　1978）

No.	103	遺跡名	黒角遺跡　（試掘）	所在地	松阪市山室町黒角
調査原因		市道改良工事		事業主体	市土木部
調査機関		松阪市教育委員会		調査期間	H4.11.25
調査面積		32㎡		担当者	福田昭・西田尚史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
「市史」に記載されている黒角遺跡の小川沿いの道路改良部分に試掘坑を設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。次年度本調査から除外した。	なし	なし

関連文献	『松阪市史　資料篇　考古』（松阪市史編纂委員会　1978）

No.	104	遺跡名	露越遺跡（試掘）	所在地	多気郡明和町大字竹川字露越、南浦
調査原因		斎宮地区コミュニティーセンター整備事業		事業主体	明和町
調査機関		明和町教育委員会		調査期間	H4.4.23～4.27
調査面積		42㎡		担当者	森田幸伸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
申請地は、露越遺跡範囲内のほぼ中央に位置する。地目は、畑地である。 3ケ所の試掘調査を実施した結果、昭和54年の県営ほ場整備事業の際、表土・包含層・地山上面が既に削平されていることがわかり、25cmほど掘削すると赤褐色粘土の地山に達した。 遺構としては溝1条、小ピットを検出したが、溝の埋土はしまりも悪く、新しいものと思われる。他に攪乱坑4ケ所が確認された。 遺物は少なく、若干の土師器・須恵器・灰釉陶器のいずれも破片が出土したにとどまる。	○時期不明 ・小ピット ・溝	○奈良時代 ・土師器（甕片） ・須恵器（壺片） ○平安時代 ・灰釉陶器片

関連文献	『三重県埋蔵文化財年報10　昭和54年度』（三重県教育委員会　1980）

No.	105	遺跡名	馬渡遺跡	所在地	多気郡明和町大字竹川字馬渡
調査原因	明和町北部第一水源地			事業主体	明和町
調査機関	明和町教育委員会			調査期間	H4.6.16～11.12 （試掘H4.5.19）
調査面積	1,435㎡			担当者	森田幸伸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
祓川の立国積地指定斎宮跡。 氾濫原に残された9m部分。 立地範囲は、標高約北西側に隣接する。 島の西側に位置する。 層序は基本的に（Ⅰ）黒色土（暗耕作土）（Ⅱ）灰色土（暗茶色粘質土）（Ⅲ）砂利層（Ⅳ）暗黄色砂質土（Ⅴ）砂礫層（Ⅵ）砂質土層（Ⅶ）茶色砂質土層。 Ⅱ、Ⅲは、倉庫建物跡。 鎌倉時代の遺構は、柱穴・溝・土坑。 出土遺物は、縄文時代の突帯文土器、弥生時代の壺・甕（前期・中期）、打製石斧、石槍、石錐、奈良時代の土師器（杯、皿、椀、甕）、須恵器（杯）、平安時代の土師器（杯、皿、椀、甕、黒色土器椀）、灰釉陶器（皿、椀）、緑釉陶器、墨書土器、馬歯、鎌倉時代の土師器鍋、山茶椀・山皿、瓦器（椀）。	○弥生時代 ・方形周溝墓3基 ・溝1条 ・土坑 ○奈良時代 ・竪穴住居7棟 ・井戸1基 ○平安時代 ・掘立柱建物5棟 ・井戸2基 ・溝1条 ・土坑 ○鎌倉時代 ・溝1条 ・土坑	○縄文時代 ・突帯文土器 ○弥生時代 ・壺・甕（前期・中期） ・打製石斧 ・石槍 ・石錐 ○奈良時代 ・土師器（杯、皿、椀、甕） ・須恵器（杯） ○平安時代 ・土師器（杯、皿、椀、甕 黒色土器椀） ・灰釉陶器（皿、椀） ・緑釉陶器 ・墨書土器 ・馬歯 ○鎌倉時代 ・土師器鍋 ・山茶椀・山皿 ・瓦器（椀）

関連文献	

No.	106	遺跡名	堀田遺跡（試掘）	所在地	多気郡明和町大字有爾中字堀田
調査原因	個人住宅建設			事業主体	個人
調査機関	明和町教育委員会			調査期間	H4.4.20
調査面積	32㎡			担当者	森田幸伸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
申請地は、堀田遺跡範囲内の南端部にあたり、地目は水田である。 地山面まで掘り下げられず、遺構も検出なされなかった。 包含層も認めなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	107	遺跡名	世古D遺跡（試掘）	所在地	多気郡明和町大字池村字世古
調査原因	共同住宅地造成			事業主体	個人
調査機関	明和町教育委員会			調査期間	H4.4.13～4.16
調査面積	44㎡			担当者	森田幸伸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
申請地は、池村城址の北約200 m竹林、山林に位置する。道路を挟のすぐ東側には、世古B遺跡があり、旧地形よりと考え当該地にまで遺跡の及ぶことが予想された。 事業地内に範囲確認のための試掘坑を丘陵上段と下段で計4ケ所設定し、調査した結果、上段で良好な遺物包含層を確認した。 層序は基本的に（Ⅰ）腐食土層（Ⅱ）黄褐砂質土層（Ⅲ）暗黒色土層（Ⅳ）黄茶色土層（地山）となっており、地山面まで浅い所で40cm、深い所で約90cmを測る。 検出したした遺構には、土器焼成坑・竪穴住居があり、土器焼成坑の周囲では多量の土師器が出土している。	○奈良時代 ・土器焼成坑5基 ・竪穴住居1棟 ・小ピット	○奈良時代 ・土師器（皿、椀、甕） ・須恵器片

関連文献

No.	108	遺跡名	明気古墳群	所在地	多気郡多気町大字相可字明気
調査原因	住宅団地造成			事業主体	JR丸亀共同企業体
調査機関	多気町教育委員会			調査期間	（昨年度より）～H4.7.16
調査面積	古墳群全体としては6,500 ㎡			担当者	中里守

遺跡の概要

昨年度からの継続調査。明気2号墳主体部、明気8号墳を調査。

○2号墳

墓壙、木棺跡が南北方向に検出されたが、南側半分は土取りのため完全になくなっていた。残っていた木棺跡の北端部には土器が集中して置かれ、中央部には大刀と小刀が1本ずつ副葬されていた。

○8号墳

標高66mほどの尾根頂部に所在。人為的な削平をうけていることもあり、墳形はあまりはっきりしなかったが、直径20mほどの円墳と見ることができよう。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
明気2号墳	円墳	径18.5m	木棺直葬 墓壙 5以上×3.4m 棺跡 2以上×0.6m	・須恵器（杯身蓋、高杯） ・鉄斧 ・鉄刀	6C後半	戦前の土取りにより、主体部も含めて半壊。
明気8号墳	円墳	径20.0m	木棺直葬 墓壙 5.3×2.4m 棺跡 4.2×0.7m	・須恵器（杯身蓋、台付壺短頸壺、提瓶）	6C後半	

関連文献

No.	109	遺跡名	倉懸古墳群	所在地	多気郡多気町大字五佐奈字倉懸
調査原因	工業団地造成			事業主体	多気町
調査機関	多気町教育委員会			調査期間	H4.4.30～6.6
調査面積	600㎡			担当者	西村修久

遺跡の概要

佐奈川流域の狭い水田地域を見下ろす標高35mほどの丘陵先端部に所在する古墳群で、2基（1号、2号）の円墳で構成される。

○1号墳
マウンド中央に大きな盗掘坑があり、主体部等は不明であった。

○2号墳
頂部表土直下で2基の埋葬主体（木棺直葬）が検出された。ほぼ東西に主軸をもつ墓壙（第2主体）が、北東－南西方向に主軸をもつ墓壙（第1主体）を切っている。どちらの主体部も、盛土の流出や立木の根などにより墓壙・棺跡の端部がはっきりとしない。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
倉懸1号墳	円墳	径18.0m	?	・須恵器片	6C後？	
倉懸2号墳	円墳	径20.0m	木棺直葬 第1墓壙 5.0（？） ×1.6m 第2墓壙 5.0（？） ×1.4m	・須恵器 （杯身、蓋） ・土師器 （椀、甕） ・須恵器 （杯身、蓋 壺、甕）	6C後半 6C末	

関連文献

No.	110	遺跡名	八端窯跡	所在地	度会郡玉城町長更地内
調査原因	大仏山公園陸上競技場造成			事業主体	小俣町
調査機関	小俣町教育委員会			調査期間	H4.10.5～10.12
調査面積	約180 ㎡			担当者	河瀬信幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大仏山丘陵の一角に所在する窯跡である。西丘陵には大仏山古墳群が広がり、目の前に広がる水田地帯には古墳時代の遺物が散布する地点が点在する。 工事中に窯跡が発見された。全部で4基あり（1・2号，X・Y号）うち2号以外は灰原のみの検出であった。	・2号窯跡 窯体　2×4.5m	・須恵器（杯蓋・甕） 6C後半

関連文献

No.	111	遺跡名	矢塚古墳群	所在地	度会郡玉城町宮古字谷口
調査原因	廣瀬精工（株）玉城工場の増成にかかる事前範囲確認調査			事業主体	玉城町教育委員会
調査機関	玉城町教育委員会			調査期間	H4.7.27～ 8.11
調査面積	150㎡			担当者	中西正典・北畠充生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
矢塚古墳群25基を有する古墳地帯で山林。 その古墳地帯のほとんどが廣瀬精工の所有となっている。	確認できない。	土師器片1 須恵器片2

関連文献

No.	112	遺跡名	安養寺跡	所在地	度会郡二見町溝口割石1039～1046番地
調査原因	宅地造成			事業主体	三交不動産（株）
調査機関	二見町文化財調査会			調査期間	H4.5.11～12.25
調査面積	約2,500 ㎡			担当者	大西素行

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
丘陵の細長い谷間を東西100mにわたって2～3回整地をしながら、遺構を造成してい た。調査区東半では上層は鎌倉中～後半、下層は平安末～鎌倉前半の遺構や遺物を検出した。	○鎌倉時代中～後半の遺構 ・4×3間で東側に半間の廂をもつ総柱建物（SB3） ・溝6条（区画、排水） ・瓦溜（SK12） ○平安末～鎌倉前半 ・3×3間で東に庇、南に縁が廂をもつ礎石建物（SB1） ・2.7×2.7mの小基壇建物（SB2） ・3×3間で東に2×2間の張り出しをもつ建物（SB15） ・門跡（SB17） ・溝3条（区画、排水） ・池2（SL9・16）	（木製品） 下駄、板芯草履、箸、升、漆椀、柏子、鍋蓋、曲物、桧扇、切匙、刀形、鳥形、矢形、将棋駒、たも、各種へら、刀子柄、筆柄、台状木製品、笹塔婆、木簡、墨書木製品（絵・文字）、飾板、部材、その他多量 （土器） 山茶椀、山皿、鉢、常滑甕、壺、経筒蓋、土師器（皿、杯、鍋、羽釜） 青磁皿・椀 （鉄製品） 釘、火打鎌、飾り金具 （瓦） 巴文軒丸瓦、剣頭文・唐草文軒丸瓦 （その他） 椀の鋳型、鞴の羽口

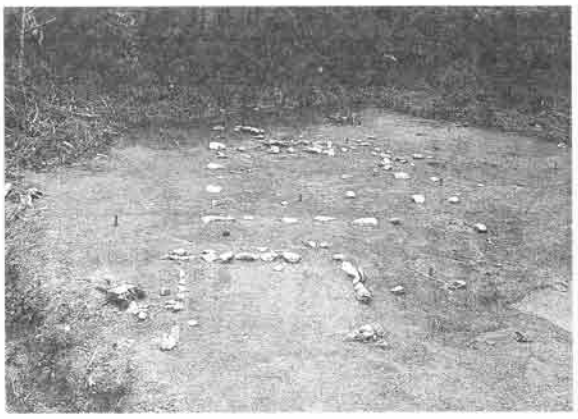
関連文献	

No.	113	遺跡名	豆石山経塚1号	所在地	度会郡二見町豆石山896-4
調査原因	宅地造成			事業主体	三交不動産（株）
調査機関	二見町文化財調査会			調査期間	H4.10.26
調査面積	約20㎡			担当者	大西素行

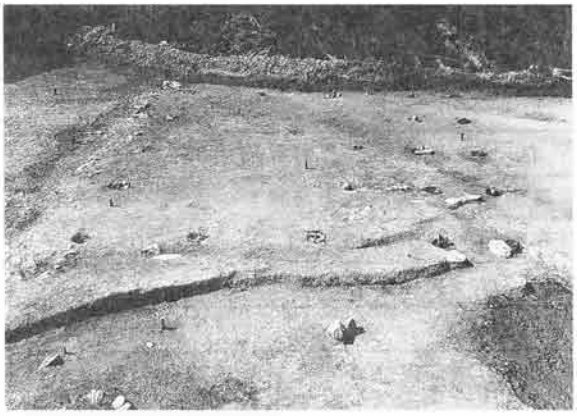
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昭和54年に皇学館大学考古学研究会が発見した経塚で、当時は石組の一部も残っていたことが報告されている。 現状では1辺1mの方形の穴が掘られているため、この穴を清掃し、東西・南北にトレンチを入れたが、遺物・遺構は確認できなかった。その後の2次的な盗掘を受けたものと思われる。	なし	なし

関連文献	

安養寺跡池（ＳＬ16）



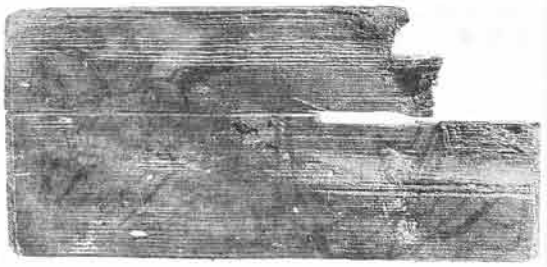
廂付建物（ＳＢ１，奥）小基壇建物（ＳＢ２，手前）



廂付総柱建物（ＳＢ３）

墨書木製品（人物）

墨書木製品（不明）



墨書木製品（馬）

No.	114	遺跡名	豆石山経塚２号	所在地	度会郡二見町溝口豆石山1033
調査原因		宅地造成		事業主体	三交不動産（株）
調査機関		二見町文化財調査会		調査期間	H4..9.4 ～ 9.16
調査面積		約400㎡		担当者	大西素行

遺跡の概要

遺跡台帳では溝口１号墳として登録されていたが、調査の結果経塚であることが確かめられた。尾根の端部を利用して、東と西側に幅1.5ｍの周溝状の溝を掘り、４×3.5ｍ、高さ0.7ｍの方形の盛土をした後、経塚をつくったものと思われる。頂部に盗掘を受けており、主体部は不明であったが、２ケ所に石組の一部が残存していて、その付近から和鏡が出土した。和鏡や土師器皿片より、平安時代末～鎌倉時代前半の経塚であったことが確かめられた。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
豆石山経塚２号（溝口１号墳）	方形	７×６ｍ	小石室	・和鏡１ ・土師器（皿・椀片）	平安時代末～鎌倉時代前半	

関連文献

No.	115	遺跡名	豆石山中世墓	所在地	度会郡二見町豆石山907
調査原因		宅地開発（団地造成）		事業主体	三交不動産（株）
調査機関		二見町文化財調査会		調査期間	H5.2.15～ 2.25
調査面積		約500㎡		担当者	大西素行

遺跡の概要

安養寺跡の北側の豆石山の標高15～17mの丘陵尾根の端部に立地する。４基確認したが、いずれも緩斜面の上部を削平し、平坦地にした後、円墳状に盛土をしている。
主体部を中心に大型の石をまわりに円形にならべて、さらに外側にも円形に石を敷き、こぶし大の偏平な川原石を葺石としていた。
埋葬施設として、ほぼ中心部から、土師器南伊勢型鍋を蔵骨器としたもの(1号墳)、盗掘を受けていたが石を敷き回りを石で長方形に囲った石室をもつもの(2号墳)や小石室かと思われる石組を持つもの(4号墳)がある。

中世墓名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
１号墳	円形	５×4.5ｍ	土師器（鍋）（蔵骨器）	・土師器（鍋１・皿・杯片） ・須恵器（甕）	平安時代末～鎌倉時代初頭	
２号墳	〃	４×４ｍ	小石室（75×45㎝）	土師器（皿・鍋片） 須恵器（甕片）	平安時代末～鎌倉時代初頭	
３号墳	〃	2.5 ×2.5ｍ	不明	なし	不明	４号墳と共に鎌倉時代中～後半と思われる
４号墳	〃	3.0 ×3.0	小石室？	・土師器（皿）	鎌倉時代中～後期	

関連文献

No.	116	遺跡名	五峰山２号墳	所在地	度会郡二見町山田原五峯山521-28
調査原因	宅地開発			関係機関	三交不動産（株）
調査機関	二見町文化財調査会			調査期間	H4.9.24～10.9
調査面積	約 400㎡			担当者	大西素行

遺跡の概要

五峯山から南に派生する尾根（標高58m）の先端部に立地する。墳頂部は６×2.5mの盗掘坑があり、頂部の盛土は流出し、地山が露呈していた。
調査の結果、石室の奥壁部分と石室の南東隅に片岩による箱式石棺の一部が残されていた。奥壁は基底部の一段のみが残存していただけで不明な点が多いが、深さ0.7mの石室掘り形が幅2.5m、長さ７mにわたって確認された。石室は西に開口する。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
五峯山２号墳	円墳 ・墳丘 ・石室	 12×12m ２×約７m	横穴式石室 箱式石棺	土師器（椀５） 須恵器（甕１）	７C 初頭	

関連文献

No.	117	遺跡名	向谷古墳群（試掘）	所在地	伊勢市朝熊町字向谷4228
調査原因	ゴルフ練習場造成工事事業			事業主体	伊勢アミューズ有限会社
調査機関	伊勢市教育委員会			調査期間	H4.5.19
調査面積	50㎡			担当者	岩中淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平成２～３年にかけて調査を実施した昼河古墳群の谷を挟んだ北東に位置する。分布調査の結果５基の推定古墳を発見したため試掘調査を実施。 調査の結果、いずれも自然地形であることが判明し、開発は施行されることとなっている。	なし	なし

関連文献

No.	118	遺跡名	福地城跡	所在地	阿山郡伊賀町大字柘植町字浦出
調査原因	緊急発掘調査			事業主体	伊賀町
調査機関	伊賀町教育委員会			調査期間	H4.9 月～H5.1 月
調査面積	305㎡			担当者	仁保晋作

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植町の中心、霊山を背にした山腹にある福地伊予守の中世城館で、丘陵頂部に位置する主郭とそれをとり囲む郭群で構成される。	・掘立柱建物 ・土塁	・擂鉢 ・ねり鉢 ・火鉢 ・土師器（羽釜・鍋）、 ・天目茶椀 ・青磁椀

関連文献

No.	119	遺跡名	菰池2号墳	所在地	阿山郡伊賀町大字愛田字菰池
調査原因	ゴルフ場建設			事業主体	柏栄不動産株式会社
調査機関	伊賀町遺跡調査会			調査期間	H4.8 月～9 月
調査面積	160㎡			担当者	仁保晋作

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
愛田字菰池には、2基の古墳が確認されていて、1号墳は昭和44年に緊急発掘調査を行った。いずれの古墳も原形はほとんど留めていなかったが円墳と推定される。	南西方向に開口する横穴式石室の玄室部及び閉塞石	・須恵器（杯身、杯蓋、高杯、短頸壺、横瓶） ・鉄鏃

関連文献	

No.	120	遺跡名	大多田遺跡	所在地	上野市佐那具町字大多田
調査原因	工業団地造成			事業主体	紀文エステート
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H4.7.1 ～10.8
調査面積	約2,100㎡			担当者	山岡裕、笠井賢治、矢川友子

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川の左岸から南に約200mはなれた段丘上に位置し、西方には御墓山古墳が近接する。 平成2年度に実施された分布調査及び試掘調査で確認された遺跡で、古墳時代から中世に及ぶ複合遺跡である。 なお、平成3年度の調査では竪穴住居11棟、掘立柱建物約40棟検出されている。	・竪穴住居13棟（古墳時代後期～飛鳥時代） ・掘立柱建物47棟（飛鳥時代～平安時代） ・土坑（飛鳥時代）	・須恵器（古墳時代～奈良時代） ・円面硯（1点） ・土師器 ・緑釉陶器（1点） ・黒色土器

関連文献	

No.	121	遺跡名	小芝遺跡	所在地	上野市服部町字小芝
調査原因	倉庫造成			事業主体	個人
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H4.5.29～ 7.7
調査面積	約800㎡			担当者	中浦基之、笠井賢治、矢川友子

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川左岸、河岸段丘上に位置する縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。 周知遺跡の東辺にあたる本調査地からは、東部で弥生時代後期から古墳時代前期の大溝（自然河道）、西部で飛鳥時代から中世の掘立柱建物数棟が検出された。	・大溝（自然河道）1条 ・掘立柱建物3棟 ・土坑2基	・縄文土器片（中心は後期前期、中期、晩期を若干含む） ・弥生時代前期壺形土器片 ・弥生時代後期土器 ・古墳時代前期土師器 ・土師器 ・須恵器 ・瓦器片 ・石匙1点

関連文献	

No.	122	遺跡名	西明寺遺跡（試掘）	所在地	上野市西明寺3218番地他6筆
調査原因	上野市東公園整備事業			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H4.12.10
調査面積	176㎡			担当者	山岡裕、笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国史跡伊賀国分寺跡・長楽山廃寺（国分尼寺跡）を中心とする西明寺丘陵遺跡は、上野市街地の東部・荒木だにかなる丘陵地に位置する。 今回の調査地は、国分寺跡の南東にあたり、遺構の検出が予想されて確認されたが、試掘坑2か所では柱穴が薄くまた調査の密度は非常に薄く旧河道が遺構半分ほどの堆積層で確認されたようである。	・柱穴 遺構密度は非常に薄く建物の確認までは至らなかった。 ・（旧河道） 遺物は含まれず	なし

関連文献	
	『西明寺遺跡発掘調査報告　遺構編－三重県上野市西明寺所在－』（上野市教育委員会　1981） 『西明寺遺跡発掘調査報告　－三重県上野市西明寺所在－』（上野市教育委員会　1982） 『西明寺遺跡発掘調査報告　－三重県上野市西明寺所在－』（上野市教育委員会　1983）

No.	123	遺跡名	旧崇広堂	所在地	上野市丸之内
調査原因	旧崇広堂保存修理工事			事業主体	上野市
調査機関	上野市教育委員会			調査期間	H4.5.11～ 6.4
調査面積	100 ㎡			担当者	豊岡勇

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
藤堂藩10代藩主藤堂高兌が津の藩校有造館のために建てた藩校講堂を除くほとんどの建物が安政2年（1855）に地震により倒壊し、安政4年（1821）に再建されている。 今回の調査は、旧崇広堂保存修理工事のために実施したものである。	旧崇広堂の礎石・出し礎石・根石・坑・土壁・漆喰・土坑・遺構確認の地下1点のみ。 現存する柱穴の通り柱の礎石を検出した。 現存する柱穴、礎石の地下礎石ない柱穴から2か所、礎石の通り根離れ石から12尺離れた3か所の柱根区南東部の13尺離れた所の根石・根切り土坑の時期は、調査結果から基礎遺構である。	・瓦 ・土師器 ・陶磁器 ・硯 ・古銭 ・五輪塔

関連文献	

No.	124－1	遺跡名	上野城跡	所在地	上野市丸之内117番地の4 他
調査原因	俳聖殿電源ケーブル埋設工事			事業主体	財団法人伊賀文化産業協会
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.1.20
調査面積	約50㎡			担当者	山岡裕、笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
上野城は、筒井定次による天正13年（1585）の築城に始まる。慶長13年（1608）、筒井氏改易となり、代わって封じられた藤堂高虎は筒井氏の上野城を西へ拡張して本丸を築くとともに外堀を深くし、高石垣で囲んだ。 今回の調査地は、当時の城郭図で栗石置場と記録されており、電源ケーブル埋管箇所について発掘調査を実施した。 結果は、暗渠が検出されたが遺物を伴わず、時期が不明である。遺物については、明らかに近代のものと思われる磁器椀が1点出土した。	・（暗渠） 一部に栗石の散乱は認められたが、幅50cmのトレンチ調査であるため、覆屋・作業場等の建物遺構は確認できなかった。	・磁器椀（近代）

関連文献	『史跡上野城跡石垣保存修理工事報告書』（上野市教育委員会　1990）

No.	124－2	遺跡名	上野城跡	所在地	上野市丸之内106番地の5
調査原因	便所増設及び浄化槽設置工事			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H5.2.16
調査面積	96.58㎡			担当者	山岡裕

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
今回の調査地は当時の城郭図では平坦地となっているが、本丸に隣接する位置にあり構築物の遺構残存の可能性が高い場所であったので調査を実施した。 結果は、近世に手を加えられた時の残がいが出土したのみで、当時の遺構・遺物は確認できなかった。	・平坦面は近世に一度削平 ・攪乱を受け入れているため築城当時の遺構は確認できなかった。	なし

関連文献	『史跡上野城跡石垣保存修理工事報告書』（上野市教育委員会　1990）

No.	125	遺跡名	西蓮寺中・近世墓	所在地	上野市長田字垣内1931他
調査原因	墓地整備によって県指定文化財・市指定文化財の現状変更に伴う調査			事業主体	西蓮寺
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H4.5.18～5.26
調査面積	約10㎡			担当者	笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
木津川左岸の標高約180mの丘陵地に位置する。その中に県指定史跡「西蓮寺供養塔」、市指定史跡「服部土芳墓所」、「藤堂元甫墓所」がある。今回の調査は藤堂元甫石室の移転にあたって調査を行った。	・藤堂元甫石室 （長さ1.45m、幅1.1 m、高さ1.2mの鐘型）	・今回の調査では、遺物は出土しなかった。

関連文献	

No.	126 127 128	遺跡名	内屋敷遺跡 榎並氏館跡 十王下遺跡（試掘）	所在地	上野市朝屋 〃 上野市長田（百田）
調査原因		農業集落排水事業 朝屋・百田地区管路工事		事業主体	上野市
調査機関		上野市遺跡調査会		調査期間	H5.1.29～7.31（予定） 現在試掘調査中
調査面積		760㎡		担当者	前川依久雄、豊岡勇、山岡裕、 中浦基之、笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
内屋敷遺跡は上野市朝屋字内屋敷にある600㎡に及ぶ周知の遺跡である。昭和54年に三重県教育委員会が調査した箇所では、溝・土坑が検出され、須恵器・土師器・瓦器が出土している。 榎並氏館跡は、上野市朝屋字西出にある50×40mの室町時代の城館跡である。道路建設で東側が破壊されてはっきりしたおり、大きさは35×20mの内部と南側が思われる。西側と南側の空堀部が残っている。 十王下遺跡は上野市長田字十王下にある過去に縄文時代の古墳・採取されたと思われる遺物がいくつかあるのみで、遺跡の広がりは不明である。 平成4年7月に朝屋・百田地区にお農業集落排水事業申し出があり、管路工事の行協議を重ねた結果、平成5年1月末より工事に合わせて上記の遺跡について試掘調査を実施している。	（現在試掘調査中）	

関連文献	「上野市朝屋　内屋敷遺跡」『昭和53年県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告』（三重県教育委員会　1979） 『三重の中世城館』（三重県教育委員会　1976）

No.	129 －1	遺跡名	下郡遺跡（試掘）	所在地	上野市下郡下代77-1、85-1、85-6
調査原因		下郡市民館外駐車場整備事業		事業主体	上野市
調査機関		上野市遺跡調査会		調査期間	H4.12.17
調査面積		36㎡		担当者	山岡裕、笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
下郡遺跡は上野市の南部、木津川左岸の沖積地に所在し、縄文時代から近世に至る複合的な集落遺跡で、南北700m、東西500mの範囲に広がる広大な遺跡である。 今回の調査地は本遺跡内の東部、木津川寄りの箇所で、試掘坑3か所を設定し、調査を実施した。結果は試掘坑1か所から遺物包含層を確認したが、遺物の出土量は少なく、いずれも遺構は検出されず、試掘坑2か所で旧河道と思われる堆積層を認めた。	（旧河道）	・土師器小片 ・瓦器小片

関連文献	『下郡遺跡発掘調査報告－三重県上野市下郡所在－』（上野市教育委員会　1978） 『三重県上野市下郡遺跡の発掘調査－木津川河川敷－』（三重県教育委員会　1982、1984） 『上野市下郡　下郡遺跡発掘調査報告』（三重県教育委員会　1986）

No.	129－2	遺跡名	下郡遺跡（試掘）	所在地	上野市下郡下代85-3、85-6
調査原因	コミュニティ広場整備事業			事業主体	上野市
調査機関	上野市遺跡調査会			調査期間	H 4.12.17
調査面積	8 ㎡			担当者	山岡裕、笠井賢治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
下郡遺跡は上野市の南部、木津川沖積地に所在し、縄文時代から近世に至る複合的な集落遺跡で、南北700 m、東西500 mの範囲に広がる広大な遺跡である。 今回の調査地は本遺跡内の東部・木津川の寄りの箇所（市民館外駐車場予定地の東隣）で、試掘坑1か所を設定し、調査を実施した。結果は、地表面から69㎝のところで遺構面を検出し、柱穴を確認した。 試掘坑のひろげられる範囲が限られていたため、柱穴の並びは確認できなかったが、遺構面から少量の土師器小片が出土している。 なお、当該地は広場として使用されるので、盛土により遺構を保存された。	・柱穴 並びの方向等の確認までは至らなかった。	・土師器小片

関連文献	『下郡遺跡発掘調査報告－三重県上野市下郡所在－』（上野市教育委員会　1978） 『三重県上野市下郡遺跡の発掘調査報告－木津川河川敷－』（三重県教育委員会　1982、1984） 『上野市下郡　下郡遺跡発掘調査報告』（三重県教育委員会　1986）

No.	130	遺跡名	城之越遺跡	所在地	上野市比土字城之越
調査原因	遺跡保存整備事業			事業主体	上野市
調査機関	上野市教育委員会			調査期間	H 4.8.3 ～12.21
調査面積	約1,800㎡			担当者	前川依久雄、中浦基之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
木津川上流右岸の丘陵裾部に立地する。古墳時代前期から中世までの複合遺跡である。 昨年度の県調査で、古墳時代前期の貼石・立石をもつ大溝が確認された他、古墳時代から奈良時代の竪穴住居・掘立柱建物などが検出されている。 今回、県史跡指定地内で大溝をはさんで北約400㎡と南約1,400 ㎡を調査し、大溝周辺の遺構存在状況を確認した。 調査の結果、大溝に立石・貼石がなされたと同時期の遺構は検出されなかったが、古墳時代から奈良時代を中心とする竪穴住居・掘立柱建物等が確認された。 なお、近鉄伊賀線の両側（昨年度調査地の西約20m）でトレンチ調査を実施し、大溝の存在を確認した。	・大溝 右岸（北側）の肩部を検出。なお、近鉄線の両側のトレンチ調査で大溝が北西方向に続いていることを確認した。 ・竪穴住居 古墳時代8棟 （大半は前期） 飛鳥時代2棟 ・掘立柱建物36棟 多くは古墳時代後期から飛鳥・奈良時代で、うち14棟は2間×2間、3間×3間などの総柱建物 ・その他 溝・土坑	・土師器 （古式土師器多数） ・須恵器 ・韓式系土器（小片） ・黒色土器 ・瓦器 ・土師器土錘 ・木製品（柱材・弓片他） ・その他 管玉1 石鏃1

関連文献	『城之越遺跡』写真パンフレット　（三重県埋蔵文化財センター1991）

No.	131	遺跡名	玉塚古墳	所在地	名張市美旗町中一番260-1
調査原因	共同分譲住宅用地造成			事業主体	（株）丸栄建設
調査機関	名張市遺跡調査会			調査期間	H4.10.26 ～11.2
調査面積	1.000 ㎡			担当者	門田了三

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国指定史跡美旗古墳群中、最大規模の前方後円墳、馬塚古墳の南側にある前方墳。 昭和41年に粘土取りにより墳丘部を調査し、二重に取り囲む埴輪列や棺残片、鉄器などが採集され、今回木棺が、周溝部が未調査のため、今回実施した。	周溝は、墳丘とのの大粘土取りによって部分を受けて墳丘基底部のは、西側周溝幅が34mったこのて判明。 同じ乱れ辺の約5mから出ることが一6m南側にあるに設けられる。	・円筒埴輪片少量

関連文献

No.	132	遺跡名	下川原遺跡（4次）	所在地	名張市夏見字浅尾27-1
調査原因	店舗用地造成			事業主体	（株）オークワ
調査機関	名張市遺跡調査会			調査期間	H4.11.10～12.4
調査面積	300㎡			担当者	門田了三

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
名張川南岸に形成された自然堤防上立地する縄文時代後期より古墳時代に至る拠点的集落で調査を行ったのは、今回の集落東端部の古墳時代の河原を検討した。西隣居住者により出土した。穴竪名張川に落ち込む同時代の遺物が検出された。	・土坑　ほか	○弥生時代中期～後期 ・土器少量 ○古墳時代前期 ・土器 （土坑より完形土器が10点以上出土） ・鉄鏃

関連文献

No.	133	遺跡名	琴平山古墳（試掘）	所在地	名張市赤目町檀字横山602-1
調査原因	宅地造成			事業主体	朝日住宅（株）
調査機関	名張市遺跡調査委員会			調査期間	H4.9.16～10.16
調査面積	96㎡			担当者	門田了三

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
名張市の南側、赤目地区の丘陵部に築かれた前方後円墳。 当古墳の存在を含む周辺地域に宅地造成計画図を進められ、当古墳の現状保存を実施するため、範囲確認の試掘調査を実施した。 レンチを設定した。 10ヶ所の斜面に墳丘を設定した。	墓石上段の三段の最下段は、二段になっている。 明確な長方形の石室は、閉塞石がある。 後円部の横穴式石室は、石室内に埋もれている。 チャート石の列を一段に積み上げ、石室の長さは70mである。 レンガ状の石材を段に積み上げ、石室の全長は、石室の前方部に造成されている。 そのうちの一部は、墓前祭祀の場である。	・円筒埴輪 ・蓋形埴輪 ・人物埴輪（部分） ○石室入口 ・小札 ・子持器台の破片 ○造り出し ・須恵器多量 ・陶質系の須恵器も2～3点あり 墓前祭祀の好資料である

関連文献

Ⅲ. 埋蔵文化財保護体制の充実

1．各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化振興課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による技術研修や情報交換を目的として、本年度は次の4回を開催した。

	開催日	場所	内容
第1回	平成4年4月24日	斎宮歴史博物館講堂	・平成3年度の事業計画について ・講演会「古代王権の祀り」 辰巳和弘　（同志社大学校地学術調査委員会） ・事例報告「城之越遺跡の大型掘立柱建物」 穂積裕昌（当埋文センター調査第二課技師）
第2回	平成4年8月28日	多気町役場大会議室	・市町村及び県の現状と課題 ・現地見学（第12回埋文展「三重の縄文時代」、多気町明気古墳群ほか）
第3回	平成4年11月27日	斎宮歴史博物館講堂	・市町村及び県の現状と課題 ・現地見学（斉宮跡第98次調査ほか）
第4回	平成5年3月16日	斎宮歴史博物館講堂	・市町村及び県の現状と課題 ・講演会「沖積平野における遺跡の立地復元」 外山秀一　（皇学館大学文学部講師） ・事例報告「明気古窯跡群」 宇河雅之（当埋文センター調査第二課主事） 「長者屋敷遺跡」 浅尾悟（鈴鹿市文化財保護課主事） 「安養寺跡」 大西素行（二見町教育委員会主幹）

〔三重県埋蔵文化財連絡調整会議〕

県および市町村の埋蔵文化財保護行政における諸問題について協議・情報交換を行うとともに長期計画・展望について意見交換を行う目的で、今年度は次の2回を開催した。

	開催日	場所	内容
第1回	平成4年6月18日	斎宮歴史博物館講堂	・埋蔵文化財保護取扱い ・発掘調査の体制と様式 ・発掘調査・整理等の基本マニュアル

第２回	平成４年12月11日	斎宮歴史博物館講堂	・発掘調査にかかる経費積算基準について ・その他

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議・研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。今年度は次の会議等に参加した。

名　　称	内　　容	期　日	場　　所	出 席 者
第４回埋蔵文化財写真技術研究会	総会	７月３・４日	奈良国立文化財研究所	本堂　弘之 山口　格
平成４年度全国公立埋文協総会	平成４年度事業計画その他	６月11・12日	石川県七尾市	山澤　義貴 泉　雄二
平成４年度重要考古資料選定会議	重要考古資料選定	10月15日	愛知県名古屋市	山澤　義貴
全国公立埋文協第５回全国研修会	発掘調査整理における機器導入について	10月22・23日	青森県大鰐町	駒田　利治 杉谷　政樹
平成４年度東海４県文化財担当者会議	総会	11月17・18日	三重県伊勢市	山澤　義貴 倉田　直純
全国公立埋文協中部・北陸ブロック会議	発掘調査実施上にかかる諸問題について	２月25・26日	愛知県蒲郡市	山澤　義貴 福田　哲也

２．埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修を随時受講させるほか、平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部に職員を派遣して研修・指導を受けている。

内　　容	実　施　機　関	期　　間	受講者
飛鳥藤原宮跡発掘調査研修	奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部	平成４年９月１日～12月１日	天野秀昭
平城宮跡発掘調査研修	奈文研平城宮跡発掘調査部	〃　11月９日～平成５年２月８日	野口美幸
遺跡測量課程	奈文研埋蔵文化財センター	〃　９月17日～10月８日	伊藤裕偉
遺跡整備課程	奈文研埋蔵文化財センター	〃　11月19日～12月９日	野口美幸
木器調査課程	奈文研埋蔵文化財センター	平成５年２月４日～２月９日	穂積裕昌

〔埋蔵文化財発掘技術者研修（教員研修）〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度以降期間1カ年の研修となり、本年度は次の3名が県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において研修を行った。これまで昭和54年度から本年度までに56名が研修を終了した。

平成4年度研修生

紀平　みどり　津市立北立誠小学校

竹田　憲治　　県立白山高校

東　　良樹　　県立尾鷲高校

〔平成4年度研修内容〕

月	研　修　内　容
4	・研修ガイダンス　・室内講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・遺物実測実習　・分布調査実習
5	・発掘調査実習（斎宮跡第95次調査　内山地区）
6	・　〃　（東浦遺跡　土井沖遺跡　北野遺跡ほか）
7	・　〃　（　〃　〃　〃　）
8	・　〃　（橋垣内遺跡　天白遺跡　〃　）
9	・　〃　（　〃　〃　〃　）
10	・　〃　（　〃　〃　蚊山遺跡ほか）
11	・　〃　（　〃　〃　〃　）
12	・　〃　（　〃　〃　ほか）　・分布調査
1	・　〃　（　〃　〃　）　・分布調査実習　・試掘調査実習
2	・報告書作成実習　・分布調査実習　・試掘調査実習
3	・　〃　・室内講義Ⅳ・Ⅴ

〔室内講義内容〕

月　日	内　容	担　当　者
〔室内講義Ⅰ・Ⅱ〕		
4．6	埋文センターの組織と機能	山澤義貴（埋蔵文化財センター）
	埋蔵文化財の保護行政と発掘調査	伊藤克幸（　〃　）
	遺跡の調査と方法	新田　洋（　〃　）
	遺物の整理と実測	駒田利治（　〃　）
4．8	調査記録（図面・写真類）の整理	天野秀昭（　〃　）
18	写真・測量機材の取扱い	杉谷政樹（　〃　）
〔室内講義Ⅲ〕　考古学よりみた三重の歴史		
4．10	遺跡の立地と地形環境	田村陽一（埋蔵文化財センター）

	旧石器時代の三重	久保勝正（斎宮歴史博物館）
	縄文時代の三重	穂積裕昌（埋蔵文化財センター）
4．14	弥生時代の三重	伊藤裕偉（　〃　）
	古墳時代の三重	上村安生（　〃　）
	奈良・平安時代の三重	森川常厚（　〃　）
	斎宮跡	大川勝宏（斎宮歴史博物館）
4．15	中・近世の三重	前川嘉宏（埋蔵文化財センター）
	文献からのアプローチ	小林　秀（　〃　）
〔室内講義Ⅳ・Ⅴ〕報告書作成・遺構遺物各論		
3.17	報告書作成	倉田直純（埋蔵文化財センター）
3.18	縄文土器	田村陽一（　〃　）
	弥生土器	伊藤裕偉（　〃　）
	古墳時代の土器	森川常厚（　〃　）
3.19	奈良・平安時代の土器	泉　雄二（　〃　）
	中世の土器	前川嘉宏（　〃　）
	瓦	福田哲也（　〃　）
	製塩土器	増田安生（　〃　）
3.22	木製遺物	穂積裕昌（　〃　）
	保存科学	杉谷政樹（　〃　）
	写真撮影	天野秀昭（　〃　）
	遺跡整備	野口美幸（　〃　）

〔町村職員研修〕

県下各市町村においては２０市町村、40名の埋蔵文化財専門担当職員が配置されており、未配置の市町村についても県文化振興課を通じてその配置をはたらきかけているところである。また、一方で埋蔵文化財専門担当職員が配置されていない町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、埋蔵文化財保護行政に資するための研修を実施している。本年度は次の１件を実施した。

所属・氏名	種別	内　　容	期　　間
美杉村教育委員会 宮崎　洋史	C コース	遺物整理実習 （美杉村須原六田遺跡）	平成４年２月16日～4 月31日

3．市町村調査等への指導・協力

依　頼　者	内　　容	期　　日	備　考
伊賀郷土史研究会	城之越遺跡について講演	4月１８日	
芸濃町教育委員会	埋蔵文化財分布調査の指導	4月２７日	
二見町教育委員会	安養寺跡発掘調査の指導	5月10日～３月31日随時	
員弁町教育委員会	段遺跡の調査指導協力	5月23日～1 月31日随時	
東員町教育委員会	村前遺跡発掘調査の指導	5月26日～12月随時	
嬉野町教育委員会	ふるさと館内郷土展示室指導委員会	6月10日・12月２日	
青山町教育委員会	北山地内の試掘調査の指導	6月16日	
多度町教育委員会	天王平遺跡発掘調査の指導	6月８日～８月16日随時	
嬉野町教育委員会	文化財セミナーでの講演	6月20日・７月18日 9月19日・11月21日	
四日市市長	市史編集考古部会へ出席	6月24日・11月17日	
上野市教育委員会	文化財教室での講演	7月４日	
桑名市教育委員会	桑部城址発掘調査の指導	7月５日	
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会	7月８日	
玉城町教育委員会	矢塚古墳群地形測量調査の指導	7月20日～８月31日随時	
玉城町教育委員会	郷土史会での講師	7月26日	
津市教育委員会	四ツ野Ｂ遺跡発掘調査の協力	8月11日～８月14日	
鈴鹿市教育委員会	芸術文化セミナーでの講演	9月10日	
上野市教育委員会	城之越遺跡調査の指導	9月21日・H5年2 月24日	
玉城町教育委員会	町史近世篇編纂にかかる古文書の指導	10月３日	
小俣町教育委員会	大仏八端窯発掘調査の指導	10月５日～10月12日	
桑名市教育委員会	西金井遺跡発掘調査の指導	10月20日～11月27日	
大王町教育委員会	考古資料整理の指導	10月29日～12月25日随時	
朝日町教育委員会	縄生廃寺範囲確認調査の現地指導	12月15日	
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡現地指導	12月15月	
北勢町教育委員会	報告書作成指導	12月17日	
安濃町教育委員会	多倉田遺跡発掘調査の協力	12月25日	
鈴鹿市教育委員会	成人学級での講演	12月８日	
県土木部	出先機関技術課長協議会での講演	１月21日	
松阪市西黒部小学校	池ノ上遺跡の調査成果について発表	２月１日	
伊勢市教育委員会	遺物撮影の協力	２月15日～19日	
四日市市教育委員会	文化財学習講座での講演	２月19日	
御薗村教育委員会	文化財保護委員会に出席	３月３日	
朝日町教育委員会	縄生廃寺調査指導委員会に出席	３月12日	
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会に出席	３月25日	

〔発掘技術者研修（教員対象）実施要項〕

平成4年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

1．目的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2．主催

三重県埋蔵文化財センター

3．期間

平成4年4月1日～翌年3月31日までの12か月間

4．場所

・多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

・各発掘現場

5．人員

3名（小・中・高校教員）

6．参加資格

（1）　県内の小・中・高校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻もしくは発掘調査の経験を有する者。

（2）　健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和31年4月以降生まれである者。

7．研究内容

（1）論議

総論　・文化財の保護

各論　・文化財保護法

・史跡および埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法　等

（2）実習　・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習等

8．講師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

9．その他

（1）研修者の旅費は、県の旅費規定にしたがって支給する。

（2）研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる予定である。

（3）研修を修了した者には、修了証書を交付する。

埋蔵文化財発掘調査技術者研修年間計画表

内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義ⅠⅡⅢ	文化財保護行政	—											
	埋文調査の基礎知識	—											
基礎実習	遺物実測・拓本実習	—											
	測量調査実習		—										
発掘調査	調査計画立案法（実習）		—										
	調査準備法（実習）		—										
	遺構検出法（実習）			—	—	—	—	—	—	—			
	遺構写真法（実習）									—			
	遺構実測法（実習）									—			
分布調査	分布調査実習										—		
試掘調査	試掘調査実習											—	
室内講義ⅣⅤ	遺物各論												—
報告書作成	遺物整理法（実習）										—		
	遺構整理法（実習）											—	
	記述原理											—	
	報告書編集法（実習）												—
研修場所		埋文センターほか	斎宮歴史博物館	埋蔵文化財センターほか							埋蔵文化財センターほか		

〔町村職員研修実施要項〕

平成4年度埋蔵文化財発掘技術町村職員研修実施要項

1．目的

近年、各種開発事業に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査件数は増大し、各町村においても調査体制の確立が急務となっている。そのため、遺跡の現地分布調査、出土品整理、報告書作成等に関する専門的な調査技術の研修を実施して埋蔵文化財行政の強化に資する。

2．主催　　三重県教育委員会

3．対象　　町村教育委員会担当職員

4．場所

（1）多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

（2）県内各地　　埋蔵文化財発掘調査現場

5．期間及び実施時期

（1）各講座（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は2か月とする。

（2）研修年度は、単年度が望ましいが、数年度にまたがってもよい。

（3）研修実施期間は、研修者派遣機関の希望を考慮する。

〔受講例〕

期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A		――	――	講座Ⅰ								
B			――	――	講座Ⅱ		――	――	講座Ⅲ			
C		――	――	講座Ⅰ		――	――	講座Ⅱ		――	――	講座Ⅲ

6．研修内容

講座	名称	実習内容	期間
Ⅰ	発掘コースA	現地分布調査実習　　試掘調査実習	2か月
Ⅱ	発掘コースB	発掘調査実習	2か月
Ⅲ	発掘コースC	遺物整理実習　　報告書作成実習	2か月

（1）文化財保護法の概要

（2）埋蔵文化財の判定

（3）埋蔵文化財の立案と実習

（4）試掘調査の立案と実習

（5）発掘調査の立案と実習

（6）遺構の実測技術と写真撮影技術

（7）遺物の整理実習

（8）製図・レイアウト等報告書作成実習

7．修了証書の交付

全研修講座修了者には、修了証書を交付する。

8．研修の経費

（1）研修実施場所への旅費は、研修者派遣機関において負担するものとする。

（2）研修に必要な資料等の経費は、研修者派遣機関の実費負担を求める場合がある。

Ⅳ. 資料の整理・保管・公開

1．資料の整理・保管本年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、その整理は埋蔵文化財センター及び受託事業現場整理所で行っている。出土遺物の保管については、原則として再検討・貸出等利用頻度の高いものを埋蔵蔵文化財センター収蔵庫に、その他のものは各収納倉庫に保管している。

また、本年度は嬉野町教育委員会に対し、同町内の小村遺跡等23遺跡出土資料の保管転換を行った。

一方、実測図面・写真フィルム類についても出土遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸し出し等に対応している。一方、受贈図書は約1,500冊有り、図書室に分類保管して職員等の利用に供している。

〔平成２年度出土品量(概数)〕

事業		平成４年度出土量
公共事業		3,000
受託事業	近畿道	—
	国一バイパス	—
	中勢道路	400
	松多バイパス	280
斎宮跡		470
合計		4,150

〔出土遺物保管状況〕

施設		遺物保管量
埋文センター収蔵庫 2	センター	7,460
	斎宮	9,960
収納倉庫	桜橋	20,340
	藤方	4,600
	上野	3,030
受託事業現場整理所(一時保管)	近畿道	1,060
	国一バイパス	1,470
	中勢道路	2,560
	松多バイパス	580
合計		50,760

※ 数量はコンテナ（55cm×35cm×15cm）による

〔市町村教育委員会への出土遺物の保管状況〕

保管転換先	資料名
嬉野町教育委員会	・小村遺跡（S47）・平生遺跡（S49）・天華寺廃寺（S54･55）・上野垣内遺跡（S54）・黒田遺跡（S55）・北瀬古遺跡（S55）・堀田遺跡（S56）・蛇亀橋遺跡（S56）・東野遺跡（S61）・堀之内遺跡Ａ（S61）・堀之内遺跡Ｂ（S62）・焼野古墳（S62）・天保遺跡Ａ･Ｂ（S62）・天保遺跡Ｅ（S62）・天保古墳（S62）・中尾遺跡（S62）・女牛谷古墳群･東狭遺跡（S62）・西野７号墳（S63）・ビハノ谷遺跡（S63）・西野･北広遺跡（S63）

2．科学的保存処理

埋蔵文化財センターには、出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室１（木製品保存処理）にＰＥＧ樹脂含浸装置２基、保存科学室２（金属製品保存処理）に減圧樹脂含浸装置１基ほかが設置されている。また、中勢道路整理所にＰＥＧ含浸装置１基が設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員等が保存処理にあたっている。

3．資料の公開

・出版物の発行

発掘調査報告書・概報・埋蔵文化財展図録のほかに『三重県埋蔵文化財センター研究紀要１』『三重県埋文センター通信みえ』NO. ７～９等を発行し、関係機関へ配布している。

・現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護への理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺跡名	所在地	担当課	開催日	参加人数
稲生・南谷遺跡	鈴鹿市稲生町字稲生山・南谷	調査第２課	H4. 6.20	120名
東浦遺跡	津市大里野田町	調査第１課	H4. 7.11	60名
北城遺跡	上野市羽根	調査第１課	H4. 7.18	60名
土井沖遺跡	一志郡美杉村上多気	調査第１課	H4. 7.25	100名
池ノ上遺跡	松阪市西黒部町池ノ上	調査第１課	H4. 8.29	250名
西岡古墳	津市河辺町字西岡	調査第２課	H4.10.17	250名
北野遺跡	多気郡明和町明星	調査第１課	H4.10.31	150名
天白遺跡	一志郡嬉野町大字釜生田	調査第１課	H4.11.21	200名
六大Ｂ遺跡	津市大里窪田町字竹花他	調査第２課	H4.12.26	80名
橋垣内遺跡	津市大里窪田町	調査第１課	H5. 1.30	150名
明気窯跡群	多気郡多気町相可	調査第２課	H5. 2.13	150名

・斎宮歴史博物館速報コーナーでの展示

斎宮歴史博物館映像展示室の速報コーナーで、埋蔵文化財センターが実施している発掘調査の成果の一部を速報的に随時展示している。本年度は次の資料を展示した。

６月　六大Ｂ遺跡（銀銭・石帯）　阿形遺跡　（弥生土器）
７月　東浦遺跡（尖頭器・土師器・須恵器）　北野遺跡（石包丁・弥生土器・土師器）
11月　土井沖遺跡（瓦・天目茶碗・硯）　西岡古墳（鉄剣・鉄製鋤先・円筒埴輪）
１月　天白遺跡（縄文土器・土偶・石棒・玉類）

・三重県埋蔵文化財発掘調査速報展

前年度の三重県下の発掘調査の結果を展示し、広く県民に公開するために、今年度より三重県埋蔵文化財発掘調査速報展を行うことになった。第１回目である本年度は、関係各機関のご協力を得、斎宮歴史博物館特別展示室を会場として、平成４年７月11日（土）～８月２日（日）までの会期で実施した。会期中

の入場者数は、約3,300 人であった。

・第１回　三重県埋蔵文化財発掘調査速報展実施要項

１．目的　　県下各地で行われる各種開発事業と埋蔵文化財保護との調和は、積年の課題となっている。こういった状況のなかで、開発事業に伴う発掘調査は、年々増加の一途をたどり、県下においても貴重な資料が数多く出土している。

これらの発掘調査の結果は、埋蔵文化財や現地説明会などを通じて公開しているが、一般県民にはあまり知られていないのが現状である。

したがって当センターでは、前年度の発掘調査の成果を速やかに公開し、なおいっそうの県民文化の向上と埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めていくために、速報展を開催する。

２．主催　　三重県埋蔵文化財センター

３．期間　　平成４年７月１１日（土）～８月２日（日）９：３０～１７：００
（入館は16：30まで）
ただし、７月13・20・27日は博物館休館日のため休展

４．場所　　斎宮歴史博物館　特別展示室（多気郡明和町竹川　503番地）

５．展示テーマ　「’９１　発掘　三重」

６．入場料　　速報展は無料

７．主な展示物

大石遺跡出土	縄文土器	城之越遺跡出土	韓式系土器
下沖遺跡出土	土偶	伊勢国分寺出土	瓦
雲林院青木遺跡出土	縄文土器	夏見廃寺出土	瓦・相輪
阿形遺跡出土	弥生土器	斎宮跡出土	羊頭硯
湧早崎遺跡出土	銅鐸型土製品	立岡山中世墓出土	蔵骨器
御池古墳群出土	土器類	西蓮寺中近世墓出土	一字一石経
昼河古墳群出土	土器・玉類	ほか多数	

・三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は、昭和56年度から三重県教育委員会が主催して、各市町村を会場に毎年実施してきた。平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果および市町村主体の発掘調査の成果を展示して広く県民に公開し、社会教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第12回を迎え、斎宮歴史博物館特別展示室を会場に平成４年８月20日（木）～９月13日（日）までの会期で実施した。今回は、「三重の縄文時代」をテーマに、近年特に充実してきた県下の縄文時代の資料及び県外の参考資料を関係各機関・個人のご協力を得て展示・紹介した。また、「前半期の押型文土器」に焦点をあわせ、研究集会を行った。会期中の入場者数は、約4,000 人、研究集会への参加者は約120名であった。

第12回　三重県埋蔵文化財展実施要項

1．目的

県下各地で行われる各種開発事業と埋蔵文化財保護との調和は、積年の課題となっている中で、開発事業に伴う発掘調査は年々増加し、県下においても貴重な文化財が数多く出土している。

そこで本年では、これら県下各地の発掘調査により出土した遺物や関連資料を広く県民に公開展示して、県民文化の向上と埋蔵文化財の保護思想普及啓蒙に努めているところである。

今年度は、特に三重県の黎明期にあたる縄文時代に焦点をあて、そのすぐれた資料を紹介する。

2．主催　　三重県埋蔵文化財センター

3．期間　　平成4年8月20日（木）～9月13日（日）9：30～17：00
（入館は16：30まで）
ただし、8月24・31日、9月7日は博物館休館日のため休展

4．場所　　斎宮歴史博物館　特別展示室（多気郡明和町竹川　503番地）

5．展示テーマ　「三重の縄文時代」
近年、発掘調査の進展により、本県においても、縄文時代の貴重な資料が増大している。このため、今回は本県の縄文時代全般に焦点をあて、最新の成果を含めて展示を行う。

6．研究集会
・日　時　　平成4年8月30日（日）10：00～16：30
・場　所　　斎宮歴史博物館　講堂
・テーマ　　「前半期押型文土器の諸問題」
近畿地方の縄文時代早期前半の土器編年等について再検討を行う。
・発表者　　松田　真一（橿原考古学研究所）、会田　進（岡谷市教委）ほか

7．入場料　　埋蔵文化財展・研究集会は無料

8．主な展示物

資料名	出土地	所蔵者
尖頭器・削器・石核	上ノ広遺跡	三重県
矢柄研磨器	西江野遺跡	菰野町
深鉢・土偶	大鼻遺跡	三重県
深鉢・石鏃	鴻之木遺跡	三重県
壺	北一色遺跡	鈴鹿市
深鉢・石棒・耳飾	森添遺跡	度会町
深鉢・土偶	下川原遺跡	名張市
深鉢	大川遺跡	橿原考古学研究所
深鉢	神並遺跡	東大阪市
深鉢	向陽台遺跡	塩尻市

4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載許可

資料名	申請者	目的	期間	許可日
納所遺跡出土弥生土器の閲覧	伊藤偵樹	調査研究		4／10
大藪遺跡方形周溝墓遺構写真等3点	郷土出版社	「図説　伊勢・志摩」への掲載		4／10
西出遺跡出土縄文土器等の閲覧	岡田登	調査研究		4／21
赤坂遺跡出土土器ほか縄文関係資料の実測・拓本	前川友秀	論文作成		4／17
北切遺跡出土石器等の実測	石黒立人	調査研究		5／21
天華寺廃寺出土瓦他の閲覧・撮影	上田睦　ほか	調査研究		6／6
橋垣内遺跡遺構写真1点	津市教育委員会	「津市政だより」7/1号への掲載		6／11
下郡遺跡出土鋸1点	国立歴史民俗博物館	調査研究	5/26～6/5	6／11
天保遺跡出土縄文土器等の閲覧	新田剛	調査研究		6／12
蛇亀橋遺跡出土縄文土器等の閲覧	名古屋市立博物館	展覧会準備調査		6／19
塩崎遺跡出土遺物の実測・拓本	山本雅靖	調査研究		6／23
坂倉遺跡遺構写真等4点	多気町教育委員会	「多気町史（通史）」への掲載		7／13
鴻之木遺跡遺構写真1点	第2アートセンター	「考古学の世界」第3巻への掲載		7／13
天華寺廃寺出土瓦の実測・撮影	廣岡孝信	論文作成		7／13
城之越遺跡遺構写真2点	上野市教育委員会	写真パネルの作成		7／15
土師南方遺跡出土資料等44点	鈴鹿市教育委員会	埋蔵文化財展「国府と国分寺の時代」での展示	8/20～8/23	7／27
中之庄遺跡出土弥生土器等の実測・拓本	坂口隆	論文作成		8／31
納所遺跡出土木製琴写真2点	橿原市教育委員会	特別展「木製の琴」での展示	10/24 11/29	9／7
北城遺跡出土土符の実測・拓本	山本雅靖	調査研究		8／28
久居古窯跡出土須恵器の閲覧	中原幹彦	調査研究		9／9

木下古墳出土獣帯鏡写真１点	財）三重県長寿社会推進センター	「みえ長寿社会大学卒業記念文集」の表紙に掲載		9／10
御墓山古墳航空写真等24点	郷土出版社	「伊賀の歴史」への掲載		9／10
古市・中之地蔵町出土遺物の閲覧	小嶋廣也　他	調査研究		9／10
大石遺跡出土土器等24点	三重県社会科教育研究会	「三重のあゆみ」『ビジュアル歴史』への掲載		10／5
城之越遺跡出土土器写真１点	伊勢志摩編集室	「伊勢志摩」10月号への掲載		10／5
下之庄遺跡出土遺物等の閲覧	佐藤由紀男	調査研究		10／5
田中廻り遺跡出土縄文土器他の実測	奥　義次	「多気町史（通史）」への掲載		10／5
東庄内Ｂ遺跡出土遺物の実測・撮影	鵜飼堅証	論文作成		10／7
ヒタキ廃寺出土遺物実測図等２点	東海埋蔵文化財協会	東海埋蔵文化財協会岐阜大会資料への掲載		10／12
城之越遺跡航空撮影パネル等１２点	農林水産部農村整備課	第３回三重県職と緑のフェスティバルでの展示	11/7～11/8	10／29
納所遺跡出土遺物等１５点	名古屋市博物館	企画展「縄文から弥生へ」での展示及び図録への掲載	12/10 ～2/21	11／4
東庄内Ｂ遺跡遺構写真等１１点	四日市市教育委員会	常設展示でのグラッフィック処理およびパネル展示・図録への掲載		11／4
納所遺跡出土遺物等の閲覧・実測	日岡庸子	論文作成		11／4
城之越遺跡遺構フィルム等38点	上野市教育委員会	前田文化会館オープニングイベントにかかる埋蔵文化財出陳	11/5～11/27	11／11
池之上遺跡出土遺物等16点	松阪市西黒部公民館	地区文化祭での展示	11/20～11/25	11／11
花ノ木遺跡出土遺物等	多気町教育委員会	「多気町の遺跡めぐり展」での展示	1/11～2/15	1／8
下郡遺跡出土鋸の写真１点	神奈川科学技術アカデミー	第４回ＫＡＳＴ科学技術講演会での展示	1/29～1/31	1／8
女牛谷遺跡出土遺物等の閲覧	赤塚次郎	調査研究		12／8
霧山城跡航空写真等６点	美杉村教育委員会	保存整備事業の参考のため		1／12
清水西遺跡遺構写真等	安濃町史編纂協議会	安濃町史への掲載		2／1
天白出土遺物等の閲覧	林譲作ほか	調査研究		12／10
城之越遺跡出土遺物等の	坂之和信	調査研究		1／18

閲覧				
石風呂の写真１点	ＮＨＫ名古屋放送局	「とうかい見聞伝」での使用	3/4	3／1
大蓮寺跡出土瓦等の閲覧	坪之内徹	調査研究		3／6
六大Ｂ遺跡遺構写真１点	津市教育委員会	「津市政だより」5/1号への掲載		3／8
蛇山遺跡出土中世遺物等の閲覧	葛飾区郷土天文の博物館	展覧会開催準備		3／15
浦ノ木遺跡出土縄文土器等１９点の実測・撮影	玉城町教育委員会	「玉城町史」への掲載	3/26～5/10	3／22
起Ａ遺跡出土弥生土器等２点	鈴鹿史教育委員会	鈴鹿市稲生民俗資料館での展示	3/23～6/22	3／22

斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺跡名	遺物名
大安中世墓	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔(1式)
丹生川上城跡	蔵骨器(1)
西ケ広遺跡	異形硯(1)
東庄内A遺跡	縄文土器：深鉢(1)
東庄内B遺跡	縄文土器：台付鉢(1) 壺棺墓：壺(1) 甕(1) 台付鉢(1)
	方形周溝墓出土：壺(1) 石器：石包丁(1)
上箕田遺跡	直柄鋤(2)
神大寺遺跡	石器：石斧(1)
川原井瓦窯	伊勢国分寺式軒丸瓦(1) 軒丸瓦(1)
川原井遺跡	灰釉陶器：浄瓶(1)
柴崎遺跡	土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壺(1)
大鼻遺跡	土偶(1)、子持勾玉(1)
井田川茶臼山古墳	須恵器：器台(5) 台付壺(4) 壺(7) 甕(1) 装飾台付壺(1) (1)
	有蓋高杯(2) 有蓋高杯蓋(2)
	土師器：壺(1)
	馬具：杏葉(4) 鏡板(2) 辻金具(2) 銅鈴(1)
上椎ノ木古墳	四神鏡(1)、石製壺(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34)
木下古墳	獣帯鏡(1)
柳垣内遺跡	蔵骨器(1)
大塚古墳	水晶切子玉(11) 玉管玉(4)
浄土寺南遺跡	円面硯(1)
納所遺跡	弥生土器：彩文壺(1) 黒色壺(1) 手焙型土器(1) パイプ型土器(1) 壺(1)
	片口鉢(1) 台付壺(1)
	木製品：琴(1) 箆状木製品(1) 木鐸(1) 斧の柄(2) 鋤(4) 鍬(2)
	直柄鋤(1) 櫛(1) 石器：石斧(6) 石包丁(4) 石小刀(3)
亀井遺跡	双脚壺(1)
太田遺跡	銅鐸型土製品レプリカ(1)
鳥居本遺跡	方形周溝墓：壺(1)
午前坊遺跡	瓢壺(1)
堀ノ内遺跡	縄文土器：深鉢(1)
天華寺廃寺	塑像(1) 仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、ヘラ描き軒平瓦(1)
東野遺跡	線刻礫(1)
堀田遺跡	円面硯(1)
中ノ庄遺跡	馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1)
杉垣内遺跡	石器：石包丁(1) 木製品：人形(2) 櫛(1) 斎串(11)
	土馬(4)、ミニチュア土器：壺(7)
伊勢寺廃寺	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
深長古墳	土師器：壺(1)
横尾墳墓群	経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1)
養徳寺遺跡	柿経(1式)
崎谷遺跡	五輪塔(1)、石仏(2)
牧瓦窯	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
牧中世墓	石仏(1)
河田古墳群	土師器：高杯(3) 甕(1)、須恵器：杯蓋(2) 杯身(2) 高杯(2) 壺(3)
東裏遺跡	土師器：杯「中臣」(1) 椀(1) 青磁：椀(1)
カウジデン遺跡	土馬(1) 土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1)
	黒色土器：椀(1)
神前山古墳	円筒埴輪(1)、須恵器：二重 (1) 鳥形 (1)
寺垣内遺跡	独鈷石(1)
西出遺跡	土板(1)
大藪遺跡	方形周溝墓：壺(1)
樋ノ谷遺跡	状耳飾(1)
東畑中世墓	蔵骨器(2)
東山古墳	土師器：高杯(1) 器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2) 鉄剣(1)
北掘池遺跡	木製品：槌(1) 鍬(3) 剣型木製品(1) 舟型木製品(2)、円面硯(1)
北切遺跡	方形周溝墓：壺(1)
前山古墳	銀象嵌刀装(2)
小上野西谷遺跡	土製勾玉(1)
歌野遺跡	製塩土器(2)
辻垣内遺跡	縄文土器深鉢(1)

V．行政資料

1．埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化について（通知）

教　文　第 174 号
平成５年１月29日

各市町村教育委員会教育長　様

三重県教育委員会教育長

埋蔵文化財関係の事務処理の迅速適正化について（通知）

平素は文化財保護にご尽力をいただきありがとうございます。

さて、このことについては、文化財保護法第57条、第98条等で届出及び通知が定められておりますが、事務処理を迅速適正におこなうようご留意ください。特に、遺物の発見や発掘調査終了後は、遺失物法第１条第１項の規定による遺物の発見届を警察署へ必ず提出し、文化財の認定を受ける必要がありますので遺漏のないようお願いします。

2．県・市町村別の発掘調査件数および面積の実績

		県関係				市町村関係								
		ほ場整備・農道等	道路・河川等	その他	小計	土地改良等	道路・河川等	ゴルフ場	団地・個人住宅	工場造成等	土取り等	その他	小計	合計
昭和	件数	2	1	1	4	1	5	0	5	1	7	0	19	23
45年度	面積	300	200	3,000	3,500	100	500	0	2,600	100	2,500	0	5,800	9,300
昭和	件数	4	3	2	9	1	2	0	6	0	4	2	15	24
46年度	面積	2,500	6,400	8,700	17,600	100	3,300	0	3,500	0	900	1,200	9,000	26,600
昭和	件数	10	3	4	17	2	2	0	12	2	3	2	23	40
47年度	面積	4,300	2,500	3,400	10,200	3,500	400	0	4,400	1,100	600	2,500	12,500	22,700
昭和	件数	6	2	2	10	1	0	0	6	0	2	0	9	19
48年度	面積	100	1,000	300	1,400	100	0	0	2,700	0	1,500	0	4,300	5,700
昭和	件数	0	1	2	3	5	2	0	7	3	2	4	23	26
49年度	面積	0	100	6,400	6,500	3,500	500	0	3,200	200	4,000	1,400	12,800	19,300
昭和	件数	0	3	2	5	2	3	0	3	0	3	5	16	21
50年度	面積	0	4,600	5,200	9,800	2,300	800	0	12,900	0	3,400	800	20,200	30,000
昭和	件数	2	2	1	5	0	4	0	7	2	4	4	21	26
51年度	面積	600	2,000	600	3,200	0	3,400	0	17,000	10,500	500	2,700	34,100	37,300

		県関係				市町村関係								
		ほ場整備・農道等	道路・河川等	その他	小計	土地改良等	道路・河川等	ゴルフ場	団地・個人住宅	工場造成等	土取り等	その他	小計	合計
昭和	件数	6	3	1	10	2	9	0	11	1	0	2	25	35
52年度	面積	3,700	10,100	2,500	16,300	3,000	9,300	0	34,100	400	0	600	47,400	67,300
昭和	件数	12	5	1	18	3	5	0	7	2	3	2	24	42
53年度	面積	12,500	16,200	4,100	32,800	800	5,000	0	22,600	1,100	4,000	2,000	35,500	68,300
昭和	件数	14	4	2	20	10	1	0	9	1	3	7	31	51
54年度	面積	26,700	8,600	8,300	43,600	10,200	1,300	0	15,000	1,100	8,500	6,600	42,700	86,300
昭和	件数	30	4	2	36	7	4	0	6	2	2	9	30	66
55年度	面積	19,500	4,700	8,200	32,400	5,400	1,200	0	8,100	800	1,700	8,400	25,600	58,000
昭和	件数	22	4	1	27	9	3	0	7	2	4	17	42	69
56年度	面積	17,100	7,100	5,800	30,000	3,400	1,300	0	13,800	600	100	11,500	30,700	60,700
昭和	件数	19	3	1	23	5	5	0	7	2	2	14	35	58
57年度	面積	26,600	1,600	6,700	31,900	11,800	4,700	0	26,600	1,200	3,400	7,000	54,700	86,600
昭和	件数	12	7	1	20	7	2	0	10	1	2	12	34	54
58年度	面積	32,100	6,000	5,600	43,700	17,900	2,100	0	34,600	900	300	7,500	63,300	107,000
昭和	件数	7	11	1	19	9	6	0	10	0	0	3	28	47
59年度	面積	18,800	27,800	6,700	53,300	5,600	7,500	0	40,600	0	0	1,500	55,200	108,500
昭和	件数	18	18	1	37	8	4	0	6	6	4	7	35	72
60年度	面積	25,400	31,800	6,700	63,900	3,100	400	0	4,900	1,500	2,300	4,200	16,400	80,300
昭和	件数	33	18	1	52	2	11	0	3	4	0	3	23	75
61年度	面積	58,000	40,100	7,300	105,400	8,700	15,200	0	2,900	6,600	0	1,000	34,400	139,800
昭和	件数	25	16	2	43	2	3	1	7	4	1	12	30	73
62年度	面積	41,200	96,500	7,100	144,800	2,300	7,100	100	12,000	6,100	300	12,400	40,300	185,100
昭和	件数	39	15	1	55	6	3	1	14	3	1	11	39	94
63年度	面積	44,500	39,600	4,900	89,000	1,300	1,200	900	16,000	9,900	1,000	23,900	54,200	143,200
平成	件数	33	21	1	55	3	12	1	13	4	3	15	51	106
元年度	面積	33,300	80,400	4,400	118,100	1,800	15,900	300	30,500	6,800	3,400	16,200	74,900	193,000
平成	件数	30	32	1	63	9	9	2	20	10	5	13	68	131
2年度	面積	33,300	53,700	4,300	91,200	16,900	19,700	3,500	27,900	15,400	8,000	17,300	108,700	199,900
平成	件数	28	15	1	44	9	14	2	40	13	0	14	92	136
3年度	面積	29,300	24,700	4,000	58,000	13,700	10,100	10,200	51,800	12,400	0	9,800	108,000	166,600
平成	件数	44	41	9	94	6	13	4	38	17	3	28	109	203
4年度	面積	29,800	24,000	4,000	57,800	13,700	14,000	15,600	15,400	45,200	500	8,000	112,400	170,200

※ 同一遺跡を調査した場合も、調査期間・原因が異なる場合は別件とした。

3．埋蔵文化財発掘調査にかかる開発事業等との調整状況記録作成要領

1　当記録は埋蔵文化財保護のために開発事業等との調整状況を記録することで、事務手続きの迅速化と適正化を図るとともに、今後の開発事業に対する文化財保護の資料として活用することを目的とする。当記録は、遺跡台帳に基づき各遺跡ごとに記入するものとする。

2　当記録の作成は発掘調査担当機関で作成し、県文化振興課へ遺跡台帳の写し（表裏）とともに1部提出するものとする。57条の提出による発掘調査は市町村教委で作成し提出する。記録用紙はA4横書きとする。

3　提出時期は、発掘調査が終了し、遺物発見届けを警察へ提出するまでとし、文化財の認定迄には県文化振興課に提出されていること。

4　周知・発見はいずれかを丸で囲む。規模は○○㎡、あるいは○○m×○○mと記入する。遺跡番号は遺跡台帳の番号を記入するが、県・市町村ともにある場合は両者を記入する。

5　所在地は小字まで記入する。調査の種類は丸で囲む。学術は開発行為を伴わないものとし、57条-1調査届による調査ではない。

6　開発事業名はできる限り詳細に記入する。開発目的は57条の通知・届出の区分による。工事主体は57条の通知者・届出者名とする。

7　発掘調査主体は、57条の届出者、98条-2の通知者とする。調査担当者氏名は調査主体と異なる場合は機関名も併せて記入する。

8　発掘調査費用は、報告書作成費用も含める。また、複数年度の場合は、各年度毎に2段書き等で区分する。

9　協議開始等の年月日は、該当が無い場合、及び期日等未定の場合は空欄とする。調査委託契約は行政間の場合は執行委任とする。

10　57条工事届等は土木工事に伴う発掘の届出・通知の年月日を記入する。業者は開発工事主体者をさす。指示の内容は県からの通知の指示内容を転記する。

11　調査届・通知等は57条及び98条-2の調査のための発掘調査の年月日を記入する。現地協議年月日は発掘調査に入る前に現地での調査にかかる協議があった場合のみに記入する。

12　調査開始、終了等の欄は、現地での発掘調査の年月日を記入する。所要期間は実働（予定）日数を記入する。工事着手、完了は未定の場合空欄とする。

13　遺物発見届以下は、その都度県文化振興課で記入するので空欄のままとする。市町村等の控えには各市町村で記入しておくこと。

14　事業者との協議経過及び内容は簡潔に要約して記入する。

15　事業者の意見、教育委員会の意見欄は特筆すべき事項がある場合のみ記入する。
例、教育委員会の意見B地区の調査は開発協議の調整のための遺構配置の確認調査を中心とする。

16　その他の欄では、発掘調査着手及び終了が著しく遅延した場合の要因等や調査後の保護協議による事業変更や保存計画等を記入する。

17　発掘調査結果概要は、時代と主な遺構、主な遺物を簡潔に記入する。

18　開発工事後遺跡状況図は、開発事業後の図面あるいは計画図面に遺跡範囲・発掘範囲・試掘位置を明記した地図を作成し添付する。地図が大きい場合は縮小して添付すること。掲載範囲は遺跡全体が含まれていることが好ましいが、広大な遺跡の場合はその限りでない。

なお、遺跡範囲は太線で囲み、発掘区は黒塗、試掘位置は黒点で示すものとする。現況図を使用する場合は計画線は破線で表記する。

『埋蔵文化財発掘調査にかかる開発事業等との調整状況記録』

（フリガナ） 遺跡名		区分	周知 発見	規模	㎡	県遺跡No. 市町村No.	
所在地	三重県			調査の種類	調査・試掘・立会・学術	事業者との協議経過及び内容	
開発事業名		開発目的		工事主体	開発面積		
					㎡		
発掘調査主体		発掘調査機関・担当者氏名			発掘調査面積		
					㎡		
発掘調査費用	左の財源	事業者	国庫補助	県補助	市町村費	現物供与等	事業者の意見
千円		千円	千円	千円	千円		教育委員会の意見
協議開始		協議終了		保護措置書		調査委託契約	
年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	その他 （発掘調査着手及び終了が遅延した場合の要因等、調査後の保護協議による事業変更等）
57条工事届出等	市町村教委推達	県からの通知		市町村教委受理		業者への指示	
年 月 日	年 月 日	年 月 日		年 月 日		年 月 日	
指示の内容	発掘調査 立会い 慎重工事 その他（ ）						
調査届・通知等	文化庁受理通知書	県からの通知		市町村教委受理		現地協議年月日	
年 月 日	年 月 日	年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	調査開始	調査終了		所要	工事着手	工事完了	発掘調査結果概要 （主な遺構と出土遺物）
予定	年 月 日	年 月 日		日	年 月 日	年 月 日	
実績	年 月 日	年 月 日		日	年 月 日	年 月 日	
遺物発見届出	文化財認定通知	出土遺物譲与申請		文化庁譲与通知		県からの通知	
年 月 日	年 月 日	年 月 日		年 月 日		年 月 日	

遺跡名		県遺跡No.		市町村No.	

開発工事後遺跡状況図（遺跡範囲・発掘範囲・試掘位置を明記した開発事業後の地図を添付）

（付１）平成４年度　三重県文化財調査員名簿

地区	氏　名	勤　務　地	住　　所
北勢	伊東春夫		
	片岡雅章	川越高	
	清水弘之	東員第二中	
	川添　譲	桑名高校衛生看護分校	
	桐生定己	中部中	
	鎌田雅生	菰野中	
	鈴木克彦	桑名西高	
	荒木昌俊	笹川東小	
	安川富春		
中勢	河合良成		
	高森英純	戸木小	
	下村純也	三雲中	
	小林和彦	雲林院小	
	三浦儀直	川口小	
	津村善博	久居中	
	小坂宜広	南が丘中	
松阪	榎本義譲		
	世古且守	大河内小	
	岡本好雅	中部中	
	稲本賢治	多気中	
	奥谷義一		
	筒居利久	飯高西中	
	三井博之		
	奥　義次	松阪高	
南志	中西正典	玉城中	
	中馬千鶴	皇学館高	
	高見宜雄	神明小	
	御村精治	度会中	
	中世古一芳	宿田曽小	
	村上喜雄	国崎小	
	山崎富三郎		
	竹内正弘	浜島小	
	川添昭博	東海中	
	河瀬信幸	小俣中	
	谷崎典子	志摩高	
上野	市田進一		
	福井健二		
	仁保晋作	河合小	
	東山則幸	府中小	
	寺岡光三		
	森前　稔	名張中	
	岡嶋久夫	柘植中	
	松鹿昭二	名張西高	
	竹内英雄	比奈知小	
	谷戸　実		
尾鷲	田崎通雅		
	東　成志	三船中	
	山本和彦	長島高	
熊野	福村直人	阿和田小	
	田中安弘	御浜小	
	古部　均	尾呂志小	
	花尻　薫	木本小	